

知と自由への誘い



京都大学 大学案内 2005

京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多面的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。

京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。

京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。

京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。

京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

(平成13年12月4日制定)

教育環境
の充実

京都大学の教育課程	4
新入生向けガイダンスの実施(全学共通教育)	
高等教育研究開発推進機構	
全学共通教育教務情報システムについて	
多彩なカリキュラム	
情報教育	
学術情報メディアセンター	
附属図書館	
人間・環境学研究所総合人間学部図書館	

学生生活
サポート

身体に障害がある方たちへのサービス	10
履修相談	
経済的に困難な方たちへのサービス	
アルバイトの紹介サービス	
学生寄宿舎	
下宿・アパートの紹介サービス	
健康管理について	
学生教育研究災害傷害保険	
京都大学学生健康保険組合	
カウンセリングセンター	
京都大学生協同組合	

課外活動

多彩なクラブ・サークル活動	13
---------------	----

留学生
交流

京都大学国際教育プログラム	14
授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定校への 派遣留学について	

大学院
進学

大学院への進学	16
大学院のカリキュラム	
開かれた大学院を目指して	
独立研究科	
法科大学院について	
学部第3学年から大学院への入学について	

キャリア
サポート

キャリアサポートセンター	18
インターンシップ	
創造の場を提供するベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	
関西テクノアイデアコンテスト	
教育プログラム	
ベンチャー起業支援システム	

学部紹介

総合人間学部	— 22	22
文学部	— 26	
教育学部	— 30	
法学部	— 34	
経済学部	— 38	
理学部	— 42	
医学部	— 46	
薬学部	— 52	
工学部	— 56	
農学部	— 60	

DATA
資料請求

平成16年度入試選抜実施状況	64
平成16年度出身高校等所在地別 志願者・入学者数	
平成16年3月卒業者の産業別就職状況	
入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法について	

キャンパス
案内

キャンパスマップ・交通案内	68
---------------	----

Kyoto University
Open Campus

京都大学オープンキャンパス

本学では、京都大学受験を志望する方に京都大学を直接知ってもらうための広報活動として、平成14(2002)年度から年に一度、夏休みを利用して2日間の日程で「京都大学オープンキャンパス」を実施しています。

このオープンキャンパスは、本学各学部の教育研究の紹介・模擬授業体験・施設見学や入試・学生生活・留学・就職などの各種相談等を通して、受験生の皆さんに本学を実感していただく場となっています。

近畿を中心に全国から参加があり、平成15(2003)年度には延べ約7,700名の受験生・保護者・学校関係者等の参加を得ました。多くの参加者から「有意義であった」と好評をいただいています。

平成15年度オープンキャンパスの様子は、<http://www.kyoto-u.ac.jp/top2/16-top.htm>でもご覧いただけます。

(問い合わせ先：学生部入試課企画調査掛
Tel.075-753-2523)

快適なキャンパス環境づくりを目指して

百周年時計台記念館を望む本部キャンパス正門横に 2003 年 5 月オープンしたカフェレストラン「カンフォーラ」は学生や教職員だけでなく、地域の方々や来訪者にもご利用いただいております。その明るくモダンなイメージは、京都大学のキャンパスの景色を一変させました。

また、2004 年 5 月には附属図書館内に映像や音声情報・音楽を学習や研究に活用するほか、読書や勉強で疲れた頭を音楽や映像で癒し、リフレッシュするための場所として「メディア・コモン」が完成しました。

京都大学では、これからもより快適で安心して学習に取り組むことができるキャンパスづくりを目指していきます。



歴史と伝統を継承しつつ、

桂キャンパスの開校

2003 年 10 月、京都の西部、桂御陵の 37ha の丘陵地に、京都大学桂キャンパスが開校しました。これにより、これまでの吉田地区、宇治地区のキャンパスと合わせて、京都市街中心部を取り囲むトライアングル構造の教育研究拠点形成への第一歩を踏み出しました。

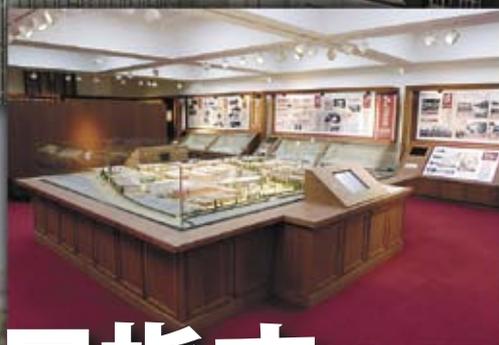
同キャンパスでは、平成 16 年 4 月現在、工学研究科の電気系・化学系専攻を中心に約 1,000 名が教育・研究活動を行っています。さらに、今後数年をかけて吉田キャンパスから工学研究科建築学専攻、地球系専攻、物理系専攻、情報学専攻、国際融合創造センターが、順次移転し、完成時の桂キャンパスは約 4,000 名が活動する、科学と技術が融合する「テクノサイエンス・ヒル」が形成されます。



百周年時計台記念館

1925年に竣工し、京都大学のシンボルとして長きにわたり親しまれてきた時計台は免震工事を中心とした改修工事を終え、2003年12月に百周年時計台記念館として生まれ変わりました。

館内には京都大学の創立から今に至るまでの京都大学の歴史を紹介する「歴史展示室」、フレンチレストラン「ラトゥール」、京都大学グッズや京都大学教員の出版物などの販売を行う「京大ショップ」などを備えています。また、800人が収容できる「百周年記念ホール」では、国際・国内学会、シンポジウムのほか、一般の皆様にも参加いただける「京大未来フォーラム」を定期的に開催するなど、百周年時計台記念館は社会と大学との学問的交流を実現するインターフェースとして、広く学内外に開放され、利用されています。



弛まぬ努力で先進を目指す。



生存圏研究所の発足

京大大学生存圏研究所は、旧木質科学研究所と旧宙空電波科学研究中心を統合・再編して平成16年4月1日に発足した新研究所です。人類の生存に必要な領域と空間を「生存圏」としてグローバルにとらえ、その状態を正確に「診断」するとともに、それに基づいて現状と将来を学術的に正しく評価・理解し、さらにその生存圏の「治療・修復」を積極的に行うことを目指した研究を行います。

生存圏研究所は、社会的な要請を背景にして、人類の生存と繁栄を脅かす諸問題の解決に取り組みます。そのために農学系、工学系、情報学系、理学系、生命科学系など多様な背景を持った研究者が相互に連携しながら、戦略的に生存圏問題に取り組みます。



「自由の学風」のもと、主体的な学習への取り組みを促すカリキュラム構成

京都大学の教育課程

京都大学は、自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできており、その教育課程は、学生個人々の自発自啓を基本精神として、教養教育と専門教育を系統的に編成したものになっています。4年間(医学部医学科は6年間)の一貫性を持った教育カリキュラムに基づいて、学生は早い時期から自ら学ぶ姿勢を身につけ、積極的に研究活動に携わることができます。

また、平成13年に定められた本学の「基本理念」は、教育に関わる項において、

◎ 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。

◎ 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

と述べています。

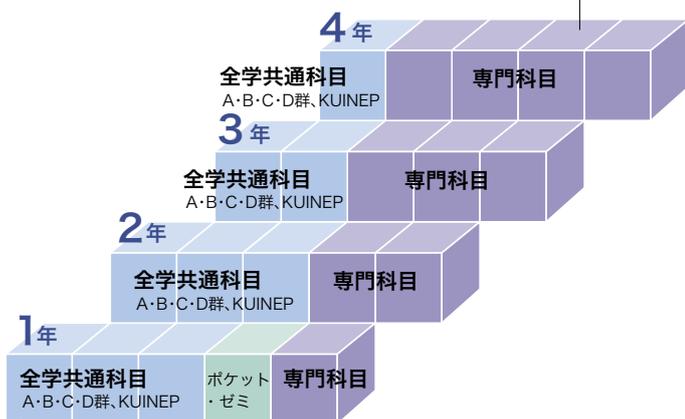
授業科目は、教育の目的・内容により、教養科目と専門科目に区分されます。

教養教育は主に「全学共通科目」に具体化され、A群(人文科学・社会科学系科目)、B群(自然科学系科目)、C群(外国語科目)及びD群(保健体育科目)の区分のもとに、基礎から高度な内容にわたって多種多様な科目が提供されています。これをもとにして各学部は卒業に要する単位数を定めていますが、それらの科目選択は基本的には学生の自由意志に委ねられています。

専門科目

学部科目(専門科目)は、各学部の教育方針に基づき、1年次から学部での専門科目を配当しています。なお、他学部の専門科目も受講することができます。

*学部の専門科目については、学部紹介のページをご覧ください。



全学共通科目

平成16年度は、人間・環境学研究科と理学研究科を中心に、各学部、研究科、研究所及びセンター等から889科目の提供があり、内訳は次のとおりです。

A群(哲学・思想、歴史、文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化学、社会科学等の系列科目)：346科目

B群(数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学等関連科目)：353科目

C群(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語[留学生対象])81科目

D群(健康科学・スポーツ実習等)：8科目

国際教育プログラム(KUINEP)：21科目

各群共通：80科目

新入生向けガイダンスの実施(全学共通教育)

全学共通教育(教養教育)の全学的な責任組織である高等教育研究開発推進機構では、全学部(10学部)の新入生を対象として「全学共通教育に係る新入生向けガイダンス」を実施しています。

このガイダンスにおいて、本学の教育課程及び「自由の学風」に根ざした教育理念、さらには学生個人々の自学自習を基本精神とした教養教育の目的・目標等の紹介並びに総合大学としての特徴を生かした各学部、研究科、研究所及びセンターが提供する889科目に及ぶ多様な全学共通(教養)科目の選択の仕方や適正な履修方法について説明を行っています。



高等教育研究開発推進機構

高等教育研究開発推進機構は、全学共通教育を全学的な立場から企画・運営する責任組織です。「機構」においては、本学が掲げる教養教育の目的を達成するため、幅広い基礎教育の充実、外国語教育の改善、学生の自主的な勉強意欲を引き出す教育環境の活性化に取り組んでいます。

[本学の教養教育の目的]

◎ 学術的教養

学生個人々が学問と向き合うことを通して、高い自律性、優れた価値基準、豊かな人間性を獲得すること。



◎ 文化的言語力

グローバル社会における指導的活躍の基盤となる異世界文化理解と外国語運用力の修得。



◎ 基盤的知力

学術研究の専門家として、また社会における指導的活動の強固な基盤となる幅広い基礎知識・技術・技能の修得。

ティーチングアシスタントが自主的な学習を支援してくれる Student Research Room

全学共通教育教務情報システムについて

高等教育研究開発推進機構の新たな試みとして、全学共通科目にかかわる全ての教務情報のIT化に取り組んでいます。この取り組みは、学生への情報伝達や学生の履修登録、さらには教員のシラバスやメッセージ入力などを電子化することにより、学生への迅速な情報周知や学生サービスの充実を目的としています。具体的には、以下のシステムが稼動しています。

◎ 新電子掲示板システムの運用

各学部に設置している全学共通教育用のプラズマディスプレイの掲示板から、休講情報、補講情報、教室変更、教員変更、曜日時限変更、試験情報、学生の呼び出し情報、緊急情報が得られます。



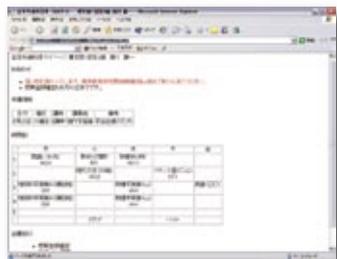
◎ WEB 掲示板の公開

電子掲示板と同じ内容+αをWEBページで公開しています。通常のWEBページだけでなく、携帯電話からのアクセスも可能になっています。

◎ 全学共通科目学生用マイページの開設

学生個別の情報伝達システム(全学共通科目マイページ)を開設しています。具体的には、学生個々人が履修している科目についての休講情報、教室変更、さらには定期試験の時間割、レポートの提出期限の情報を得ることができます。

今後は、さらに履修登録をWEBで行うことを計画しています。



共通教育推進部教務掛

TEL (075) 753-6508,6509,6510

e-mail: kyomu882@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kiko/

多彩なカリキュラム

新入生向け少人数セミナー (ポケット・ゼミ)

新入生対象に、各学部・研究科・研究所・センター等の教員がフェイス・トゥ・フェイスの親密な人間関係の中で、様々な形態の授業を行うものです。異なる専門分野の教員と接することにより視野を広げ、人間・社会・自然について深く考える力を養成することになります。



授業は、歴史、地理、古典の講読や環境・資源・宇宙・医学等の最先端の研究成果の紹介、野外実習など総合大学ならではの豊富なメニューです。

平成16年度は、「情報化社会を考える」、「映像作品を作ろう」、「医療と薬」、「ブラックボックスを開けよう」、「チンパンジー学集中実習」等138科目を開講しています。

外国語教育

英語や仏語等では、2回生向けとしてコンピュータ支援型英語学習(CALL:Computer Assisted Language Learning)のクラスを設けています。これは、最新教育システムを駆使して、個々の学生の能力にみあった徹底的な読解、作文、ヒアリング能力の総合的な向上を図るものです。

また、外国語実習等では、外国人教師(英語:14名、ドイツ語:3名、フランス語:9名、中国語:13名、ロシア語:1名、スペイン語:2名、イタリア語:1名)による授業も行っています。



京都大学国際教育プログラム (KUINEP)

海外の協定校より迎えた30余名の留学生とほぼ同数の日本人学生に、学際的・先端的なテーマを学際的な講師陣が英語で講義を行っており、学部によっては卒業に必要な単位(1-2単位)に認定しています。

平成15年度は、「日本の社会」、「21世紀の都市」、「エネルギー・資源」等21科目を開講しています。

コンピュータリテラシーの習得を目指す情報教育とその支援を行う学術情報メディアセンター



情報教育

京都大学では、理工系学部のみならずほとんどの学部において基礎情報処理教育が行われています。その内容はいわゆるコンピュータに関する読み書き能力を中心としたものです。理工系学部によってはこれらの教育を専門基礎科目として、あるいは、全学共通科目のB群科目としていますが、文系学部ではさらに初歩的なレベルからの教育も行っています。

また、実践機関として学術情報メディアセンターがあり、情報リテラシー教育支援、語学教育支援、遠隔講義支援、コンテンツ作成支援等を行い、全学共通科目を中心としながら、各学部での専門教育におけるメディア技術をも促進しています。

学術情報メディアセンター

学術情報メディアセンターは、「エクセレント・ユニバーシティ」に相応しい統合化された情報基盤の構築を目的に設立されたセンターです。当センターでは学内外を高速のネットワークで結ぶ学術情報ネットワーク(KUINS)、大規模科学技術計算やコンピュータシミュレーションなどの学術研究のために最先端のスーパーコンピューティングサービスを全国の大学等の研究者に提供する大型計算機システムや学術データベースのサービス、京都大学での教育を支援する教育用計算機システム、語学学習(CALL, Computer-Assisted Language Learning)システム、遠隔講義支援サービス、コンテンツ作成支援サービスなどネットワークインフラストラクチャからコンテンツに至るすべての階層における情報サービスを総合的に提供しています。

また、5部門12分野からなる研究開発部では、「情報ネットワーク社会と実世界のシームレスな統合」を指針に、ネットワーク、コンピュータ、データベースなどから構成される情報ネットワーク社会の高度化や教育研究の現場と情報ネットワーク社会とのマルチメディア情報技術による双方向・リアルタイムの統合を目指した研究開発を進めています。

本センターの展開するサービスの中でも、学生の皆さんにとって最も身近なものは教育用計算機システムと語学学習システムそして遠隔講義支援サービスです。

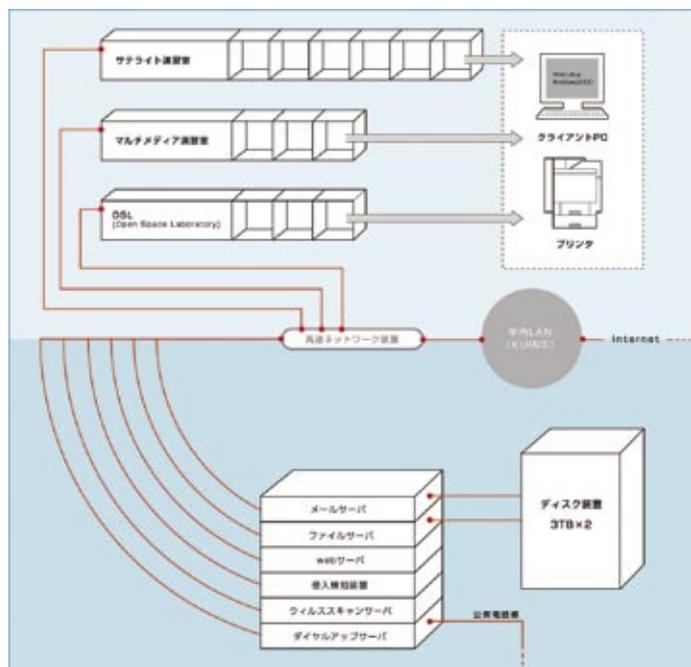


バーチャルスタジオによる映像教材の撮影

教育用計算機システム

教育用計算機システムではネットワークに接続されたパーソナルコンピュータを本センター南館内の演習用マルチメディア設備を備えた教室や学内 19 箇所のサテライト端末室に展開するとともに、その一部は利用者がいつでも使える自習用端末として、本センター南館、附属図書館、総合人間学部図書館内に設置してオープンスペースラボラトリー (OSL) として運用しています。また、利用者には電子メールのアカウントが与えられ、WWW ブラウザを利用した Web メールシステムにより学内だけでなく、学外からもメールの読み書きが行えます。このようなサービスにより、授業と自習とに統合的な情報環境を提供するとともに、電子メールや WWW を利用したコミュニケーション環境を提供しています。

教育用計算機システム・OSL のサービス時間
月～金 :10:00 ～ 20:00



教育用計算機システム システム構成図

語学学習システム

語学学習システムではコンピュータによる音声や画像などのマルチメディア処理技術を活かした語学学習環境を本センター南館内の語学実



習 CALL 教室として展開するとともに、語学教材を自習できる端末を本センター南館内の OSL にも設置しています。

CALL 自律学習用端末では、本センターで開発された *Introduction to the Beauties of Kyoto* を始め、本学教員が開発した英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの自律学習用外国語教材、またライセンス取得済みの市販教材の一部の学習をすることができ、学生にとっては必須の環境となっています。

上：CALL 自律学習用端末の利用風景
下：CD-ROM 版 CALL 教材



遠隔講義支援システム

遠隔講義支援サービスでは吉田・宇治・桂キャンパスを含む学内 15 箇所にサテライト講義室を設け学内での遠隔講義の運用を支援しています。このほか衛星回線を用いて国内の大学・研究機関を結ぶ遠隔講義システム SCS の運用の支援や 1998 年から行われているカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) との共同で両校の学生がネットワークを介して一緒に授業に参加できる遠隔講義プロジェクト TIDE (Trans-Pacific Interactive Distance Education) を支援しています。これらの施設を利用した遠隔講義は全学共通科目としても開講されており、学年や学部にかかわらず受講できる体制となっています。



UCLA との遠隔講義 TIDE

学内には附属図書館をはじめ、宇治分館と 50 箇所に学部及び学科図書館・室があります。



附属図書館

附属図書館は学習支援と研究支援機能を持ち、学生、教職員をはじめ、学術情報を必要としている人々に広くサービスを行っています。IT時代にふさわしい図書館をめざして、情報リテラシー教育、新入生のためのオリエンテーション、留学生のためのオリエンテーション等各種講習会を実施しています。

蔵書数は右の表に示されているように、附属図書館では約 85 万冊余、全学で約 600 万冊所蔵しており、創立より 104 年にわたる歴史から、国宝に指定されている「(鈴鹿本) 今昔物語集」をはじめ、古文獻資料、特殊文庫、全集ものコレクション等、貴重なものが数多くあります。また、理工学の外国雑誌センターとして国内未収集の学術雑誌を東京工業大学と連携して収集し、全国の研究者の利用に供しています。最近では、学外からインターネットを介して京都大学附属図書館ホームページにアクセスし、デジタル化した貴重資料や目録情報を検索することができるほか、電子ジャーナルと文献データベースは、学内からアクセスできるようになっています。

館内の施設・設備等

- 閲覧室 1,100 席
- 1 階 端末コーナー
参考図書、雑誌、新聞、ラウンジの各コーナー
- 2 階 開架図書と大閲覧室
- 3 階 情報端末室、メディア・コモン、AV ホール
- 地階 書庫

利用者用パソコン

学術情報メディアセンターのオープンスペースラボラトリとして 80 台のパソコンおよび情報コンセント 64 口があります。このパソコンの利用にあたっては学術情報メディアセンターへの登録が必要です。

蔵書統計 (平成 16 年 3 月 31 日現在)

部局	平成 15 年度 受入冊数			蔵書冊数		
	和	洋	計	和	洋	計
附属図書館	9,634	1,423	11,057	576,557	270,203	846,760
全学	58,821	43,368	102,189	3,032,233	2,889,486	5,921,719

注：全学の蔵書冊数に附属図書館の冊数含む

開館・サービス時間

		4/6 ~ 8/5	夏季休業期間	冬季休業期間
		10/1 ~ 12/23	(8/6 ~ 9/30)	(12/24 ~ 1/7)
開館時間	月～金	9:00 ~ 22:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00
	土・日・祝	10:00 ~ 17:00	—	—
貸出・返却時間	月～金	9:00 ~ 21:00	9:00 ~ 16:45	9:00 ~ 16:45
	土・日・祝	10:00 ~ 16:00	—	—

図書館整備等による休館日 (4/1 ~ 5, 12/25 ~ 28, 1/4 ~ 5)

メディア・コモン (Media Commons)

附属図書館に、映像や音楽が楽しめる「メディア・コモン」が誕生しました。

「メディア・コモン」は、DVD はじめ多種のメディアに対応できるように構想され、勉強や研究に必要な映像や音声情報を活用できるほか、学生や教職員が読書や勉強で疲れた頭を音楽や映像でリフレッシュすることができます。

ガラス張りの広さ 240 m² のスペースに、DVD やビデオ・カセットが見られる 1 人用個人ブースが 16 席、窓越しに時計台や吉田山を見ながら CD、カセットを聞くことのできる 1 人用ソファが 8 席、DVD で映画など 50 インチの大型プラズマ・ディスプレイ画面で迫力ある映像を

楽しむことのできる4人用AVコーナーが2ヵ所等合計32席があり、さらに5.1チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター（防音装置付き、10席）などがゆったりとした空間に配置されています。

京大文学部卒業生である故片田清氏寄贈のCDコレクション4,870枚のほか、DVDが約250点（映画、ドキュメンタリー、音楽）、ビデオが約760点（ドキュメンタリー、言語）などが置かれています。



利用時間

平日 9:00 ~ 21:00
土・日・祝日 10:00 ~ 16:00

設備

1人用AVブース	16席
1人用リスニングソファ	8席
4人用AVコーナー（50インチプラズマディスプレイ）	2ヵ所
数人で利用できるメディア・シアター（50インチプラズマディスプレイ 1台） *グループ利用できます。	1室（10席）

ソフト

CD	音楽	4,875枚
	言語	19枚
	ドキュメンタリー	26枚
DVD	映画	128枚
	音楽	97枚
ビデオテープ	ドキュメンタリー	273本
	言語	486本
カセットテープ	言語	32本

人間・環境学研究科総合人間学部図書館
(略称：人環・総人図書館)

2003（平成15）年4月、大学院人間・環境学研究科及び総合人間学部の統合改組により、人間・環境学研究科総合人間学部図書館と改称されました。総合人間学部と大学院人間・環境学研究科の図書館であると同時に、1・2回生を中心とする全学共通教育にも対応した学習資料を備えた図書館であり、全学の学生・教職員等にサービスを行っています。また、新入生のためのガイダンスを実施しています。

1階閲覧室には7万冊の学習図書・一般教養図書・専門図書・参考図書・新着雑誌等が配架しており、自由に見ることができます。また、英・米・独・仏語等52ヶ国語カセットテープ、CDを用意し、利用に供しています。視聴覚室では、DVD、CD、ビデオ、カセットテープが利用できます。

開館・サービス時間

		1階閲覧室	2階大閲覧室
開館時間	月～金 土	9:00～20:00	9:00～19:00
		10:00～15:00	—

休館日：日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、
京都大学創立記念日（6/18）、冬季休業期間（12/25～1/5）



電子図書館 Web サイト

<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/minds.html>

学外からも上記のURLよりご覧いただくことができます。



貴重資料画像の例：
絵巻物・奈良絵本コレクション
國女歌舞妓絵詞
「お国念佛踊の図」

学習・研究により集中し取り組んでもらうために 学生生活を様々な形で支援します。

身体に障害がある方たちへのサービス

本学では、身体に障害(学校教育法施行令に定める心身の故障の程度)があつて、受験上の特別の配慮を必要とする方のための相談を常時行っています。このときには、入学後における修学上の配慮、更には進路上の相談にも応じています。

なお、内容によっては対応に時間を要することもありますので、この相談を希望する方は、出願前の早い時期に、志望する学部の教務掛へ照会してください。

(照会先については、67 ページを参照してください。)

履修相談

本学では、新入生を対象としたガイダンスを実施しています。全学共通科目については、高等教育研究開発推進機構が4月入学時に「新入生向けガイダンス」を開催しています。専門科目については、各学部において新入生向けガイダンスの実施や教務掛の窓口において履修相談に応じています。(全学共通科目については、共通教育教務掛 [Tel.075-753-6508 ~ 6511] に照会してください。専門科目については、67 ページの各学部教務掛に照会してください。)

経済的に困難な方たちへのサービス

入学料・授業料免除等

(1) 入学料免除

入学前1年以内において、出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、全額又は半額を免除する制度です。

(2) 入学料徴収猶予

経済的理由により入学料の納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付期限までに納付が困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、入学料の徴収を猶予する制度です。

(3) 授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、各期ごとに全額又は半額を免除する制度です。

(問い合わせ先：学生部厚生課学資担当 Tel.075-753-2536)

入学時に要する納付金 (平成 17 年度)

入学料	授業料
282,000 円	(前期分のみ) 260,400 円 (年額) 520,800 円

* 入学時に改定されることがあります。
* 納付金は、全学部において同額です。

奨学金制度

学業成績や人物が優れかつ健康であつて、経済的な理由により就学が困難であると認められる場合に奨学金を申請することができます。

日本学生支援機構奨学金

高校在学中に大学進学後、貸与を受けようとする方に予約採用

が、進学後に採用を希望する方に在学採用の申請方法があります。

なお、第1学年(編入学の入学年次を含む)において希望により、4月の基本月額に定額(300,000円)を増額して貸与する制度があります。申込のできる方は、国の教育貸付け(国民生活金融公庫の教育ローン)を申込んで貸付を受けることができなかつた方が申込みます。

貸与月額 (平成 16 年度)

	自宅通学者	自宅外通学者	採用数(注)
第一種奨学金 (無利子貸与)	44,000 円	50,000 円	218 名
第二種奨学金 (きぼう21プラン) (有利子貸与)	3・5・8・10 万円のうちから選択		196 名

(注) 平成 15 年度 1 年次在学採用数

地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金

本学には、日本学生支援機構奨学金以外に地方公共団体奨学金及び財団法人、公益法人、民間企業等の出資による民間団体奨学金などの多様な奨学金制度があります。

募集等の条件は団体により種々異なりますが、募集時期はほとんどが4月～6月の間です。

なお、都道府県市区町村の教育委員会で取り扱っているケースも多いので、直接出身地等の教育委員会に問い合わせるのもよいでしょう。

奨学金を貸与或いは給付されている在学学生は、大学院生を含めて約350名います。

毎年約80団体より募集があり、約50名が新規に採用されています。

小口短期貸付金 (学生援助会)

学生部厚生課では、病気や不慮の事故、家庭からの送金の延着、その他の急な出費に対し、最高5万円まで無利子で短期間(1～6カ月以内)の貸付融資を行っています。

なお、金額によっては、あらかじめ保護者等を保証人とする債務保証書を提出する必要があります。

(問い合わせ先：学生部厚生課学資担当 Tel.075-753-2536)

アルバイトの紹介サービス

学生部厚生課では、主に家庭教師・祭礼行列員等のアルバイトを紹介しています。

祭礼アルバイトは、京都の三大祭(葵祭、祇園祭、時代祭)等で、行列に参加したり、山車を引いたりするもので、学生生活の思い出にもなり、学生に好評のアルバイトです。

なお、その他一般のアルバイトは、京都大学生生活協同組合で紹介しています。

(問い合わせ先：学生部厚生課厚生企画掛 Tel.075-753-2533)

学生寄宿舎

本学の学部学生が入居できる学生寄宿舎は、次の3寮です。いずれも大学の近くにあり、便利で安価に生活することができます。詳しくは、学生部厚生課へお問い合わせください。

(問い合わせ先：学生部厚生課寮務担当 Tel.075-753-2539・2540)

	吉田寮	熊野寮	女子寮
収容定員	147名	422名	35名
対象学生	男子・女子	男子・女子	女子
建物構造	木造 2階建(3棟)	鉄筋コンクリート 4階建(3棟)	木造モルタル塗 2階建(2棟)
居室様式	和式	洋式	洋式
食事	自炊	食堂	自炊
寄宿料(月)	400円	700円	400円
光熱水料等	2,000円から3,500円(各寮により異なります)		
通学時間(※)	徒歩約5分	徒歩約15分	徒歩約7分

(平成16年)

※吉田キャンパス本部構内までの参考通学時間

下宿・アパート等の紹介サービス

学生部厚生課では、入学手続の日から下宿・アパート等を紹介しています。風呂は無く、台所・トイレも共同ですが、その分、部屋代も安価で、4.5畳で15,000円、6畳で20,000円前後のものを紹介しています。

また、京都大学生協同組合では、アパート・マンション等の紹介をしています。

(問い合わせ先：学生部厚生課厚生企画掛 Tel.075-753-2533)

健康管理について

保健管理センター

本学学生の健康の保持と増進を図り、最適な健康状態で充実した学生生活を過ごしてもらうために、健康管理を専門的に行う施設として保健管理センターを設置しています。

センターには専任の医師と看護師がおり、定期並びに臨時健康診断や保健指導などの予防医療、応急処置などの初期診療、その他健康に関するあらゆる相談を行っています。病院などとは異なり、ちょっとした不安や疑問を解決するためにごく気軽に受診することができます。また、検査や投薬も受けられます。個別の相談や診療は正門西側カフェレストラン・カンフォア奥の保健診療所で受け付けます。

保健診療所

保健診療所では、下記各科の専門医が、本学学生の傷病診療と健康相談・精神衛生相談を行っています。

(a) 診療科名

内科 眼科 皮膚科 耳鼻咽喉科
スポーツ整形外科 神経科 歯科

(b) 診療受付時間

10:00～12:30, 14:00～16:30

(c) 休診日

土曜日、日曜日、国民の祝日及び年末年始(12月29日～1月3日)は全日休診です。

なお、臨時休診日(定期健康診断実施日等)は、その都度受付の掲示板に掲示しています。

(d) 料金

学生の健康相談・精神衛生相談及び正課中における傷害についての初診時の料金は無料です。傷病診療(薬価、検査料、処置料その他の経費)は実費となります。



(各科の診療などの問い合わせ先：Tel.075-753-2405〈内科〉またはTel.075-753-2404〈受付〉)

学生教育研究災害傷害保険

学生が、「急激」かつ「偶然」に「外来」の事故を被った場合の災害補償を全国的な補償救済措置として制度化されたもので、本学では、教育研究活動中等の不慮の災害事故補償のため、保険料も低額な本保険への全員の加入を強く勧めています。

また、インターンシップ、教育実習、介護体験、ボランティア活動等において学生が万が一相手にケガをさせたり物を壊したりした時に備えて賠償責任保険を付帯することができます。

(問い合わせ先：学生部厚生課厚生企画掛 Tel.075-753-2533)

京都大学学生健康保険組合

京都大学では、昭和25年より本学学生が、風邪やケガで学内の医療機関で治療等を受けた場合、学生相互に医療費を補助することを目的とした、学生健康保険組合を設置しています。

この保険組合に加入すると学内の医療機関(京都大学保健診療所及び医学部附属病院)で受診した1年間に支払った医療費の総額が1万円までは50%を補助し、これを超えた場合は超えた額の10%を補助します。入院の場合は90日を限度に1日につき100円です(入院期間中の医療費の補助は非適用)。組合費は1年間500円で全員が加入されるようお勧めします。

(問い合わせ先：学生部厚生課厚生企画掛 Tel.075-753-2534)

カウンセリングセンター

京都大学では、学生が学生生活を送る上で出会う様々な悩みや問題を相談できる場所として、カウンセリングセンターを設置しています。大学は、単に知的な学習・研究のための場ではなく、全人格的な成長・発達のための場であるべきものです。しかし学生生活の中で、自分だけでは抱えきれない問題が生じてくることもあるかもしれません。友人や家族にさえ話しにくい内容の場合もあるでしょう。そういう時のために、カウンセリングセンターがあるのです。

カウンセリングセンターでは、心理学(臨床心理学・相談心理学・青年心理学など)を専門とするスタッフが相談に応じています。現在、1年間に約500人の学生が相談に訪れ、のべ4,000回から4,500回に上る相談面接がなされています。

(カウンセリングセンターの詳細については、ホームページをご覧ください。→ <http://www.kyoto-u.ac.jp/counseling/>)

京都大学生協同組合

学内の各キャンパスには、京都大学生協同組合が運営するカフェレストラン、食堂、ショップなどがあり、学生生活を幅広くサポートしています。

時計台生協ショップ

京大生協の中で一番大きな購買です。平成15年12月より改修工事を終えた時計台記念館で「時計台生協ショップ」として営業を開始しました。食品・文具・日用品などの品揃えが充実しているに加え、薬品・クリーニング・時計・写真などの専門コーナーが揃っています。その他、時計台記念館には、コンベンション・サービスセンター(JRチケット取り扱い)や京大ショップ(京都大学オリジナルグッズ等取り扱い)があります。

学生生活 サポート



左より：ショップルネ書籍コーナー／
時計台生協ショップ/カフェレストラン・
カンフォーラ/吉田食堂

「カフェレストラン・カンフォーラ」

従来の学生食堂といえば、セルフサービスで、長机にパイプ椅子が所狭しと並んでいるというイメージをお持ちではないでしょうか？平成15年5月正門西側にオープンした「カフェレストラン・カンフォーラ」は、そのイメージを一新した質の高い食事ができる、明るい雰囲気のあるフルサービスの欧風レストランで、本学の学生・教員・職員のほか、修学旅行生・観光客・一般市民等広く多くの方にご利用いただいています。

桂ショップ/レストラン「ハーフムーンガーデン」

ベーカリーカフェ「つきのき」

吉田・宇治キャンパスに続く、第3キャンパスとして平成15年10月に開校した桂キャンパスに、桂ショップ、レストラン「ハーフムーンガーデン」、ベーカリーカフェ「つきのき」などをオープンしました。桂キャンパスを利用する人全ての生活をサポートするお店として運営しています。

●生協食堂では、学生の食の自立を応援する立場から、バランスのとれた食生活が送れるよう、三群栄養表示(赤・緑・黄)のレシートへの点数表示を行っています。営業は8:00より22:00までと、一

日3食をバックアップしています。

- 生協組合員の割引特典として、書籍は定価の10%、CDは定価の15%割引で購入できます。
- 購買部では、「京都大学オリジナルグッズ」を多数取り揃えています。京大生協だけの限定販売です。
- 新入生に対しては、毎年3月に住まいの幹旋から新生活用品購入までをトータルにサポートする「新入生センター」を開設しています。



キャンパス (学部)	施設の名称		営業時間(平日)	取扱内容等
北 部 (理・農)	北部生協会館	食堂部	8:20 ~ 21:00	1階：カフェテリア食堂、2階：喫茶(計250席)
		購買部	10:00 ~ 18:00	文具・食品の販売等
中 央 (文・教・法・経・工)	中央食堂		8:00 ~ 21:00	カフェテリア食堂、喫茶(計396席)
	時計台生協ショップ		10:00 ~ 20:00	文具・食品の販売等 薬品・クリーニングは10:00 ~ 17:00
	京大ショップ		10:00 ~ 17:00	オリジナルグッズ、教員図書等
	コンベンション・サービスセンター		10:00 ~ 17:30	JRチケット発券
	生協本部	組合員センター	10:00 ~ 17:00	生協加入・共済給付申請
	正門カフェレストラン・カンフォーラ		8:00 ~ 22:00	カフェレストラン(計100席)
吉 田 (全学共通・総人)	吉田食堂		10:00 ~ 16:30	1階、2階：カフェテリア食堂(計587席)
	吉田ショップ		8:30 ~ 19:00	文具・食品の販売、教科書販売等
南 部 (医・薬)	南部生協会館	食堂部	11:00 ~ 17:00	カフェテリア食堂、喫茶(計174席)
		ショップ	10:00 ~ 18:30	文具・食品・書籍などの販売
西 部	カフェテリアルネ		11:00 ~ 22:00	カフェテリア食堂(計494席)
	ショップルネ	パソコンコーナー 書籍コーナー 旅行、プレイガイド	10:00 ~ 19:00	パソコン本体・パーツ・周辺機器 教科書・参考書などの専門書、一般書、雑誌等、スタディガイド 国内旅行、プレイガイド等
	ルネ南側別館		11:00 ~ 18:00	住まいの幹旋、リサイクル用品
宇 治 (各研究所)	宇治生協会館	食堂部	11:00 ~ 20:00	カフェテリア食堂(計168席)
		購買部	10:30 ~ 18:00	文具・食品の販売等、JRチケット発券
桂	桂ショップ		10:00 ~ 20:00	文具・食品の販売等、JRチケット発券
	ハーフムーンガーデン		9:00 ~ 20:00	レストラン(計30席)
	つきのき		8:00 ~ 20:00	ベーカリーカフェ

詳しくは京大生協ホームページ(<http://www.s-coop.net>)をご覧ください。

課外活動

多彩なクラブ・サークル活動

【文化系サークル(97団体)】

- 音楽部交響楽団
- 軽音楽部
- 音楽研究会
- 合唱団
- グリークラブ
- アカペラサークル・CRAZY CLEF
- ギタークラブ
- マンドリンオーケストラ
- 吹奏楽団
- リコーダー同好会
- E.M.B.G.
- 軽音サークル・こんぺいとう
- 軽音サークル・ZETS
- 吉田音楽製作所
- アンブラグド
- 民族舞踊研究会
- 舞踏研究会
- アマチュアダンスクラブ
- 叡風会
- 千鳥会
- 劇団ケツペキ
- 劇団遊劇体
- 劇団ペーバームーンシアター
- 映画部
- 映画文化研究会
- シネマ研究会
- 雪だるまプロ
- 漫画研究部
- アニメーション同好会
- 創作サークル「名称未定」
- 美術部
- 美術研究会
- 陶芸部
- 写真部
- 書道部
- 能楽部観世会
- 能楽部宝生会
- 能楽部金剛会
- 能楽部狂言会
- 心茶会
- 落語研究会
- 囲碁部
- 将棋部
- チェスクラブ
- 奇術研究会
- キリスト者学生会
- 基督教共助会
- 平和哲学研究会
- 古典に学ぶ会
- 原理研究会
- クイズ研究会
- 京大 RPG 研究会
- SF 研究会
- 唯物論研究会
- 京大に在籍する在日韓国・朝鮮人学生の集い
- 韓国文化研究会
- アフリカ研究会
- 京都ムスリム協会
- 歴史研究会
- 地理同好会
- 鉄道研究会
- バス研究会
- 天文同好会
- 機械研究会
- 粋な科学の会
- 生物科学の会
- ころぼっくる

- 野生生物研究会
- 都市公害問題研究会
- 環境ネットワーク 4R の会
- 環境サークルえこみっと
- 社会科学研究会
- E. S. S.
- エスプラント語研究会
- 児童文学研究会・紙風船
- 点訳サークル
- グッドサマリタンクラブ
- 手話サークル
- さいもんめ
- 放送局・KUBS
- 現代社会研究会
- アジア連帯! 学生キャンペーン
- 刑事法研究会
- 探検部

- 学生平和委員会
- 人権研究センター
- ユネスコ学生クラブ
- ユニセフクラブ
- アイセック
- 京都大学韓国人留学生会
- 京都大学留学会
- 西部講堂連絡協議会
- 文化サークル連合会
- 11月祭全学実行委員会
- 京都大学新聞社
- 京大学生新聞会
- 応援団

【その他の団体(2団体)】

- 大学院生協議会
- 生活協同組合組織部学生委員会

【体育会所属の運動部(48団体)】

- 合気道部
- アーチェリー部
- 居合道部
- ウェイトリフティング部
- 空手道部
- クライダー部
- 硬式庭球部
- ゴルフ部
- サッカー部
- 自転車競技部
- 柔道部
- 少林寺拳法部
- スキー競技部
- 相撲部
- ソフトボール部
- 卓球部
- バスケットボール部
- バレー部
- ハンドボール部
- フィギュアスケート部
- ボウリング部
- ボクシング部
- ライフル射撃部
- ラグビー部
- アイスホッケー部
- アメリカンフットボール部
- ウィンドサーフィン部
- カヌー部
- 弓道部
- 剣道部
- 硬式野球部
- サイクリング部
- 山岳部
- 自動車部
- 準硬式野球部
- 水泳部
- スピードスケート部
- ソフトテニス部
- 体操部
- 馬術部
- バドミントン部
- バレーボール部
- フィールドホッケー部
- フェンシング部
- ボート部
- ヨット部
- ラクロス部
- 陸上競技部

【体育会に所属していない文化系サークル(40団体)】

- 京都を歩く会
- 青い鳥
- 散策の会
- オリエンテーリングクラブ
- ワンダーフォーゲル部
- フリークライミングクラブ
- 神陵ヨットクラブ
- 硬式庭球同好会
- T.C.T
- 硬式庭球同好会・フリーク
- テニスサークル・フレイムショット
- テニスサークル・KIDDY KIDS
- テニスサークル・JUST OUT
- ソフトテニスサークル
- スキー同好会・スノーバンサー
- 基礎スキークラブ・ラスカル
- 青城サッカークラブ
- BREEZE
- ラグビークラブ
- 飛翔会
- 持久走同好会
- メイプル・バスケットボール同好会
- バスケットボールサークル・フリークラブ



- バスケットボールサークル・L.E.D
- バレーボールサークル・JUSTICE
- 剣道同好会・指新会
- 天之産合気会
- 空手同好会
- 東洋拳法燃える男会
- 太極拳同好会
- 円和道部
- 軟式野球サークル・スラガーズ
- ソフトボール同好会・プレッシャーズ
- 卓球同好会
- バドミントンサークル・レモンスカッシュ
- アリアトロスゴルフ同好会
- アウトドアサークル・DOWN HILL
- バードマンチーム・シューティングスターズ
- 京大フィッシングチーム
- チアリーディングサークル・TREVIS

平成 15 年度第 42 回国立七大学総合体育大会
平成 15 年夏に開催された同大会において、本学は、二年ぶりの優勝を目標に各競技種目で熱戦を繰り広げ、剣道男子・硬式庭球女子・卓球男子・体操・硬式野球で 1 位になるなど、惜しくも優勝は逃しましたが、総合第 2 位と大健闘いたしました。
(国立七大学総合体育大会は、北海道大学・東北大学・東京大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学の国立七大学の学生が集集い開催されている伝統ある学生スポーツ大会です。第 38 回・39 回・40 回大会において、本学は 3 連覇を達成しました。)

【課外体育施設】
北部グラウンド・北白川スポーツ会館・馬場(厩舎)
吉田南グラウンド・テニスコート
総合体育館・総合体育館附属プール
バレーコート・弓道場・アーチェリー場・相撲場など

【学外の施設】
白馬山の家・白浜の家・笹ヶ峰ヒュッテ・志賀高原ヒュッテなど



写真(上から):マンドリンオーケストラ/応援団/能楽部 観世会/手話サークル

北部グラウンド

国際協調，異文化を理解する心を身に付け 真の国際人として飛躍するために

留学生交流は、相互の教育・研究水準を高めるとともに、国際理解、国際協調の精神の醸成、推進に大きな役割を果たしています。更に、開発途上国の場合はその人材要請に協力するなど、国際貢献のための重要な国策とされています。京都大学では、現在 76 ヶ国から約 1,300 名の留学生を受け入れ国際色豊かなキャンパスとなっています。

近年、留学生交流の新たなニーズとして、大学に在籍しながら 1 年程度の短期間外国の大学に留学する短期留学が活発化しており、本学においてもこの留学を積極的に支援し、その施策を展開しています。

京都大学国際教育プログラムについて (KUINEP [Kyoto University International Education Program])

このプログラムは、海外の学生交流協定を締結している大学から学部学生を 1 年間受け入れて本学の学生とともに英語で教育することにより、本学学生の国際性を育成し、留学生との相互交流を活発にすることを目的としたものです。

開講科目は 21 科目で、本学の全学共通科目として提供し、単位を認定します。正規課程学生も履修できます。



短期留学推進制度について

この制度は、大学間の学生交流協定等に基づき海外の大学へ派遣される学生に対して我が国が奨学金を支給し、諸外国の大学との留学生交流の一層の拡充を図ることを目的として設けられたものです。

毎年、12 月頃に募集(※)を行い、書類選考及び必要に応じ面接

を行い受給候補者を決定します。(採用数は若干名)

(※) 募集期間は変更することがあります。

授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定校への派遣留学について

この制度は、海外の大学との学生交流協定に基づいて本学の学部又は大学院に在籍しつつ、概ね 1 年以内の 1 学期又は複数学期、協定校で教育を受けて単位を取得又は研究指導を受けるものです。

毎年、10 月及び 1 月に募集(※)を行い、書類選考及び必要に応じ面接を行い派遣留学生を決定します。

京都大学が学生交流協定を結んでいる相手は、14 か国 24 大学 3 大学群あります。京都大学を通じて出願手続きができ、留学先では授業料等を支払う必要はありません。

(※) 募集期間は変更することがあります。

Q&A 授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定による派遣留学(交換留学)に関する Q&A

Q1: 学生交流協定とは何ですか?

学生交流協定は、学生の交流(交換留学)についての取り決めて、①在籍する大学に授業料を納めることにより派遣先大学での授業料等が免除されることや②留学先で修得した単位の一部を在籍する大学で修得したものと認める単位互換などについての取り決めをしています。

Q2: 派遣留学(交換留学)とは何ですか?

国際交流を促進するために、学生交流協定に基づいて、互いに学生を留学させあうシステムのことです。京都大学に在籍しつつ、1 学年以内の 1 学期又は複数学期のあいだ、京都大学が協定を結んでいる海外の大学に学位修得を目的としない留学をし、教育を受けて単位修得し、又は研究指導を受けるものです。

Q3: 語学力・学力はどのくらい必要ですか?

留学生生活を円滑に過ごすための必要最低限の語学力は、渡航前から必要です。また留学すれば自然と語学力が高まるというものではありません。日本の学校へ進学する場合と同様、留学にも一定以上の学力が必要です。1 回生の時から十分な準備をし、派遣留学の応募書類提出時には、基準を満たしているようにしてください。

英語圏への留学のための語学力証明書には TOEFL が使われることが一般的です。

非英語圏への留学についても日常生活で、読む・聞く・話す・書くことができ、教育のため授業の聴講及び研究指導を受けることのできる程度の力は最低限必要です。

Q4: 派遣留学(交換留学)の基準にはどのくらいの期間がかかりますか?

派遣留学(交換留学)を希望する学生は、留学を希望する一学年前に、所属の学部を通じて学内選考用の申請書(日本語)を提出することが必要です。協定校が提供する資料の中から、自分の専攻領域に合ったプログラムや履修したい講義を持つ大学を事前に自分で調べてから、学内選考用の書類を提出する必要があります。

派遣留学(交換留学)は、年度により募集日程及び協定校に多少変

更がありますが、毎年10月及び1月ごろに募集を行います。

学内選考を通過した学生は、その後、留学希望先の大学の願書に加えて、推薦状、留学目的、研究予定等を記した書類を提出することになります。

Q5：派遣留学先で取得した単位は、京都大学で認定されますか？

留学先で修得した単位を本学で修得した単位として認める単位認定制度があります。

Q6：一募集期に、複数の大学に応募できますか？

できません。なるべく多くの学生に留学の機会を与えるために、派遣留学希望先は一枚に絞っていただいています。

Q7：大学の情報・資料はどこで入手できますか？

協定校から定期的に送られてくる資料は、留学生ラウンジに保存してありますので、自由に閲覧できます。そこにはないものは、各校のインターネットサイトで見てください。

Q8：派遣留学（交換留学）するための奨学金はありますか？

協定校への派遣留学生を対象とした奨学金として、次の奨学金・助成金制度があります。

- ①財団法人日本国際教育協会の短期留学推進制度（派遣）
奨学金 月額 80,000 円
- ②京都大学教育研究振興財団からの助成を受けて、京都大学が実施する京都大学「留学派遣」
渡航費の一部助成

海外留学体験者に聞く

『「年中夢求」のワシントン DC』

法学部 4 回生
片山 直樹 さん

(2003年8月～2004年6月 米国・ジョージ・ワシントン大学に留学)

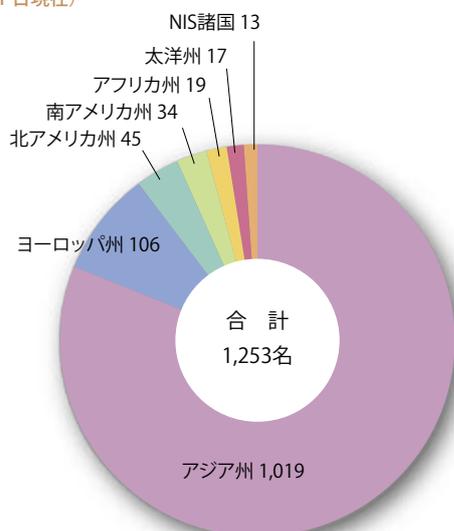
「年中夢求」という言葉は、ワシントン DC で寿司職人をしておられる方に教わった言葉です。「常に夢を追い続け、ひたすらに努力をする」というこの言葉の意味をモットーに、私はワシントン DC での留学生生活を充実させることができました。交換留学先のジョージ・ワシントン大学における学業での貴重な経験のみならず、世界銀行でのインターンという世界規模の社会を実体験できる大変刺激的で素晴らしい機会も得ることができました。アメリカの学生生活をこれだけ格安で経験できる交換留学制度は素晴らしいと実感しています。受験生の皆さんも京都大学の学生として是非チャンスを掴んでください！



「留学先、米国・ジョージ・ワシントン大学の仲間達と」
(向って右から3人目が片山直樹さん)

外国人留学生受け入れ状況

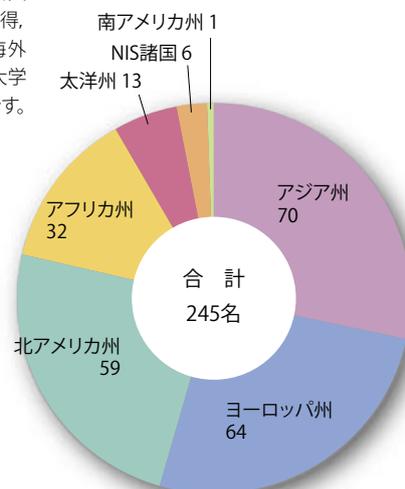
(平成 16 年 5 月 1 日現在)



海外渡航状況

(平成 15 年実績)

主な渡航目的は、派遣留学、私費留学、研究、語学研修、技術取得、NPO・NGO ボランティア、青年海外協力隊などです。右表の数は、大学に届け出のあった海外渡航者数です。



知識や技術をより深め、次代を担う研究者・実務者を 目指していく。

大学院への進学

京都大学では、近年の学問の高度化や学才領域の発展、社会の複雑化に対応するために、大学院の重点化と、独立研究科の新設を進めてきました。これに伴い大学院進学者の割合は年々増加の傾向にあり、平成16年(2004)3月に2,967名が学部を卒業しましたが、その内、1,569名が大学院に進学(進学率は52.9%)しました。

進学先については、基本的に学部に関連した大学院へ進学すること

が一般的ですが、異なる大学院へ進学することも可能です。また、学部を持たない独立研究科へは、様々な学部出身者が集うこととなります。

また、一部の学生においては、他大学の大学院へ進学する人もいます。



大学院のカリキュラム

本学大学院各研究科の標準修業年限は5年であり、博士前期課程(前期2年の課程、本学大学院では修士課程と呼んでいます)と博士後期課程(後期3年の課程)に区分しています。ただし、医学研究科は標準修業年限が4年の、アジア・アフリカ地域研究科は5年一貫制の区分をしない博士課程、地球環境学舎地球環境学専攻は修士課程修了者を対象とした後期3年の課程だけの博士課程です。

教育課程については、定められた単位(修士課程及び医学研究科博士課程では30単位、博士後期課程では各研究科により定められている)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて、研究論文の審査と最終試験に合格すると修士もしくは博士の学位が授与されます。

開かれた大学院を目指して

現在、グローバル化時代の進展に伴い、職業を持つ社会人のリフレッシュ教育の推進が要請され、各種の制度が整備されています。これらの制度には社会人特別選抜、高度専門職業人養成大学院等の



コースがあります。本学大学院においては、社会人特別選抜は文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、医学研究科、工学研究科、エネルギー科学研究科、情報学研究科及び地球環境学舎で実施されており、高度専門職業人養成大学院は医学研究科で従来の修士課程とは区別された大学院修士課程として社会健康医学専攻を平成12(2000)4月に設置しています。

また、「留学生受入れ10万人計画」が要請されており、本学大学院においては、留学生特別選抜として教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、薬学研究科、工学研究科、エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究科、情報学研究科及び地球環境学舎で実施しています。

独立研究科

独立研究科とは、その名の通り学部を持たない大学院です。

人間・環境学研究科は、自然、人間、文化、文明にかかる諸学問分野の連携を通じて、新たな人間像と文明観・自然観の確立を目指す研究を充実発展させ、「専門知」、「統合知」によって人間および環境の問題に先見性と広い視野から対処しうる高度な研究者・実務者の養成を目指しています。

エネルギー科学研究科、情報学研究科および生命科学研究科では、それぞれの掲げる複合的学域の創出・深化に携わる研究者の養成を主眼にした大学院教育の体系化を目指しています。

アジア・アフリカ地域研究科では大学院5年一貫教育でフィールドワークを重視し、地域研究者や国際貢献できる実務者の育成を目的としています。

地球環境学舎は、地球環境問題の解明と解決のために、環境安定とそれを支える人間活動の双方に資する新たな文明理念と科学技術知を構築すること、そしてそれを現実世界に適応しうる人材育成を行うことを目的として平成14年に設置されました。

法科大学院について

社会の大きな転換期にある現在、法や法の精神をよりいっそう社会の中に定着させることが強く求められています。そのためには、裁判制度の改革なども必要になりますが、とりわけより多くの法律家(法曹)を養成することが不可欠です。法科大学院制度は、そうした課題に応えるために構想されたものであり、本学でも、このような社会的要請に応えるため、平成16年4月に法科大学院を開設し、すでに、200人余りの新入生を受け入れています。

法学研究科・法学部は、わが国における法学・政治学の研究・教育の中心的拠点としての役割を果たしてきましたが、法科大学院においても、自主・独立の精神と批判的討議を重んずる伝統を継承し、自由闊達な教育環境の中で、法制度に関する原理的・体系的な理解、緻密な論理的思考能力、法曹としての高い責任感を涵養し、社会の抱える構造的な課題や最先端の法的問題に取り組むことのできる総合的な法的能力の育成を図ります。また実務的課題にも対応した教育を充実させるため、実務経験の豊富な多くの実務家教員を迎えたところであり、研究者教員と実務家教員が連携しつつ、理論と実務を架橋する高度な教育を通じて、法の精神が息衝く自由で公正な社会の実現のため、幅広い分野において指導的な役割を果たす創造力ある法曹を輩出したいと考えています。

学部第3学年から大学院への入学について

大学院工学研究科、エネルギー科学研究科、情報学研究科及び地球環境学舎では、大学に3年以上在学した者で、志望研究科が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者に、大学院修士課程の出願資格を認めています。

これは、大学院修士課程への入学を希望する学生で、かつ、成績が優秀な者には、早期に大学院での教育・研究指導を受けて、専攻分野における研究能力を養うことを目的とするものです。

また、優れた研究業績を挙げた者には、大学院修士課程では1年以上の在学期間で修士の学位が、博士後期課程に1年以上(修士課程の在学期間と合わせて3年以上)の在学期間で博士の学位が授与されることもあります。

大学院への進学（●印は主な出身学部を紹介しています）

研究科名	出身学部名	総合人間学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部
文学研究科 文献文化学専攻 思想文化学専攻 歴史文化学専攻 行動文化学専攻 現代文化学専攻		●	●								
教育学研究科 教育科学専攻 臨床教育学専攻			●	●							
法学研究科 法政理論専攻 国際公共政策専攻 法曹養成専攻（法科大学院）		●	●		●						
経済学研究科 経済システム分析専攻 経済動態分析専攻 現代経済学専攻 ビジネス科学専攻						●					
理学研究科 数学・数理解析専攻 物理学・宇宙物理学専攻 地球惑星科学専攻 化学専攻 生物科学専攻		●					●				●
医学研究科 生理系専攻 病理系専攻 内科系専攻 外科系専攻 分子医学系専攻 脳統御医科学系専攻 医科学専攻 社会健康医学系専攻								●			●
薬学研究科 創薬科学専攻 生命薬科学専攻 医療薬科学専攻									●		
工学研究科 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 都市環境工学専攻 建築学専攻 機械工学専攻 機械物理工学専攻 精密工学専攻 原子核工学専攻 材料工学専攻 航空宇宙工学専攻 電気工学専攻 電子工学専攻 材料化学専攻 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 高分子化学専攻 合成・生物化学専攻 化学工学専攻		●								●	
農学研究科 農学専攻 森林科学専攻 応用生命科学専攻 応用生物科学専攻 地域環境科学専攻 生物資源経済学専攻 食品生物科学専攻		●									●
人間・環境学研究科 共生人間学専攻 共生文明学専攻 関連環境学専攻		●	●								
エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 エネルギー基礎科学専攻 エネルギー変換科学専攻 エネルギー応用科学専攻		●								●	●
アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻 アフリカ地域研究専攻							●				●
情報学研究科 知能情報学専攻 社会情報学専攻 複雑系科学専攻 数理工学専攻 システム科学専攻 通信情報システム専攻		●					●			●	
生命科学研究科 統合生命科学専攻 高次生命科学専攻		●					●		●		●
地球環境学舎 地球環境学専攻 環境マネジメント専攻		●	●							●	●

習得した知識や技術を社会で発揮していくための キャリアサポートセンター／インターンシップ制度

キャリアサポートセンター

我々や企業を取り巻く経済状況に好転の兆しがあるとはいえ、求人状況は依然厳しい状態が続いています。そのなかで各企業においては、より優秀でかつ自社に合う学生を求める傾向が一層強まってきています。一方、学生側も就職に対する希望が多様化しており、学生の希望と企業側の求める人材とのマッチングをいかに図るかが大きな課題となってきました。

また、大学院への進学率が高い本学では、学生自身が自分の進むべき道(将来の進路・職業)について早い時期から考えていくことは、充実した学生生活を送るうえで重要なことと考えています。

キャリアサポートセンターでは、学生の就職活動を支援するため、各種就職関連ガイダンスや就職相談の実施に加え、各種企業資料・会社案内(パンフレット)、求人情報、OB・OG名簿、就職関連書籍・ビデオ・CD、企業主催のセミナー・説明会開催情報及びインターンシップ募集情報の収集・閲覧を行っています。就職関連書籍・ビデオ・CDについては貸し出しも可能です。

近年の就職活動においては、インターネットの活用が不可欠なものとなりつつあることから、キャリアサポートセンターに就職情報検索用のパソコンを数台設置し、学生が自由に利用できる環境を整えています。

ガイダンスの実施

学部1・2年生向けに将来のキャリアデザインのための基礎知識及び就職活動の概要を紹介するガイダンス、エントリーシート対策講座(添削指導)、企業面接対策講座なども実施・計画しています。

平成15年度開催ガイダンス等一覧

行事名	実施回数 (のべ日数)	のべ参加者数 (人)
就職ガイダンス	5 (5)	2,900
企業ガイダンス	15 (15)	2,770
企業ガイダンス & 模擬面接	1 (2)	580
公務員志望者のためのガイダンス	1 (1)	100
国家公務員各府省業務説明会	1 (3)	1,300
国家公務員採用試験制度説明会	1 (1)	40
文部科学省業務説明会	3 (3)	120
裁判所職員採用試験説明会	1 (1)	40
日本郵政公社業務説明会	1 (1)	30
KICK OFF SEMINAR 京都大学	1 (2)	280
国際機関就職志望者向けガイダンス	1 (1)	180
マスコミ関係就職志望者向けガイダンス	1 (1)	100
SPI 模擬テスト	1 (1)	100
計	33 (37)	8,540



就職相談室の開設

就職情報企業から就職指導の専門家を相談員として招き、様々な就職・進路にかかる相談に対応しており、専門的立場から適切なアドバイスを行っています(予約制)。気軽に、また、何度でもご利用いただけます。



ガイダンスの様子

インターンシップ

学生が在学中に企業等において就業体験を行なうインターンシップは、平成9年に当時の文部省、通商産業省及び労働省の3省によって発表された「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」に基づいて普及推進され、現在は学問分野、学校の種類を問わず、幅広く取り組まれています。

従来は受入側にとって「社会貢献」としてのイメージでの取り組みでしかなかったインターンシップも、様々な状況下で工夫・改善がなされることにより、双方にとってメリットのあるインターンシップが実現されつつあります。研修期間中に資質を高く評価された学生が、結果的に採用されるようなメリットもさることながら、短期間であっても自己の能力開発に積極的な学生が職場内で真摯に取り組んで残した成果は、客観的な評価を通して多様に生かすことができます。

昨今の経済・社会環境の劇的な変動に伴う変革期にインターンシップを活用した積極性・創造性豊かな人材が活躍する社会を作りあげるよう、産学官協同の重要性が改めて叫ばれています。

インターンシップのメリット

大学と学生にとって

○高い職業意識の育成

学生が自己の職業適性や将来設計を考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図ることができます。

○自立心・責任感のある人材の育成

企業等の現場において就業体験を積み、専門分野における高度な知識・技術に触れながら実務能力を高めることは、自立的に考え行動できる人材の育成につながります。

○教育内容・方法の改善・充実

アカデミックな教育研究と社会での実施の経験を結びつけることが可能となり、大学等における教育内容・方法の改善・充実につながります。

また、学生の新たな学習意欲を喚起する契機となることも期待できます。

○育成すべき人材の産学コンセンサス形成

実社会・産業界が求める人材像を教育界側に明確に伝えることによって、産学が連携して人材を育成することが可能となります。

○知の産学交流

理工系や経営・マーケティング等、産業界と結びつきの深い分野・専攻では、企業での就業体験・実践による成果が大学等にリアルタイムでフィードバックされます。

京都大学におけるインターンシップの活用

本学では、在学生に対して学外研修機会についての情報提供を行っ

ています。国内の国公立・民間研究機関、地方公共企業体や民間企業等における研修に参加し、社会体験をする在学生が増えています。また、IAESTE(日本国際学生技術研修協会)等を通じて、外国の研究機関や企業における研修に積極的に参加する在学生もいます。本学では、このような学外での研修を授業に採用し、学外の国公立・民間機関等で行った研修を単位として認定する制度を取り入れている学部(学科)や研究科もあります。

インターンシップ体験者に聞く



「学業の重要性を再認識 —さらなる成長に向けて—

大学院工学研究科・電気工学専攻
修士課程2年
山崎 敬子 さん

私は2001年(学部3回生)の夏2週間、関西電力でのインターンシップ研修に参加いたしました。関西電力を選んだ理由は、社会貢献性の強い企業内容や、新規事業へ積極的に展開する企業方針に強く惹かれたからです。研修内容として、まず電力事業理解のためのマンツーマン講義、そして変電所見学により実務理解を深めた後、実際の変電所の設計業務まで携わりました。大学で得た電力の知識を活かして職務を遂行しながらも、実務ならではの工夫や知見に驚かされ、経験したことすべてを貪欲に吸収する毎日でした。

「企業で働く」姿を明確化し社会人として必要なことは何かを掴み取ることで、学生時代に準備すべきことが自然と見えてきます。研修後、英語勉強への本格的な着手をはじめ、普通の大学での学業の重要性を再認識し、さらなる熱意を持って学業に取り組むこととなりました。関西電力インターンシップ研修での経験こそが、その後の持続的な成長を遂げるきっかけとなったと捉えています。



「学外実習を履修して」

工学部地球工学科土木コース4回生
藤脇 昌也 さん

工学部地球工学科では学外実習が選択履修科目にあり、3回生の夏休みに毎年多くの学生がインターンシップに出かけます。私は学科の斡旋により、帰省先の広島に近い国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所実習させていただきました。国土交通省といえば高速道路やダム問題で、私自身あまり良いイメージを持っていませんでしたが、実習先の皆さんが少なからず自分を犠牲にし、理想を形にするために努力している姿を目の当たりにして、公務員に対するイメージは180度変わりました。このインターンシップを通じて、実務上の専門知識が習得できたばかりではなく、社会に必要なマナー、言葉遣いも学ぶなど、大いに社会勉強にもなりました。また、将来の進路を考える絶好の機会となり、4回生になった現在は、実習で携わった砂防事業に関連が深い地盤工学の研究室に所属し、卒業研究に日夜取り組んでいます。

世界最先端の知の創造拠点を基盤とし、 学生・研究者のベンチャー起業を様々な方面から支援

創造の場を提供する ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

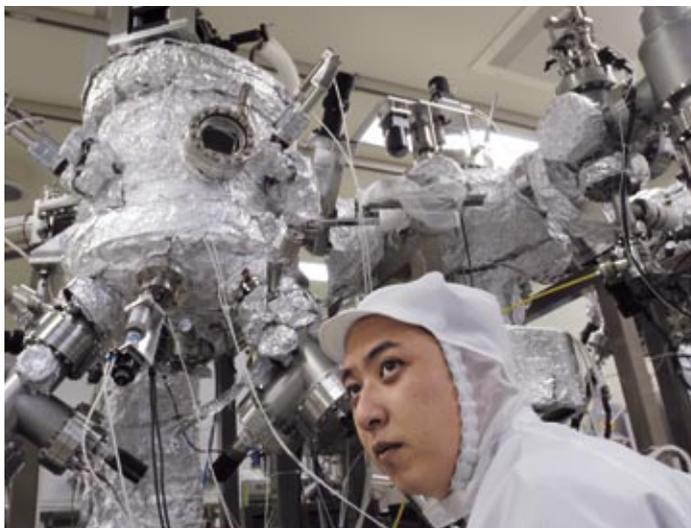
京都大学は世界最先端の「知の拠点」として、最近はいノベーション創出拠点として社会との有機的な連携に取り組んでいます。その先駆けは、1996年7月に設置されたベンチャー・ビジネス・ラボラトリー



(VBL) で、ナノテクノロジーを活用した先進的電子デバイスや材料の開発研究の推進とともに、ベンチャー精神に富み起業家マインドを持った学生や若手研究者の育成を行っています。

VBLでは、最先端の分析・評価・製造装置を駆使して、多数の院生や博士研究員が新産業創出の芽となる先進的な研究や共同研究を企業から派遣された研究員とともに推進しています。また、ハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生、そして高校生を対象とした「関西テクノアイデアコンテスト」を毎年開催しています。

2003年にはVBL内に、京都大学の教員や院生などの起業家の活動の場として、「京大ベンチャーズ」を開設しました。さらに、京大の学生・教員・職員を対象としたベンチャー起業支援システムとして、「特許相談室」と「起業相談室」を開設し、特許取得方法やベンチャー起業ノウハウを無料で相談できる場を提供しています。また、独創性とベンチャー精神に富んだ若手育成のための教育プログラムとして「新産業創成論」「先端電子材料学」を開講しています。ベンチャー企業の社長や経営陣・弁理士・企業研究所のリーダーなどを講師として招き、学内では触れることの出来ないビジネストレンド・経営手法・世界最先端の研究開発の現場などについて紹介頂いています。その他、知的財産企画室や国際融合創造センター(IIC)と共に、産業界と大学を橋渡しする各種セミナーを開催しています。



関西テクノアイデアコンテスト

関西圏の大学院生・学生・高校生が日頃思いついた技術アイデアを具体的に企画して発表する場を提供しています。2001年度にグランプリを受賞した二足歩行ロボットは、おもちゃメーカーから全国販売されるに至りました。

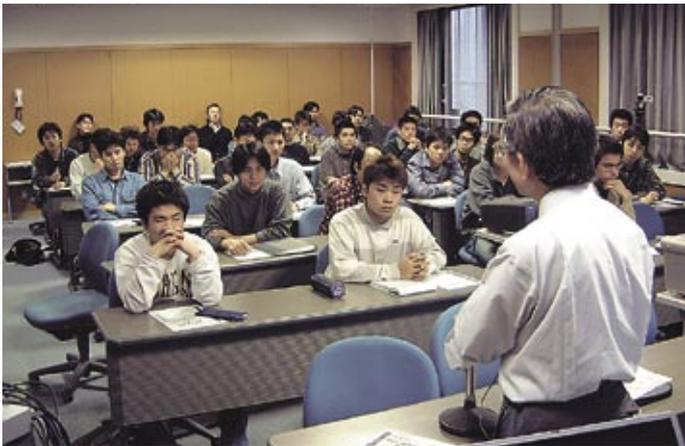


関西テクノアイデアコンテストで受賞した高校生

教育プログラム

VBL主催の講義、「新産業創成論」では、実際の企業の経営陣・研究者による企業経営・学生起業・特許に関する内容、弁理士による知的財産権に関する内容の講義が行われ、又「先端電子材料学」では、現在注目されている電子材料・デバイスの最近の研究展開に関して、受講生との相互討論を中心に双方向的講義が行われています。

ベンチャー起業支援システム



独自のベンチャー起業支援システムを展開しています。そのシステムでは、「特許相談室」と「起業相談室」の2つの相談室を深い連携のもと推進し、ベンチャー起業を志す人のサポートを行っています。

特許相談室では、毎週火曜または金曜日に文部科学省・経済産業省認定団体である「(株) 関西 TLO (Technology Licensing Organization)」より特許アドバイザーに來館いただき、京大全体の教員・職員・学生を対象として知的財産(特許)に関する個別相談に応じています。技術特許・ビジネス特許の申請相談に加え、発明の新規性、市場性のコンサルティングや先行技術調査などを無料で相談することが

できます。90件を超える特許申請、約30件が企業による通常実施またはオプション契約されるなど活発な活動状況です。

起業相談室では、京都市サーチパーク(株)プロジェクト企画室より専門アドバイザーに毎週水曜日午後に来館いただき、大学発ベンチャー起業に不可欠な兼業申請等手続、経営チーム、資金調達、スペース(ラボ・オフィス)、アドミニストレーション、マーケティング、パブリックリレーション(PR)について無料で相談することができます。



ベンチャー起業家へ聞く



「京大ベンチャーズ ロボ・ガレージの創業」

2003年 工学部物理工学科卒
高橋 智隆 さん

私は工学部在学中よりロボットに関する研究を基に試作機を製作し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで行われている特許相談・起業支援などのプログラムを利用することで、技術やアイデアを企業に売り込む活動をしてきました。結果、模型玩具ロボットが世界中で販売されることとなりました。そして、2003年の卒業と同時にベンチャー「ロボ・ガレージ」を創業し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに拠点を置いてロボットの開発や事業展開に取り組んでいます。

[写真] 小型ヒューマノイドロボット「クロイノ」(CHROIINO)





総合人間学部の紹介

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され平成5年4月に第一期生を迎え入れた、京都大学で最も新しい学部です。

新学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、本学部の研究・教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするものだからです。「総合人間学」とは、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てようとする学問です。すなわち、人間と人間をとりまく世界を総体的に捉える新たな学問の確立が、総合人間学部に与えられた課題なのです。

現代社会の危機感の中にあるわれわれが、人間自身を最大のテーマとして取り上げるのは、ここにこそ人類生存や文明の可能性が求められるからです。このような根本的な問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能でしょう。京都大学の自由な学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越えた、より多様で総合的な学問の場を提供することを、本学部はめざしています。

なお創設以来、総合人間学部は、人間学科、国際文化学科、基礎科学科、自然環境学科の4学科のもとに13大講座23専攻が置かれていましたが、平成15年4月に、大学院人間・環境学研究所に直結する学部として再編されました。それに伴い、専攻分野の細分化をあたう限り避けて、時代適応性の高い1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、国際文明学系、文化環境学系、認知情報学系、自然科学系の5学系構成となりました。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間ほどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系・主専攻を選択します。その際、前期日程「文系」、前期日程「理系」、および後期日程のいずれの入学試験を経たかは問われません。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、本学部は副専攻の制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。副専攻を選択し、所定の単位を修得した場合は、卒業の際に、学士の学位記とは別に主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学を志す学生。また文系・理系の別に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらんとする学生。そのような学生が門をたたくことを望んでいます。

総合人間学部の4年間

5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。

人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叡智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起しています。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総体的な把握がなされねばなりません。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって国際的で新しい文明の理念を構築するために、「国際文明学系」が設置されています。また世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために「文化環境学系」が設置されています。

今日、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、焦眉の急務となっています。脳の機能とは何かから、人間の認知、行動発言、言語機能の探求、その基礎にある情報科学と数理科学にいたるまで深く学ぶために「認知情報学系」が設置されています。さらに自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理科学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探求し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観を養成するために「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学科が構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

専攻の決定

前期日程「文系」、前期日程「理系」、後期日程という入学試験の形態にかかわらず、本学部入学生はすべて、入学後1年間、どの学系にも分属しません。自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に分属されます。

4年一貫教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目を、4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムで実施します。大学院「人間・環境学研究所」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、卒業研究指導教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野にも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに対しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

大学院「人間・環境学研究所」

総合人間学部の大学院進学志望者の多くは、「人間・環境学研究所」を受験して進学しています。また、本学の他の各研究科や他大学の大学院に進学することもできます。

「人間・環境学研究所」には、次の3専攻が設けられています。

共生人間学専攻

本専攻では、「人間相互の共生」という視点をふまえて、社会や文化の中に生きる人間存在のありようを探求し、人間同志が共に生きるなかから生まれる諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行います。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理科学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

共生文明学専攻

本専攻では、自然と人間・社会とを対峙させ、自然を制御することを文明の営みとしてきた西欧文明、及び自然との共生を文明の営みとしてきた地球上の他の文明を考察することによって、「文明相互の共生」を可能にする方策を探究し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行います。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

相關環境学専攻

本専攻では、従来の科学・技術・産業に内在する「開発」の論理を見直し、人類を含めた生態系の、全体としての存続に寄与することを志向する「人間と自然の共生」の論理を学問的営為に根づかせるべく、そのための新しい科学・技術のあり方を探求し、それとともに自然と人間との共生を図る新しい社会システムのあり方を模索し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行います。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質相關論講座の4講座を設置しています。

連絡先：総合人間学部教務掛 (075-753-6506)
<http://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

在学生からのメッセージ



総人に入った理由

1 回生
河井 亨 さん

私は入学前から勉強したい学問分野がはっきりと決まっていたわけではありません。ただ、複雑な社会現象に対処するためには、勉強する学問分野をひとつに絞り込んではいけなそうと思ひ、幅広くさまざまな学問を学べる総合人間学部を受験することにしました。入学した今では、この学部ほど京都大学の『自由の学風』を表している学部はないと確信するに至りました。主専攻科目と副専攻科目で二つ、さらに本人のやる気次第でより多くの分野をカバーできるのです。社会問題を解決するために大学四年間でより幅広く学問を学んでいきたいと思ひます。



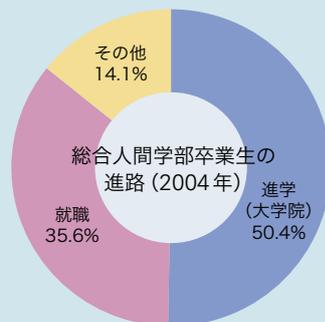
知のあり方を探すために

1 回生
溝口 恵二 さん

高度な専門教育を受けた人達が自分達の価値観でしかものを考えられなくなっているように思われ、専門教育のあり方に疑問を持った。自分が有益と思える学問以外にも学ぶべき知があると感じた。そこで専門的な学問に目を向けつつも様々なものに触れたいと思ひ、総合人間学部を選択した。大学での生活には、様々なことへの出会いやきっかけの場が身近にあると感じる。科目も迷うくらいに幅広い選択肢があり、とにかくいろいろいる人達が集まっていることにびっくりした。専門的、実践的な授業もユニークなものが用意されている。またその気になれば他学部の講義も聴講できる。好奇心に満ち、能動的に行動できる人には特に総合人間学部を薦めたい。

卒業後の進路

約5割が大学院へ進学しますが、就職者の約2割が官公庁や大学関連の教育機関、また企業では2割強がマスコミやIT関連といった情報通信業への就職とその方面への躍進が見られます。その他化学・電気等のメーカー、人材派遣や広告業のサービス業、金融、商社等その就職先は総合人間学部の性質上多岐に渡っています。



就職先の例：

朝日放送、読売新聞、関西テレビ、NEC、伊藤忠商事、東京三菱銀行、大正製薬、国際協力事業団、JR西日本、NTT西日本、電通、東京税関など

総合人間学部で取得可能な資格

総合人間学部では、高等学校、中学校、養護学校の教育職員になることを目指す学生は、教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。また、博物館等の専門職員となるための学芸員の資格も、博物館法の定めにより、他学部の科目を修得することで、取得することができます。

総合人間学部で取得できる教育職員免許状の種類及び教科：

中学校一種 (国語、社会、数学、理科、保健体育、英語、ドイツ語、フランス語)、高等学校一種 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、情報、英語、ドイツ語、フランス語)

卒業生からのメッセージ



視界が広がる面白さ

2001年卒業
株式会社 エム・アイ・ティー勤務
竹本 尚正 さん

私は在学中、言葉を通じて「人とは何か」という問いにアプローチしていました。その際、様々な専攻の学友や先生方の価値観に触れ、試行錯誤する中で、視界が広がる面白さを感じました。

卒業後、世の中の問題は既存の学問の視点だけでは捉えきれない、ということを実感しています。しかし、そのような現実の問題に対しても、総合人間学部で得た視点を元に試行錯誤して解決することで、更に視界を広げることができています。



学びながら進路を決める学部

2002年卒業
野村総合研究所勤務
山瀬 正寛 さん

現在、東京にある野村総合研究所という会社で、いわゆる「システムエンジニア」の仕事をしています。業務内容は大手証券会社の基幹業務系システムの設計構築です。

大学時代は正直言って落ちこぼれの部類でしたが、総合人間学部で、色々な人達とふれあい、人間性を養えたことは、今でも大事な財産になっています。

文系/理系といった枠にとらわれない柔軟性、学生が自ら進路を考えていける自由な校風が総合人間学部の最大の魅力だと思います。

好きなことを学んで、個性豊かな友だちと交流して、魅力的な人になってください。

学系紹介

人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根底的な人間理解を目指す。その道筋として三つが考えられる。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理学的解明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的解明がなされる。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究がなされる。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象について歴史的社会的研究がなされる。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の六分野から成り、それらは相互に有機的に連関し、人間についての知を刷新して、新たな総合的学の構築を目指す。

人間存在論、創造行為論、人間形成論、社会行動論、文芸表象論、文化社会論

国際文明学系

「タコツボ化」した社会諸科学や人文諸学が現代社会の直面する深刻な諸問題の解決に十全な有効性を発揮し得ないという指摘がなされるようになってすでに久しい。

学生諸君には、本学系が提供する社会科学系諸分野あるいは日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する人文系諸分野のなかから特定のものを専攻として選択しその研究に従事する一方で、関連諸学を領域横断的に学び、言葉の真の意味での「ユニバーシティ」で学んだ人間であれば当然に体得すべき高度で幅広い教養（リベラル・アーツ）と柔軟な思考に裏づけられた専門知識の修得を心がけていただきたい。

「何をどう学ぶか」を自分自身で設計したいと願う意欲的で主体的な学生よ、来たれ。

文化環境学系

文化環境学系では、近代文明のグローバル化が進展する現代にあって、その基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を追求します。また、各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を複眼的な視点から解明します。

教育方針としては、文明に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解させ、文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につけさせます。

授業は、大学院・人間環境学研究所の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

多文化複合論、地域文明論、文明交流論、文化人類学、地域空間論、環境構成論

認知情報学系

脳、身体、言語、数理情報などに関する研究をおして、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。

人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数理機構が関与しています。

本学系では、脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる情報科学や数理科学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認識行動の総合的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知科学、行動制御学、身体機能論、現象数理論、数理情報論、言語情報科学、言語比較論、外国語教育論

自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球・宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを目指した学系です。物理学、有機・無機化学、生物科学、地球科学で構成されています。

それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、各自の「知」を求めることが目標となります。

講義は、大学院人間・環境学研究所の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

分子環境相関論、生命環境相関論、生物環境動態論、地球環境動態論、物質物性相関論、物質機能相関論



地震観測の実習

地面を叩いて揺らし、その震動を一列に並べた地震計で記録する。波形を解析することで、地下の速度構造について知ることができる。

専門科目

主専攻	科目
人間科学系	<p>【入門科目】 人間科学入門</p> <p>【人間存在論関係】 自己存在論A、自己存在論B、認識人間学A、認識人間学B、人間実践論A、人間実践論B、環境存在論、環境規範論、自己存在論演習A、自己存在論演習B、認識人間学演習A、認識人間学演習B、人間実践論演習A、人間実践論演習B、環境存在論演習、環境規範論演習、人間存在論特殊講義A、人間存在論特殊講義B、人間存在論特別演習</p> <p>【創造行為論関係】 舞台芸術論A、舞台芸術論B、創造行為論演習IA、創造行為論演習IB、創造行為論演習IIA、創造行為論演習IIB、近代芸術論演習A、近代芸術論演習B、舞台芸術論演習A、舞台芸術論演習B、創造ルネッサンス演習A、創造ルネッサンス演習B</p> <p>【人間形成論関係】 人間形成論、人間形成論演習IA、人間形成論演習IB、人間形成論演習IIA、人間形成論演習IIB、人間形成史論、人間形成史論演習A、人間形成史論演習B、関係発達論、関係発達論演習A、関係発達論演習B、精神病理学・精神分析学講義、精神病理学・精神分析学演習A、精神病理学・精神分析学演習B</p> <p>【社会行動論関係】 宗教現象学、生命倫理学、グループ・ダイナミクス実習A、グループ・ダイナミクス実習B、文化心理学実習A、文化心理学実習B、人間行動論、社会情報論、人間行動論演習A、人間行動論演習B、社会情報論演習A、社会情報論演習B、宗教学研究法論演習I、宗教学研究法論演習II</p> <p>【文芸表象論関係】 ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B、英米文芸表象論講義A、英米文芸表象論講義B、英米文芸表象論講義IA、英米文芸表象論講義IB、英米文芸表象論講義IIA、英米文芸表象論講義IIB、英米文芸表象論演習IA、英米文芸表象論演習IB、ドイツ文芸表象論演習A、ドイツ文芸表象論演習B、英米文芸表象論演習IIA、英米文芸表象論演習IIB</p> <p>【文化社会論関係】 動態映画文化論A、動態映画文化論B、制度・生活文化史A、制度・生活文化史B、メディア・スタディーズIA、メディア・スタディーズIB、ヒストリー・オブ・アイディアズA、ヒストリー・オブ・アイディアズB、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習A、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習B、動態映画文化論演習A、動態映画文化論演習B、制度・生活文化史演習A、制度・生活文化史演習B、メディア・スタディーズIIA、メディア・スタディーズIIB、メディア・スタディーズ演習A、メディア・スタディーズ演習B</p>

専門科目

主専攻	科目
国際文学系	<p>【入門科目】 国際文学入門 A, 国際文学入門 B</p> <p>【社会相関関係】 国家・社会法システム論 IIA, 国家・社会法システム論 IIB, 国家・社会法システム論 IIIA, 国家・社会法システム論 IIIB, 社会経済システム論 IA, 社会経済システム論 IB, 社会統計論 A, 社会統計論 B, 社会統計論基礎ゼミナール A, 社会統計論基礎ゼミナール B, 公共政策論 IA, 公共政策論 IB, 文明構造論 IA, 文明構造論 IB, 文明構造論 IIA, 文明構造論 IIB, 文明構造論 IIIA, 文明構造論 IIIB, 文明構造論 IVA, 文明構造論 IVB, 現代社会論 IA, 現代社会論 IB, 現代社会論 IIA, 現代社会論 IIB, 現代文明論 IA, 現代文明論 IB, 現代文明論 IIA, 現代文明論 IIB, 多文化社会論 IA, 多文化社会論 IB, 多文化社会論 IIA, 多文化社会論 IIB, 多文化社会論演習 IA, 多文化社会論演習 IB, 多文化社会論演習 IIA, 多文化社会論演習 IIB, 国際関係論 IA, 国際関係論 IB, 国際関係論 IIA, 国際関係論 IIB, 国際関係論 IIIA, 国際関係論 IIIB, 国際関係論 IV, 国家・社会法システム論 IA, 国家・社会法システム論 IB, 社会経済システム論 IIA, 社会経済システム論 IIB, 社会経済システム論 IIIA, 社会経済システム論 IIIB, 公共政策論 IIA, 公共政策論 IIB, 文明構造論演習 IA, 文明構造論演習 IB, 文明構造論演習 IIA, 文明構造論演習 IIB, 文明構造論演習 IIIA, 文明構造論演習 IIIB, 文明構造論演習 IVA, 文明構造論演習 IVB, 現代社会論演習 IA, 現代社会論演習 IB, 現代社会論演習 IIA, 現代社会論演習 IIB, 国際関係論演習 IA, 国際関係論演習 IB, 国際関係論演習 IIA, 国際関係論演習 IIB, 国家・社会法システム論演習 IA, 国家・社会法システム論演習 IB, 国家・社会法システム論演習 IIA, 国家・社会法システム論演習 IIB, 社会経済システム論演習 IA, 社会経済システム論演習 IB, 社会経済システム論演習 IIA, 社会経済システム論演習 IIB, 社会経済システム論演習 IIIA, 社会経済システム論演習 IIIB, 社会統計論演習 A, 社会統計論演習 B, 公共政策論演習 IA, 公共政策論演習 IB, 公共政策論演習 IIA, 公共政策論演習 IIB</p> <p>【歴史文化社会関係】 中国文字文化論, 中国書誌論, 中国古典講読 A, 中国古典講読 B, 欧米歴史社会論 IA, 欧米歴史社会論 IB, 欧米歴史社会論 IIA, 欧米歴史社会論 IIB, 中国社会論 IA, 中国社会論 IB, 中国社会論 IIA, 中国社会論 IIB, 日本語学・日本文学 IA, 日本語学・日本文学 IB, 日本語学・日本文学 IIA, 日本語学・日本文学 IIB, 日本語学・日本文学 IIIA, 日本語学・日本文学 IIIB, 日本宗教史論 A, 日本宗教史論 B, 書論・書写演習 A, 書論・書写演習 B, 古典講読 A, 古典講読 B, 日本語学文献講読 A, 日本語学文献講読 B, 西欧近現代表象文化論 IA, 西欧近現代表象文化論 IB, 西欧近現代表象文化論 IIA, 西欧近現代表象文化論 IIB, 西欧近現代表象文化論 IIIA, 西欧近現代表象文化論 IIIB, 西欧近現代表象文化論 IVA, 西欧近現代表象文化論 IVB, 西欧古代・中世表象文化論 IA, 西欧古代・中世表象文化論 IB, 西欧古代・中世表象文化論 IIA, 西欧古代・中世表象文化論 IIB, 西欧古代・中世表象文化論 IIIA, 西欧古代・中世表象文化論 IIIB, 欧米歴史社会論演習 IA, 欧米歴史社会論演習 IB, 欧米歴史社会論演習 IIA, 欧米歴史社会論演習 IIB, 日本歴史文化論 IA, 日本歴史文化論 IB, 日本歴史文化論 IIA, 日本歴史文化論 IIB, 日本歴史文化論演習 IA, 日本歴史文化論演習 IB, 日本歴史文化論演習 IIA, 日本歴史文化論演習 IIB, 中国社会論演習 IA, 中国社会論演習 IB, 中国社会論演習 IIA, 中国社会論演習 IIB, 中国文化論演習 IA, 中国文化論演習 IB, 日本語学・日本文学演習 IA, 日本語学・日本文学演習 IB, 日本語学・日本文学演習 IIA, 日本語学・日本文学演習 IIB, 日本語学・日本文学演習 IIIA, 日本語学・日本文学演習 IIIB, 西欧近現代表象文化論演習 IA, 西欧近現代表象文化論演習 IB, 西欧近現代表象文化論演習 IIA, 西欧近現代表象文化論演習 IIB, 西欧近現代表象文化論演習 IIIA, 西欧近現代表象文化論演習 IIIB, 西欧近現代表象文化論演習 IVA, 西欧近現代表象文化論演習 IVB, 西欧古代・中世表象文化論演習 IA, 西欧古代・中世表象文化論演習 IB, 西欧古代・中世表象文化論演習 IIA, 西欧古代・中世表象文化論演習 IIB, 西欧古代・中世表象文化論演習 IIIA, 西欧古代・中世表象文化論演習 IIIB</p>
文化環境学系	<p>【入門科目】 文化環境学入門 A, 文化環境学入門 B</p> <p>【文化・地域環境論関係】 環境構成論 I, 環境構成論 II, 環境構成論 III, 環境構成論演習 I, 環境構成論演習 II, 環境構成論演習 III, 環境構成論実習 I, 環境構成論実習 II, 環境構成論実習 III, 社会人類学演習 A, 社会人類学演習 B, 地域空間論 I, 地域空間論 II, 地域空間論 III, 地域空間論 IV, 地域空間論 V, 地域空間論演習 I, 地域空間論演習 II, 地域空間論演習 III, 文化動態論演習 A, 文化動態論演習 B, 環境人類学演習 A, 環境人類学演習 B, 文化行為論 A, 文化行為論 B, 社会人類学演習 A, 社会人類学演習 B</p> <p>【比較文明論関係】 ユーラシア文化複合論 A, ユーラシア文化複合論 B, ユーラシア文化複合論 IIA, ユーラシア文化複合論 IIB, ユーラシア文化複合論 IIIA, ユーラシア文化複合論 IIIB, ユーラシア文化複合論演習 A, ユーラシア文化複合論演習 B, ユーラシア文化複合論演習 IIA, ユーラシア文化複合論演習 IIB, ユーラシア文化複合論演習 IIIA, ユーラシア文化複合論演習 IIIB, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論 A, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論 B, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習 IA, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習 IB, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習 IIA, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習 IIB, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習 IIIA, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習 IIIB, 文化交渉複合論 A, 文化交渉複合論 B, 文化交渉複合論 IIA, 文化交渉複合論 IIB, 文化交渉複合論 IIIA, 文化交渉複合論 IIIB, 文化交渉複合論演習 A, 文化交渉複合論演習 B, 文化交渉複合論演習 IIA, 文化交渉複合論演習 IIB, 文化交渉複合論演習 IIIA, 文化交渉複合論演習 IIIB, 東北アジア文化・社会論 A, 東北アジア文化・社会論 B, 東北アジア文化・社会論 IIA, 東北アジア文化・社会論 IIB, 東北アジア文化・社会論 IIIA, 東北アジア文化・社会論 IIIB, 東北アジア文化・社会論演習 A, 東北アジア文化・社会論演習 B, 東北アジア文化・社会論演習 IIA, 東北アジア文化・社会論演習 IIB, 東北アジア文化・社会論演習 IIIA, 東北アジア文化・社会論演習 IIIB, 東ヨーロッパ比較言語論 A, 東ヨーロッパ比較言語論 B, 東ヨーロッパ比較言語論 IIA, 東ヨーロッパ比較言語論 IIB, 東ヨーロッパ比較言語論 IIIA, 東ヨーロッパ比較言語論 IIIB, 東ヨーロッパ比較言語論演習 A, 東ヨーロッパ比較言語論演習 B, 東ヨーロッパ比較言語論演習 IIA, 東ヨーロッパ比較言語論演習 IIB, 東ヨーロッパ比較言語論演習 IIIA, 東ヨーロッパ比較言語論演習 IIIB, 東アジア比較芸能論 A, 東アジア比較芸能論 B, 東アジア比較芸能論 IIA, 東アジア比較芸能論 IIB, 東アジア比較芸能論 IIIA, 東アジア比較芸能論 IIIB, 東アジア比較芸能論演習 A, 東アジア比較芸能論演習 B, 東アジア比較芸能論演習 IIA, 東アジア比較芸能論演習 IIB, 東アジア比較芸能論演習 IIIA, 東アジア比較芸能論演習 IIIB, 日欧知識交流史 A, 日欧知識交流史 B, 日欧知識交流史 IIA, 日欧知識交流史 IIB, 日欧知識交流史 IIIA, 日欧知識交流史 IIIB, 日欧知識交流史演習 A, 日欧知識交流史演習 B, 日欧知識交流史演習 IIA, 日欧知識交流史演習 IIB, 日欧知識交流史演習 IIIA, 日欧知識交流史演習 IIIB, 比較パラダイム文明論 A, 比較パラダイム文明論 B, 比較パラダイム文明論 IIA, 比較パラダイム文明論 IIB, 比較パラダイム文明論 IIIA, 比較パラダイム文明論 IIIB, 比較パラダイム文明論演習 A, 比較パラダイム文明論演習 B, 比較パラダイム文明論演習 IIA, 比較パラダイム文明論演習 IIB, 比較パラダイム文明論演習 IIIA, 比較パラダイム文明論演習 IIIB, 近現代民族移動論 A, 近現代民族移動論 B, 近現代民族移動論 IIA, 近現代民族移動論 IIB, 近現代民族移動論 IIIA, 近現代民族移動論 IIIB, 近現代民族移動論演習 A, 近現代民族移動論演習 B, 近現代民族移動論演習 IIA, 近現代民族移動論演習 IIB, 近現代民族移動論演習 IIIA, 近現代民族移動論演習 IIIB, 比較動態文化論 A, 比較動態文化論 B, 比較動態文化論 IIA, 比較動態文化論 IIB, 比較動態文化論 IIIA, 比較動態文化論 IIIB, 比較動態文化論演習 A, 比較動態文化論演習 B, 比較動態文化論演習 IIA, 比較動態文化論演習 IIB, 比較動態文化論演習 IIIA, 比較動態文化論演習 IIIB</p>
認知情報学系	<p>【入門科目】 認知行動科学入門, 言語・数理情報科学入門</p> <p>【認知行動科学関係】 神経機能論 I, 神経機能論演習 I, 神経機能論実験 I, 神経機能論ゼミ IA, 神経機能論ゼミ IB, 神経機能論 II, 神経機能論演習 II, 神経機能論実験 II, 神経機能論ゼミ IIA, 神経機能論ゼミ IIB, 神経機能論 III, 神経機能論演習 III, 神経機能論実験 III, 神経機能論ゼミ IIIA, 神経機能論ゼミ IIIB, 認知機能論 I, 認知機能論演習 I, 認知機能論実験 I, 認知機能論ゼミ IA, 認知機能論ゼミ IB, 認知機能論 II, 認知機能論演習 II, 認知機能論実験 II, 認知機能論ゼミ IIA, 認知機能論ゼミ IIB, 生体機能論 I, 生体機能論演習 I, 生体機能論実験 I, 生体機能論ゼミ IA, 生体機能論ゼミ IB, 代謝機能論 I, 代謝機能論演習 I, 代謝機能論実験 I, 代謝機能論ゼミ IA, 代謝機能論ゼミ IB, 代謝機能論 II, 代謝機能論演習 II, 代謝機能論実験 II, 代謝機能論ゼミ IIA, 代謝機能論ゼミ IIB, 運動機能論 I, 運動機能論演習 I, 運動機能論実験 I, 運動機能論ゼミ IA, 運動機能論ゼミ IB, 運動機能論 II, 運動機能論演習 II, 運動機能論実験 II, 運動機能論ゼミ IIA, 運動機能論ゼミ IIB, 運動機能論 III, 運動機能論演習 III, 運動機能論実験 III, 運動機能論ゼミ IIIA, 運動機能論ゼミ IIIB, 認知機能論基礎実験, 認知機能論基礎実験, 生体機能論基礎実験, 運動機能論基礎実験, 代謝機能論基礎実験</p> <p>【数理情報論関係】 数理現象論 A, 数理現象論 B, 数理構造論 A, 数理構造論 B, 数理学ゼミナール, 数理学特論 I, 数理学特論 II, 数理学特論 III, 複素解析 A, 複素解析 B, 実解析 A, 実解析 B, 計算機科学の基礎 A, 計算機科学の基礎 B, 情報処理の方法と演習 IA, 情報処理の方法と演習 IIB, 数理情報論講義 I, 数理情報論講義 II, 計算論 A, 計算論 B, 情報学概論演習 I, 情報学概論演習 II, 情報学概論基礎ゼミナール, 情報処理の方法と演習 I, [言語科学関係], 言語構造論 A, 言語構造論 B, 言語構造論演習 A, 言語構造論演習 B, 言語機能論 A, 言語機能論 B, 言語機能論演習 A, 言語機能論演習 B, 言語認知論 A, 言語認知論 B, 言語認知論演習 A, 言語認知論演習 B, 言語比較論 A, 言語比較論 B, 言語比較論演習 A, 言語比較論演習 B, 英語構造・表現論 A, 英語構造・表現論 B, 英語構造・表現論演習 A, 英語構造・表現論演習 B, 言語科学ゼミナール IA, 言語科学ゼミナール IB, 言語科学ゼミナール IIIA, 言語科学ゼミナール IIIB, 言語科学ゼミナール IIIA, 言語科学ゼミナール IIIB, 言語科学ゼミナール IVA, 言語科学ゼミナール IVB</p>
自然科学系	<p>【入門科目】 自然科学入門</p> <p>自然科学英語, 量子力学, 物性基礎論, 物性特論, 流体力学, 物質分析論, 物質機能論, 物質構造論, 分子構造論, 分子反応論, 生体分子機能論, 細胞生物学, 分子細胞生物学特論, 自然史特論, 生物適応変異論, 生物多様性・生態学, 物理学演習 A, 物理学演習 B, 物理数学演習, 物質構造機能論演習, 分子構造機能論演習 A, 分子構造機能論演習 B, 分子細胞生物学演習, 自然史演習, 地球科学演習, 課題演習: 物理学: 物質の構造と機能, 課題演習: 分子の構造と機能, 課題演習: 生物学, 課題演習: 地球科学, 自然科学特別ゼミナール A, 自然科学特別ゼミナール B</p>



しづか（奈良絵本）

文学部の紹介

本学部は、明治39年（1906）9月、文科大学として創設、大正8年（1919）2月文学部と称されることになりました。文科大学開設の年、哲学科が、翌40年（1907）9月史学科、さらにその翌41年（1908）9月に文学科が設置され、45年（1912）5月までには当初の研究体制がほぼ整備されました。それ以後、時代の要求に応じて講座の拡充が行われてきましたが、平成4年（1992）4月より新たに文化行動学科が設置され、4学科、44講座、30専攻となりました。平成7年（1995）4月から4学科を廃止し、新たに人文学科1学科が設置されました。

人文学科設置にあたっては近年の人文科学研究のめざましい発展に即応するとともに、現在人類が共通にもつ様々な特性や、共通に抱える思想的、倫理的、文化的、科学的課題を基礎においた新しい人文学の構築を目指しました。この目的に沿って、より広い学問的視野に対応した哲学基礎文化学系、東洋文化学系、西洋文化学系、歴史基礎文化学系、行動・環境文化学系、基礎現代文化学系の6つの系と、その中に従来の特攻に相当する32の専修学問分野が設置されています。人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問です。知的な人間活動の基礎を明らかにする、そうした人文学の諸学問に対して強い学習意欲をもち、将来の研究を担う新入生を本学部は歓迎します。

実際には、志願者が入学前に専修の志望を決定することは難しいと思われるので、2回生でそれぞれの系に、次いで3回生からは各専修に所属します。各専修とも人間社会についての深い知識と理解を必要とすることから、語学はもちろん、諸学を広く勉学することが望まれます。3・4回生時は、本格的に専門教育を行います。少人数の専門教育が原典に即して行われる場合が多くなります。また、各専修における高度の専門教育と並んで、人文学全体に対するより広い視野を養うため、それぞれの系を単位とした共通の授業も開講されます。卒業に際しては、演習指導をもとにして卒業論文を作成することが必要です。

文学部とは？

言うまでもなく、文学部は詩人や小説家を養成する学部ではありません。そもそも、何か特定の職業に就いて生きるための訓練の場所ではないのです。それでは、何をやる所でしょうか。たとえば、人が仕事の手を休め、ふと我に帰って、自分の人生や家族や社会や時代について、ぼんやりと考えを巡らすとき、知らず知らずのうちに文学部の研究領域にそっと触れていると言えます。つまりその人は無意識の内に、人って何だろう、社会とは何かという根源的な問いの前に立っているのです。この種の省察は、生きる上ですぐに役立つものではありません。でも本当は、人が人である限り、大切にしなければならないものなのでしょう。それを問い、省察し、研究するのが私たちの文学部なのです。

多様な研究と学問的伝統

文学部の多種多様な研究を束ねる唯一のキーワードは、人間とその文化的営み。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的にはこの日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の広大な研究領域をカバーする系と専修も実に多種多様です。学部生は2回生になる時に6つの系のいずれかに仮分属し、さらに3回生で32の専修のいずれかに分属します。それぞれの専修は、教員と学生（＝学部生＋大学院生）からなる独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心にした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問伝統を支えているのです。

国際化と新しい研究者の育成

日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。今では国際交流の活発化によって、哲学、歴史、文学、行動文化学、いずれの分野でも、国際化が進行しつつあります。その中で、日本人研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナルリズムの垣根を乗り越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めなければなりません。そのために文学部では学部生の段階から、外国留学や外国人研究者との交流、さらには専修横断の学際的な公開シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードにかなった研究者を育てようとしています。

文学部の4年間

1回生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目で、ごく少数のものを除いて学部専門科目の履修は2回生になってからです。2回生になるときには、3回生で専修に所属する準備として6つの系に仮分属します。文学部は理工系の学部と比べると規模は小さいですが、先にも触れたように32の専修があり、その研究内容は千差万別といってもよいくらいです。多くの専修での研究内容は皆さんにとっては未知のもので、すから、どのようにして専修を決定すればよいか、とまどうかもしれません。そこで、2回生では、1回生の秋に行った希望調査に従って系に仮分属し、各専修が開講している入門講義や基礎演習といった学部専門

科目を履修して、2回生の秋に希望専修を決定する準備をします。もちろん3回生になって専修に所属する際には、他の系の専修に所属することもできます。2回生で履修する文学部英語や各国語の文献講読は系の所属に従ってクラスが構成されて行われます。これは、各専門分野に関連した文献を読解するためのものです。

3回生では本格的な専門教育が始まります。各専修に所属して、講義の他、演習や特殊講義といった専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあります。そのような授業では、大学院生と同じ資格で報告を行ったり、討議に参加することになります。最初は圧倒されてとまどうかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研究というもの身近に感じられようになるでしょう。

4回生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、皆さんにとっては初めてのことで、ときには苦しいかもしれませんが、一つのを完成することの重要性を学ぶことができるでしょう。この経験は卒業以後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進学して研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一步となります。

連絡先：文学部第一教務掛 (075-753-2709)
<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

在学生からのメッセージ



「非実学」のすすめ

国語学国文学専修 3 回生
 辻本 佐紀子 さん

国文学は、実学ではない。「文学なんか勉強して社会の役に立つのだから」という問いは、進路決定の際、私を悩ませ続けた。古人の精神世界に近づいて共感したり驚いたりすることは大きな楽しみであり、自分自身の肥やしにもなるが、その成果はあくまで個人の中にとどまり、社会には届かないのではないかと。

しかし、成績のためでも職のためでもなく、ただ「おもしろいから」勉強する、という時間を四年ぐらいいらってもいいだろう、と結局気持ちはそこに落ち着いた。この「おもしろい」こそ、勉強のいちばんの動機であり、エネルギー源だと思う。そして、京都大学附属図書館や文学部の、独特の空気漂う書庫に一步踏み込めば、そこには、好奇心を刺激するたくさんの魂ある書物が静かにいきづいているのである。



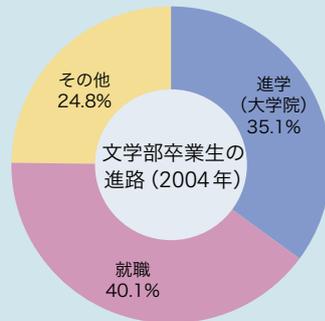
「無知の知」から「未来の知」へ

哲学基礎文化学系 2 回生
 藪本 沙織 さん

私は文学部生ですが、高校時代は理系クラスにいました。今の進路をとったことで、高校時代の勉強を無駄にしたねと、ときどき言われますが、身に付けた体系的な知識や考え方は、しばしば哲学などの文系講義での私の理解を助けてくれます。学問本来の複合性を垣間見る素晴らしい瞬間ですが、そうそう訪れてはくれません。大抵は講義のたび、いかに自分が物を知らない人間であるかを思い知らされて、がっかりするのです。しかしその度、自分なりに格闘するうちに、がっかりも塵となって積もり、最近では小さな丘が形成されつつあるようです。今日もこの大学では、そんな丘や、もしかしたら巨大な山脈がゆっくりと、しかし確実に形成されています。

卒業後の進路

ここ数年は、就職者が45%前後、大学院進学者が35%前後、他大学や各種学校への進学者が15%前後で、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまでは、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めていましたが、最近では通信業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。ここ数年での就職者が多い企業等は次のとおりです。
 NHK (日本放送協会)、京都市、紀伊國屋書店、NTT データ通信、朝日新聞社、NTT (日本電信電話)、中央出版社、日本経済新聞社、毎日新聞社、名古屋市、読売新聞社、エム・アイ・ティー (MIT)、大阪府立高校、デンソー、国立国会図書館



文学部で取得可能な資格

文学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、博物館学芸員の資格取得の教育課程を設けています。また、地理学専修の卒業生で測量に関する科目を修得し、卒業後1年以上測量に関する実務を経験した者は、測量士の資格を取得できます。他に、教育学部開講の所定の科目を履修することによって、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得できます。
 取得できる資格：教育職員免許 中学校一種 (国語・社会・英語・仏語・中国語・宗教) 高等学校一種 (国語・地理歴史・公民・英語・仏語・中国語・宗教)

卒業生からのメッセージ



教養小説を読みながら

2004年ドイツ語学ドイツ文学専修卒業
 京都大学大学院文学研究科修士課程在学中
 野々口 吉貴 さん

高校時代、読めないような難しい本を持って、かっこうをつけていました。私が文学部を選んだ理由は持っている本の中身を知ろうと思ったからです。大学生になると、それらを読みこなし、論じている人たちに会えました。すると、かっこうをつけていたことが恥ずかしくなります。同時にそのように思えるほど、少しは成長したようにも感じられます。

文学部では、繊細でありながら重厚な作家や思想家を含んでいるドイツ語学ドイツ文学を専攻しました。専門科目のほか、哲学の講義や演習に参加することもできました。現在、ドイツ文学において重要なジャンルといえる教養小説を読み進めています。現実を眺めるのも大切ですが、語り手や登場人物が現実を見るまなざしを感じることは味わい深いです。



「やさしい」博物館をめざして

1998年考古学専修卒業
 福井市立郷土歴史博物館勤務
 松村 知也 さん

大学院を中退して博物館に就職しましたが、館を新築・移転することで、すぐに休館。それから2004年3月の開館まで、新館の展示計画、旧館から新館への資料の引越など、新米ながら、一生に一度できるかどうかという貴重な経験を積むことができました。大学で得た知識を活かしながらも、それよりずっと多くのことを学びながらの数年間でした。

立派なハコはなんとかつくりあげることができましたが、肝心なのはこれからの活動だと思えます。知識欲旺盛な年配の方から歴史を学ぶ前のチビッコまで、誰もが来館するたびに、1つか2つは新しいことを楽しく学びとって帰ることができる、そんな誰にも「やさしい」博物館にしていきたいと考えながら、今は同僚達と試行錯誤の真っ最中です。

学系紹介

哲学基礎文化学系

ここでは、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たらんとする人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。

哲学、西洋哲学史(古代・中世・近世)、日本哲学史、倫理学、宗教学、キリスト教学、美学美術史(美学・芸術学、美術史学、比較芸術史学)

東洋文化学系

東洋文化学の5つの専修の名前から分かるように、「東洋文化学」の「東洋」は、日本、中国、インドのそれぞれを中心とした三つの文化圏を研究対象としています。それらの地域の文学、思想、語学、文化を歴史的に考察して行くのが、本系の主たる研究分野です。ただ、日本の文化は、中国文化の影響が大きく、中国文化はインド文化の影響を受けているので、隣接する国の文化の研究にも注意を払う必要があります。インド古典学では、紀元前から存在する多くの古典から、現代の口頭伝承までを研究対象としており、仏教学では、インドからチベット、中国周辺の仏教の研究を行います。中国関係では、専門教育の前に、中国語の学習をしていることが望ましく、インド古典、仏教学では、サンスクリットなど関係諸語、また英語、フランス語、ドイツ語の習得を重視しています。

国語学国文学、中国語学中国文学、中国哲学史、インド古典学、仏教学

西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず最初に十分な語学能力を養うことが大切です。また図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、有効に活用することができます。西洋文化学系は次の7つの専修からなり、それぞれの文化圏の文学、言語、芸術、思想、社会に関心をもつ学生諸君を待っています。

西洋古典学、スラブ語学スラブ文学、ドイツ語学ドイツ文学、英語学英文学、アメリカ文学、フランス語学フランス文学、イタリア語学イタリア文学

歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実にも努めている点も5専修の共通点です。

文学部の図書室だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所などの近隣の施設に豊富な史料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業—たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語など—を合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総合的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあると言えるでしょう。

日本史学、東洋史学、西南アジア史学、西洋史学、考古学

行動・環境文化学系

心理学専修では、心の働きを実験を通して研究しています。基礎心理学、実験心理学、基礎行動学分野では認知を中心とする基礎的領域を扱い臨床心理学は含みません。

言語学専修では、言語を記述的・歴史的研究を通して研究しています。言語学、動態言語学、調査言語学の分野では記述・理論言語学、比較言語学、個別言語分析などを扱っています。

社会学専修では、社会を実証的分析を通して研究しています。社会学、社会人間学、比較文化行動学の分野では資料に基づく社会学、家族社会学、フィールドワーク研究を扱っています。

地理学専修では、地理を形成・比較分析を通して研究しています。地理学、地域環境学、環境動態論の分野では歴史資料に基づく地理学、地域現象を対象とした研究を扱っています。

各専修ではそれぞれの分野について固有の基礎的な方法を修得することが不可欠です。講義内容を十分理解するために、2回生から入門的講義、演習、実習や講読の必須科目を設定しています。

心理学、言語学、社会学、地理学

基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなる小さな系ですが、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてもっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった現代文化を特徴づけるものではあるが、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野にも視野に入れ、私たちの生きている現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学

専門科目(学部共通科目)

1回生～	2回生～	3回生～	4回生
サンスクリット(2時間コース)、現代インド語(ヒンディー語)、テキスト処理入門	博物館学I、博物館学II、博物館学III、博物館学実習、ギリシア語(2時間コース)、ギリシア語(4時間コース)、ラテン語(2時間コース)、ラテン語(4時間コース)、スペイン語(初級)、スペイン語(中級)、イタリア語(初級4時間コース)、イタリア語会話(中級)、朝鮮語(初級)、朝鮮語(中級)、サンスクリット(4時間コース)、チベット語(初級)、アラブ語(初級)、ポーランド語(初級)、モンゴル語、オランダ語、満州語、英語、英語論文作成法	ヘブライ語、イラン語(初級)、チベット語(中級)	

専門科目 (系別科目)

系	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
哲学基礎文化学系	系共通科目(キリスト教) 講義	系共通科目(哲学) 講義, 系共通科目(西洋古代哲学史) 講義, 系共通科目(西洋中世哲学史) 講義, 系共通科目(西洋近世哲学史) 講義, 系共通科目(日本哲学史) 講義, 系共通科目(倫理学) 講義, 系共通科目(宗教学) 講義, 系共通科目(美学) 講義, 系共通科目(美術史学) 講義, 日本哲学史講読, キリスト教学講読, 美学美術史学講読	哲学特殊講義, 哲学演習, 西洋哲学史特殊講義, 西洋哲学史演習, 西洋哲学史講読, 日本哲学史特殊講義, 日本哲学史演習, 倫理学特殊講義, 倫理学演習, 宗教学特殊講義, 宗教学演習, 宗教学講読, キリスト教学特殊講義, キリスト教学演習, 美学美術史学特殊講義, 美学美術史学演習Ⅰ, 美学美術史学演習Ⅱ, 美学美術史学演習Ⅲ	卒業論文(哲学), 卒業論文(西洋哲学史), 日本哲学史演習, 卒業論文(日本哲学史), 卒業論文(倫理学), 卒業論文(宗教学), 卒業論文(キリスト教), 卒業論文(美学美術史学)
東洋文化学系	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学) 講義, 系共通科目(インド哲学史) 講義, 系共通科目(仏教学) 講義	系共通科目(国語学) 講義, 系共通科目(国文学) 講義, 系共通科目(中国語学) 講義, 系共通科目(中国文学) 講義, 系共通科目(中国哲学史) 講義, 国語学国文学講読, 中国語学中国文学講読, 中国哲学史講読, サンスクリット語学サンスクリット文学演習, インド哲学史講読	国語学国文学特殊講義, 国語学国文学演習, 中国語学中国文学特殊講義, 中国語学中国文学演習, 中国語学中国文学外国人実習, 中国哲学史特殊講義, 中国哲学史演習, サンスクリット語学サンスクリット文学特殊講義, サンスクリット語学サンスクリット文学演習, サンスクリット語学サンスクリット文学講読, インド哲学史特殊講義, インド哲学史演習, 仏教学特殊講義, 仏教学演習, 仏教学講読Ⅰ, 仏教学講読Ⅱ	国語学国文学演習, 卒業論文(国語学国文学), 卒業論文(中国語学中国文学), 卒業論文(中国哲学史), 卒業論文(サンスクリット語学サンスクリット文学), 卒業論文(インド哲学史), 卒業論文(仏教学)
西洋文化学系	系共通科目(西洋文化学) 講義, 系共通科目(西洋古典学) 講義, 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学) 講義, 系共通科目(イタリア語学イタリア文学) 講義	系共通科目(スラブ語学スラブ文学) 講義, 系共通科目(英語学) 講義, 系共通科目(英文学) 講義, 系共通科目(アメリカ文学) 講義, 系共通科目(フランス語学) 講義, 系共通科目(フランス文学) 講義, スラブ語学スラブ文学講読, ドイツ語学ドイツ文学講読, ドイツ語学ドイツ文学外国人実習, 英語学英文学講読, 英語学英文学外国人実習, アメリカ文学講読, アメリカ文学外国人実習, フランス語学フランス文学講読, イタリア語学イタリア文学講読	西洋古典学特殊講義, 西洋古典学演習, 西洋古典学講読, スラブ語学スラブ文学特殊講義, スラブ語学スラブ文学演習, スラブ語学スラブ文学外国人実習, ドイツ語学ドイツ文学特殊講義, ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅰ, ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅱ, ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅲ, 英語学英文学特殊講義, 英語学英文学演習Ⅰ, アメリカ文学特殊講義, アメリカ文学演習Ⅰ, フランス語学フランス文学特殊講義, フランス語学フランス文学演習Ⅰ, フランス語学フランス文学演習Ⅱ, フランス語学フランス文学外国人実習, イタリア語学イタリア文学特殊講義, イタリア語学イタリア文学演習, イタリア語学イタリア文学外国人実習	卒業論文(西洋古典学), 卒業論文(スラブ語学スラブ文学), 卒業論文(ドイツ語学ドイツ文学), 英語学英文学演習Ⅱ, 卒業論文(英語学英文学), アメリカ文学演習Ⅱ, 卒業論文(アメリカ文学), フランス語学フランス文学演習Ⅱ, 卒業論文(フランス語学フランス文学), 卒業論文(イタリア語学イタリア文学)
歴史基礎文化学系	系共通科目(考古学) 講義, 系共通科目(先史学) 講義	系共通科目(日本史学) 講義, 系共通科目(東洋史学) 講義, 系共通科目(西南アジア史学) 講義, 系共通科目(西洋史学) 講義, 日本史学講読, 東洋史学講読, 西洋史学講読, 考古学講読, 考古学実習	日本史学特殊講義, 日本史学演習Ⅰ, 日本史学実習, 東洋史学特殊講義, 東洋史学演習Ⅰ, 東洋史学演習Ⅱ, 東洋史学演習Ⅲ, 東洋史学演習Ⅳ, 東洋史学演習Ⅴ, 東洋史学演習, 東洋史学講読, 東洋史学実習, 西南アジア史学特殊講義, 西南アジア史学演習Ⅰ, 西南アジア史学演習Ⅱ, 西南アジア史学講読, 西南アジア史学実習, 西洋史学特殊講義, 西洋史学演習Ⅰ, 西洋史学演習Ⅱ, 西洋史学演習Ⅲ, 西洋史学演習Ⅳ, 西洋史学講読, 西洋史学実習, 考古学特殊講義, 考古学演習Ⅰ, 考古学演習Ⅱ	日本史学演習Ⅱ, 日本史学実習, 卒業論文(日本史学), 卒後論文(東洋史学), 卒業論文(西南アジア史学), 西洋史学演習Ⅴ, 卒業論文(西洋史学), 考古学演習Ⅲ, 卒業論文(考古学)
行動・環境文化学系	系共通科目(言語学) 講義Ⅰ	系共通科目(心理学) 講義Ⅰ, 系共通科目(言語学) 講義Ⅱ, 系共通科目(社会学) 講義, 系共通科目(地理学) 講義, 心理学実習Ⅰ, 心理学実習Ⅱ, 言語学基礎演習, 地理学講読, 地理学実習,	系共通科目(心理学) 講義Ⅱa, 系共通科目(心理学) 講義Ⅱb, 系共通科目(心理学) 講義Ⅱc, 系共通科目(心理学) 講義Ⅱd, 心理学講義, 心理学特殊講義, 心理学演習Ⅰ, 心理学演習Ⅱ, 心理学講読, 心理学実習Ⅲ, 言語学特殊講義, 言語学演習, 言語学卒論演習, 社会学特殊講義, 社会学演習, 社会学講読, 社会学実習, 地理学特殊講義, 地理学演習Ⅰ, 地理学講読	卒業論文(心理学), 卒業論文(言語学), 社会学演習, 卒業論文(社会学), 地理学演習Ⅱ, 卒業論文(地理学)
基礎現代文化学系		系共通科目(科学哲学) 講義, 系共通科目(科学史) 講義, 系共通科目(二十世紀学) 講義, 系共通科目(現代史学) 講義, 系共通科目(基礎現代文化学) 基礎演習Ⅰ, 系共通科目(基礎現代文化学) 基礎演習Ⅱ, 系共通科目(基礎現代文化学) 基礎演習Ⅲ, 系共通科目(基礎現代文化学) 講読Ⅰ, 系共通科目(基礎現代文化学) 講読Ⅱ, 系共通科目(基礎現代文化学) 講読Ⅲ, 系共通科目(基礎現代文化学) 講読Ⅳ, 系共通科目(基礎現代文化学) 講読Ⅴ, 系共通科目(基礎現代文化学) 講読Ⅵ	系共通科目(基礎現代文化学) 講読Ⅳ, 科学哲学科学史特殊講義, 科学哲学科学史演習, 二十世紀学特殊講義, 二十世紀学演習, 現代史学・現代日本論特殊講義, 現代史学・現代日本論演習	科学哲学科学史演習, 卒業論文(科学哲学科学史), 二十世紀学演習, 卒業論文(二十世紀学), 現代史学・現代日本論演習, 卒業論文(現代史学・現代日本論)



教育学部の紹介

京都大学教育学部は昭和24年5月31日、新制京都大学が発足すると同時に設立され、同年7月1日第1回の入学者を迎えました。

教育学部の起源は、明治39年9月、京都帝国大学開設と共に設置された教育学教授法講座に発しており、同講座は昭和28年8月教育学部に移管されるまで、47年間にわたって文学部哲学科に所属し、その講座名からもうかがわれるように、教育学における原理と方法、理論と実践の統一を重視して、斯学の研究と教育に貢献してきました。

教育学部は、戦後の学制改革にあたって、教育という広範で複雑な諸事象とその学問的基礎となるべき教育諸科学の重要性をふまえて、この教育教授法を基礎とし、教育諸科学の総合的な研究・教育にあたる学部として発足しました。教育学部発足と同時に教育学教授法第2講座が翌年には教育心理学講座が文学部に設置されましたが、両講座は昭和26年4月教育学部に移管、同時に教育史、教育方法学、図書館学の3講座が新設され、1学科5講座で出発しました。その後教育学教授法第1講座が旧制文学部学生の卒業を待って文学部から追加移管され、また新しい講座も逐次増設されて、昭和51年度には教育心理学・教育心理学・教育社会学の3学科制になりました。

このように教育学部は、教育諸科学の研究とその教育を任務とする学部として設けられましたが、同時に学部発足以来、本学の全学部学生のために、教育職員を養成するための教職課程の運営と教育に当たると共に、現職教員の再教育にも力を注いでいます。

また、いったん他の学問分野で専門教育を受けた者、あるいは大学卒業後社会経験を積んだ者で再度本学部に入學して教育諸科学の勉学を望む者が近年増加しているのを受けて、昭和58年4月から一般社会人を含めた国内外の大学卒業生の第3年次編入学を行っています。

さらに戦後の社会の急速な変化に伴う青少年の発達上の問題にかかわる教育相談と治療を行うため、それまでの実践的蓄積を基に、昭和55年から心理相談室が開設され平成9年4月には、それを発展させた臨床教育実践研究センターが設置されました。

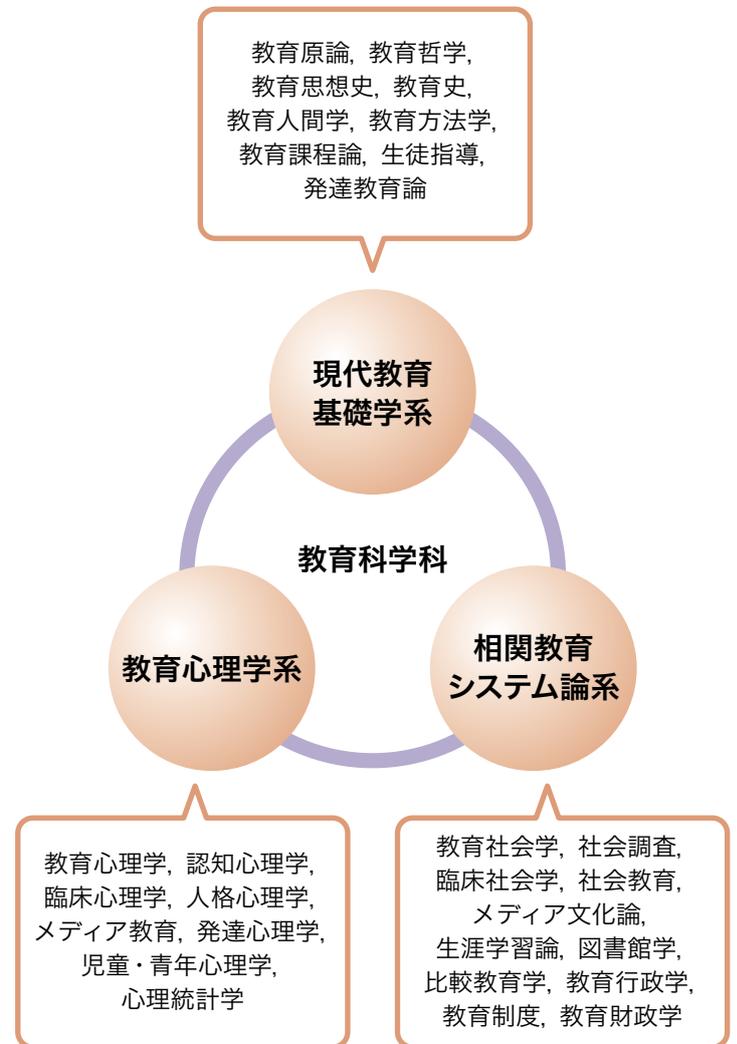
最近では教育心理学系スタッフを中心に、21世紀COEプログラム「心の動きの総合的研究教育拠点」を推進し多様な研究活動を行っています。「イメージと表象の性質と機能」「身体化された心」「文化・社会的環境との相互作用」「進化と生涯発達」という4つのテーマを軸に、国際シンポジウムやワークショップの開催、海外からの客員研究員の招聘、院生の海外派遣などさまざまな企画が実施されており、基礎研究から臨床実践までを包含しています。

教育学部の4年間

教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間らしさを擁護し促進する態度」を啓培するための高度な一般教育と幅広い専門基礎教育を行っています。

教育学部生については、1回生の必修科目として「教育研究入門」「情報学」を開講しています。また、全学の学生を対象にして、教職科目をはじめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及び少人数ゼミ等の教養教育科目を開講しています。

教育学部は、1学科（教育科学科）3大学科目（系）で教育編成を行っており、それぞれの大学科目における専門教育領域は、以下のとおりです。



選抜試験により毎年60名が入学しています。当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育としての教養科目を受講することができます。

入学当初は所属する系を特定せず、各自が学習をすすめるながら最も適した道を探して、3年次に系への分属決めます。

平成6年度(1994)から2年次学生に対し、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては分属試験を課す場合があります。

なお、昭和58年度(1983)から一般社会人を含めた国内外の他大学卒業生等を対象に編入学試験を行い、約10名が第3年次に入学しています。

連絡先：教育学部教務掛 (075-753-3010)
http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/



在学生からのメッセージ



教育学部に入って

教育科学科2回生
奥村 好美さん

私は様々な授業を履修しています。たとえば、京都の伝統の生成と継承(世代間伝達と教育)に着目し、各グループでインタビューによる聞き取り調査をして発表する、フィールドワーク実習の授業などがあります。このように教育学部では、興味深い実習も多く、広くいろいろなことが学べます。

「教育」は、誰もが受ける大変馴染みのあるものです。しかし、少年犯罪など多くの社会問題が発生している今、もう1度考え直さなければならぬような気がします。そして、このような時代の中で「教育」について、学び関わっていくことで、自分に何ができるだろうか、ということを考えていきたいと思っています。



心の冒険家

教育科学科4回生
東畑 開人さん

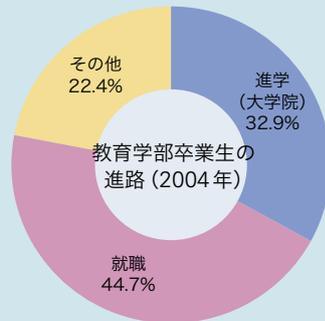
私が学んでいる臨床心理学とは、人の心の奥に広がっているまだ誰も地図を持っていない未知の世界を探検するための学問です。

現在私は、遠いギリシャの昔から議論されてきた「美とは何か」という問題に、臨床心理学という武器を片手に取り組んでいます。勉強に打ち込んでいた時には、プラトンやカントと共に美について語り合っているような気分になります。

心は誰もが持っているものです。それでいて、心についてはよくわかっていない事が本当にたくさんあります。現在、この学問には可能性が満ち溢れているのです。

卒業後の進路

教育学部の平成15年度卒業生は76人で、そのうち34人(約45%)が就職している。その中には教育(学校)関係に就職し、教師等になった人も数人いる。また、25人(約33%)は大学院に進学している。残りの17人(約22%)は聴講生等である。



就職先の例：

NTT 西日本、サントリー、朝日新聞社、JTB、日本生命、千葉銀行、鹿児島県立高校教諭、奈良学園教諭、公文教育研究会、岐阜県庁、奥村組、住友化学工業、JR九州、毎日放送など

教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許状の中学校1種、高等学校1種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に定められた特殊教育に関する専門教育科目の必要単位を修得すれば、養護学校教諭の1種、2種免許状を取得することができます。

その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える専門職員である社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事にたずさわる専門職員である学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務にたずさわる専門職員である図書館司書の資格を取得することができます。また教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

卒業生からのメッセージ



幅広い学習の上での高い専門性を

2000年卒業
株式会社富士総合研究所公共システム部勤務
松本 留奈さん

私は、官公庁で開かれる研究会で、行政問題への解決策を提案する仕事をしています。そこでは、常に時代の流れを把握し、即座的確かな答えを出すことが要求されます。このハードな仕事を支えるのは、学生時代培った基礎力です。優秀な先生方のご指導により、1、2年次に文科系学問全般の基礎を、3年次以降は専攻分野での専門性の高い知識や統計分析のスキル、ゼミでのプレゼンテーションを身に付けることができました。これら全てが今、役立っています。現代社会は、技術の進歩や価値観の多様化・流動化にともない、様々な既成の枠組みが崩れ、急速に変化を遂げています。こんな時代を生き抜くために、皆様には、変革期にある「教育」を軸に、幅広い視野での分析力や柔軟な思考力をしっかりと身に付けてくださることを期待しています。



将来の可能性を広げる

1997年卒業
文化庁文化財部伝統文化課企画係長
橋田 裕さん

もともと、幼い頃から教員を志していたものの、高校3年の進路選択時に、より幅広い観点から教育の問題を捉えたいと思い、京都大学教育学部を志望しました。実際、学部では教育行政学を専攻し、我が国や諸外国の教育と教育行政の歴史、制度、現状等に触れるにつれて、学校現場自体よりも、学校を支援する側の教育行政の仕事に興味をひかれ、現在の文部科学省に入省するに至りました。

私の例に限らず、教育学部は、幅広く教育の意味や役割等を学ぶことにより、自らの可能性を広げることができる学部だと思います。ゼミをはじめ学部での主体的な学びの中で、ぜひ「自分が将来何をしたいのか。そのためには、何を必要とするのか。」を見いだしていただけると幸いです。

大学科目(系)紹介

現代教育基礎学系

現代教育基礎学系は、哲学、思想、歴史、心理学などに基盤を置く専門分野から構成され、教育に関わる事象について、学校教育はもとより家庭教育、社会教育など広い領域を視野に入れた研究・教育を行っている。教育についてのものの考え方や見方が、どのようにして形成されるのか、人間の生成、成長発達はどうに捉えられるのか、実際の学校教育において、授業はどのような仕組みや方法で行われているのか、その教育内容はどんな原理で構成されているのか、など教育活動の基礎を様々な研究方法やアプローチを通して教授する。

教育の現場やフィールドとして人間の活動領域を捉え直し、教育学についての幅広くかつ周到な識見を備えた専門家を育てるためのカリキュラムを提供している。

教育原理、教育哲学、教育思想史、教育史、教育人間学、教育方法学、教育課程論、生徒指導、発達教育論

教育心理学系

教育心理学系では、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが組み、他学部の心理学系教室とも連携して活発な教育・研究活動が行われている。

教育心理学では人の発達の特徴、教授-学習法、知能、メディア教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざす。認知心理学では、記憶、推論、意思決定、他者理解、共感といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに心理実験・調査等を実施して各自の研究をまとめる。臨床心理学では人格の形成、心理療法の諸理論、心の健康とストレス等に関する基礎知識を習得し、種々の心理検査の実習を通して臨床実践に役立つ手法を身につける。教育心理学系では、心の仕組みとはたらしきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本としつつ、大学院進学希望者の指導にも力を入れており、教育心理学・認知心理学・臨床心理学の研究者をめざす人、大学院修了後に臨床心理士の資格取得をめざす人にも適した教育カリキュラムを整備している。

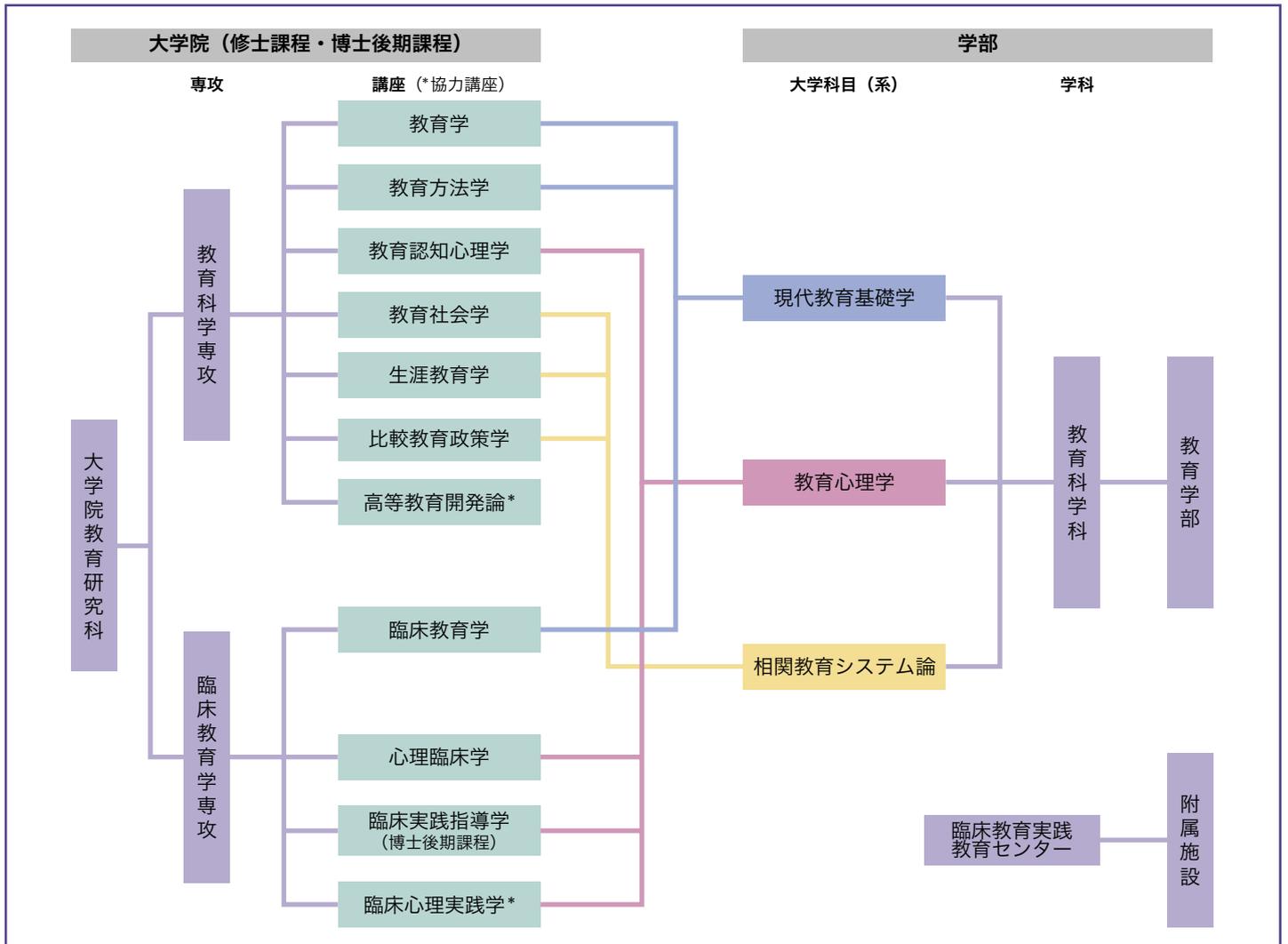
教育心理学、認知心理学、臨床心理学、人格心理学、メディア教育、発達心理学、児童・青年心理学、心理統計学

相関教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。相関教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探求することを目的としています。教育社会学では、人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学の手法を用いて分析しています。生涯教育学では、図書館やメディアを含んで、生活のなかでの多様な学習のあり方を、とりわけ国際的・歴史的な観点から理論的、実践的な研究をしています。比較教育政策学では、国際的視野に立って、教育制度、政策、実践、理論などの比較考察をしています。また政策科学的視点からは、具体的に教育行財政についての立案などを行っています。学部教育においては、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学、社会調査、臨床社会学、社会教育、メディア文化論、生涯学習論、図書館学、比較教育学、教育行政学、教育制度、教育財政学

教育学研究科及び教育学部における研究・教育の概略図



専門科目

大学科目(系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
現代教育基礎学系	教育研究入門Ⅰ, 教育研究入門Ⅱ, 情報学Ⅰ, 情報学Ⅱ	教育原理Ⅰ, 教育原理Ⅱ, 民族と教育, 教育史概論Ⅰ, 教育史概論Ⅱ, 教育史概論Ⅲ, 教育史, 教育学基礎演習Ⅰ, 教育学基礎演習Ⅱ, 遠隔教育演習, 臨床教育学基礎演習Ⅰ, 臨床教育学基礎演習Ⅱ, 臨床教育学概論Ⅰ, 臨床教育学概論Ⅱ, 身体教育学, 教育方法論, 発達教育論Ⅰ, 発達教育論Ⅱ, 学校論, 生徒指導論, 精神保健Ⅰ, 精神保健Ⅱ, 教育生理学Ⅰ, 教育生理学Ⅱ, 障害児教育の教育課程論, 教育方法学基礎演習Ⅰ, 教育方法学基礎演習Ⅱ, 教育心理学実習 A, 教育心理学実習 B, 心理学統計実習 A, 心理学統計実習 B, 教育人間学概論Ⅰ, 教育人間学概論Ⅱ, 教育課程論Ⅰ, 教育課程論Ⅱ, 障害児教育指導法Ⅰ, 障害児教育指導法Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ, 小児の発育生理と衛生Ⅱ, 健康教育学Ⅰ, 健康教育学Ⅱ	教育情報学, 教育学専門ゼミナールⅠ, 教育学専門ゼミナールⅡ, 教育史専門ゼミナールⅠ, 教育史専門ゼミナールⅡ, 教育史文献講読演習Ⅰ, 教育史文献講読演習Ⅱ, 教育史実習, 臨床教育学講読演習Ⅰ, 臨床教育学講読演習Ⅱ, 臨床教育学専門ゼミナールⅠ, 臨床教育学専門ゼミナールⅡ, 教育方法専門ゼミナールⅠ, 教育方法専門ゼミナールⅡ, 発達教育専門ゼミナールⅠ, 発達教育専門ゼミナールⅡ, 教育方法講読演習Ⅰ, 教育方法講読演習Ⅱ, 発達教育講読演習Ⅰ, 発達教育講読演習Ⅱ	
教育心理学系	教育研究入門Ⅰ, 教育研究入門Ⅱ, 情報学Ⅰ, 情報学Ⅱ	人格心理学概論Ⅰ, 人格心理学概論Ⅱ, 認知心理学概論Ⅰ, 認知心理学概論Ⅱ, 児童・青年心理学講義, メディア教育概論, 教育認知心理学基礎演習 A, 知覚心理学講義 A, 知覚心理学講義 B, 発達心理学講義 A, 発達心理学講義 B, 社会心理学講義, 文化心理学講義, 臨床教育学基礎演習Ⅰ, 臨床教育学基礎演習Ⅱ, 教育心理学実習 A, 教育心理学実習 B, 心理学統計実習 A, 心理学統計実習 B, 教育心理学概論Ⅰ, 教育心理学概論Ⅱ, 臨床心理学概論Ⅰ, 臨床心理学概論Ⅱ, 障害児心理学講義Ⅰ, 障害児心理学講義Ⅱ, 教育認知心理学基礎演習 B, 臨床教育学概論Ⅰ, 臨床教育学概論Ⅱ, 発達教育論Ⅰ, 発達教育論Ⅱ	教育情報学, 乳幼児発達論, 発達心理学講義 C, 認知心理学講義Ⅰ, 認知心理学講義Ⅱ, 比較心理学講義, 神経生物心理学講義, 多変量解析論, 教育心理学コロキアムⅠA, 教育心理学コロキアムⅠB, 教育心理学課題演習Ⅰ, 認知心理学課題演習, 臨床心理学課題演習, 教育心理学講読演習Ⅰ, 教育心理学講読演習Ⅱ, 臨床心理学講読演習Ⅰ, 臨床心理学講読演習Ⅱ, 臨床心理学実習Ⅰ, 臨床心理学実習Ⅱ	教育心理学コロキアムⅡ, 教育心理学課題演習Ⅱ
相関教育システム論系	教育研究入門Ⅰ, 教育研究入門Ⅱ, 情報学Ⅰ, 情報学Ⅱ	教育社会学概論Ⅰ, 教育社会学概論Ⅱ, 臨床社会学概論Ⅰ, 臨床社会学概論Ⅱ, 社会学講義, メディア文化論, 生涯学習概論Ⅰ, 生涯学習概論Ⅱ, 社会教育計画論Ⅰ, 社会教育計画論Ⅱ, 同和・人権教育論, 図書館情報学概論Ⅰ, 図書館情報学概論Ⅱ, 図書館サービス論, 資料組織論, 図書館資料各論, 学習指導と学校図書館, 学校経営と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 比較教育学概論Ⅰ, 比較教育学概論Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ, 教育行政学概論Ⅱ, 憲法第一部, 憲法第二部, 行政学, 財政学Ⅰ, 財政学Ⅱ, 教育法学, 相関教育システム論基礎演習ⅠA, 相関教育システム論基礎演習ⅠB, 相関教育システム論基礎演習ⅡA, 相関教育システム論基礎演習ⅡB, 情報サービス論, 情報サービス論演習, 情報検索演習, 資料組織論演習Ⅰ, 資料組織論演習Ⅱ, 情報メディアの活用, 相関教育システム論基礎演習Ⅲ	教育情報学, 教育社会学講義, 教育社会学史, 現代教育社会論, 図書館経営論, 図書館資料論, 比較教育学講義, 行政法Ⅰ部, 教育行政学, 教育経営学Ⅰ, 教育経営学Ⅱ, 教育社会学専門ゼミナールⅠ, 教育社会学専門ゼミナールⅡ, 社会調査Ⅰ, 社会調査Ⅱ, 生涯教育・図書館情報学専門ゼミナールⅠ, 生涯教育・図書館情報学専門ゼミナールⅡ, 比較教育学専門ゼミナール, 教育政策学専門ゼミナール, 教育社会学講読演習Ⅰ, 教育社会学講読演習Ⅱ, 教育社会学講読演習Ⅲ, 生涯教育学・図書館情報学講読演習Ⅰ, 生涯教育学・図書館情報学講読演習Ⅱ, 比較教育政策学講読演習	

教職科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	教職教育論, 教育学概論Ⅰ, 教育課程論Ⅰ, 比較教育学概論Ⅰ, 教育人間学概論Ⅰ, 比較教育学概論Ⅱ, 教育社会学概論Ⅰ, 教育行政学概論Ⅰ, 教育行政学概論Ⅱ, 教育心理学Ⅰ, 教育心理学Ⅱ, 教育心理学Ⅲ, 授業心理学Ⅰ, 授業心理学Ⅱ, 教育方法論, 道徳教育論, 教育課程論Ⅱ, 教育学概論Ⅱ, 特別活動の理論と実践, 教育人間学概論Ⅱ, 教育社会学概論Ⅱ, 生徒指導論, 生徒指導の精神と具体的方策, 教育相談, 国語科教育法Ⅰ, 国語科教育法Ⅱ, 社会科教育法Ⅰ, 社会科教育法Ⅱ, 地理歴史科教育法, 公民科教育法, 数学科教育法Ⅰ, 数学科教育法Ⅱ, 理科教育法Ⅰ, 理科教育法Ⅱ, 英語科教育法Ⅰ, 英語科教育法Ⅱ, 保健体育科教育法Ⅰ, 保健体育科教育法Ⅱ, 商業科教育法, 工業科教育法, 農業科教育法, 情報科教育法Ⅰ, 情報科教育法Ⅱ, フランス語科教育法Ⅰ, フランス語科教育法Ⅱ, ドイツ語科教育法Ⅰ, ドイツ語科教育法Ⅱ, 中国語科教育法, 水産科教育法, 宗教科教育法, 民族と教育, 同和・人権教育論, 発達教育論Ⅰ, 発達教育論Ⅱ	教職総合演習, 教育実習Ⅰ	教育実習Ⅱ, 障害児教育実習, 教職教育, 職業指導



法学部の紹介

法学部は、明治32年（1899年）に法科大学として創設されました。それ以来、すでに32,700余名の卒業生を世に送り出しています。

創設期の教授陣は、東大法科をトップクラスで卒業した者を中心に30代の新進気鋭の学者から成っていました。彼らは、自由な学問研究を尊び、ドイツの大学に範を求めて、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。明治32年から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では、そのような制度はそのままの形では残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

発足時の講座数は23でしたが、戦前すでに32講座に達し、戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応して次第に拡充をとげ、昭和58年度には、大講座2を含め39講座を擁するにいたりました。平成4年度からは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、従来学部配置されていた講座を大学院に配置した21の大講座へと再編するとともに、この大学院講座の担当者が学部教育を兼担するかたちに組織変更がなされました。平成16年4月には、法科大学院の設置にともない、大学院全体の組織に大きな変更がなされ、12の大講座に再編されました。

また、平成15年度には、本学部・大学院の「21世紀型法秩序形成プログラム」が文部科学省「21世紀COEプログラム」の一つに採択され、大きな補助金を得て、活発な研究が続いています。

法学部は、国家や社会のあり方を見直したり、組織を運営するときに必要な基礎的知識を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換を迎えつつあり、それに伴って様々な問題が生じています。こうした状況に対応して新しい制度を設計するためには、法律や政治の仕組みに関する専門的な知識と、社会全体を視野に収めながらそれらを組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。

法学部の4年間

卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学は、夏休みを境に、1年を前期と後期の2学期に分ける Semester 制を採用しており、外国語および保健体育科目を除き、半期週1時間の科目は2単位、半期週2時間の科目は4単位となっています。卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とに分かれます。教養科目は半期2単位が原則であり、専門科目には、2単位科目と4単位科目（週2時間）とがあります。卒業するためには、教養科目を46単位以上、専門科目については、演習2単位を含む84単位以上を取得しなければなりません。

第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、一般教養科目、外国語科目、および保健体育科目からなり、これらの科目は、「全学共通科目」として提供されます。

一般教養科目は、人文・社会科学系科目と自然科学系科目からなります。例をあげれば、人文・社会科学系科目は、哲学、心理学、社会学、歴史学、文学、経済学、政治学、法学等に属する科目群からなり、自然科学系科目は、数学、物理学、化学、生物学等に属する科目群からなります。卒業するためには、人文・社会科学系科目から5科目20単位以上、自然科学系科目から2科目8単位以上取得しなければなりません。

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語からなり、英語を6単位以上、その他の外国語のうち一つを8単位以上取得しなければなりません。外国語の単位の計算は、他の科目に比べて2倍重いものになっています。また、第一学年における外国語科目は、原則として学部のクラス単位で開講されます。

保健体育科目は、講義と実技それぞれ2単位、合計4単位まで履修することができますが、人文・社会科学系科目または自然科学系科目で代替することもできます。

これらの教養科目は、卒業までのどの学年においても履修することができますが、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1回生、2年生のことを2回生と呼びます。

高学年になるほど専門科目の授業が増える

1回生に配当される（つまり1回生のみが受講・受験することができる）専門科目は、通年4単位の外国語講読（英語）と、半期2単位の、法学入門、政治学入門、家族と法、司法制度論のみです。外国語講読は、原書講読方式による少人数教育をめぐり、クラス単位で開講されます。

2・3回生配当科目は、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一部、国際機構法です。その他の専門科目は、原則として3・4回生配当科目ですが、2回生も一定限度内で受講・受験できる2・3・4回生配当科目というものもあります。2・3・4回生配当科目のうち、民刑事法関連科目としては、刑法第二部と民法第二部があり、ほかに政治関連科目（政治原論、政治過程論、国際政治学、政治史、日本政治外交史、政

治思想史、行政学等)と基礎法関連科目(法理学、法社会学、法制史科目)があります。政治関連科目と基礎法科目については、2科目に限り履修を認めることになっています。

3・4回生配当科目としては、憲法・民法・刑法の各分野の科目のほか、行政法、国際法、刑事訴訟法、民事訴訟法、商法、労働法、外国法等の科目と政治学の各科目があります。経済学部の一部の科目も受講・受験できることになっています。

演習は3・4回生に配当され、半期2単位で、4単位まで履修できます。少人数クラスで周回の予習に基づいた活発な討論が行われることが期待されています。

科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成の趣旨は、1回生・2回生では、専門科目を勉強する前提として必要な広くかつ深い教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の勉強も、法律学については、中心科目の基礎的部分と基礎法科目の一部のみの学修にとどめ、政治学についても、その一部を学修するにとどめ、専門科目の本格的な勉強は3回生以上から始めることを推奨するということです。必修科目はありませんので、このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。

連絡先：法学部第一教務掛 (075-753-3107)
<http://kyodai.jp/>

在学生からのメッセージ



争いを解決する能力を養う

4回生
 宇田川 尚子 さん

世の中には、子供同士の争いから国際紛争にいたるまで、様々な争いがあります。法学部では、それぞれの争いについて、法律を基礎に、よりよい解決方法を探し出す能力を身に付けることができます。

私は、国際紛争に関心があったので、3回生時に国際法ゼミに参加しました。折しも、イラク戦争の直後だったので、イラク戦争を法的観点から分析し、政治において法律が果たす役割について考えました。

また、私は、京大からの派遣留学生として、1年間カリフォルニア大学でGlobal Studiesを専攻する予定です。国際政治や国際法だけでなく、紛争の発生原因となりうる宗教、人権、貧困なども学びたいと考えています。



「自由」という試練が与えられる場

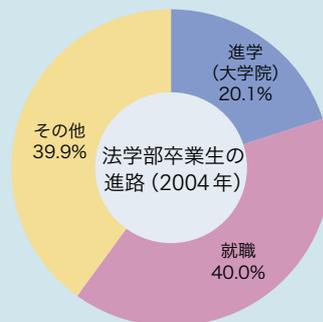
3回生
 近藤 圭介 さん

法学部の特徴を一言で表すならば「自由」です。必修科目が存在せず、学生の自主性・主体性を重んじる「自由」な校風は、時として「自分はどうかあるべきか」という根源的な疑問を投げかけるでしょう。高校までのような「定型」が存在しない法学部は、自分自身で「道」を開拓していかなければならず、この意味において「試練の場」と感じられます。

しかし、だからこそ、自分のもつ無限大の可能性を最大限追求できる環境が作り出されるのかもしれない。さらに、法律学・政治学といった共通の問題意識を通じて行われる学生・教授との交流は、自身の洞察力を涵養する機会となると思います。

卒業後の進路

卒業生の進路は、司法修習生、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、平成16年度より開学した、全国各地の法科大学院へは、進学者の約4分の3が進学しています。また、民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広くなっています。



法学部で取得可能な資格

法学部では、教育免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

取得できる資格の例：

教育職員免許状 (中学1種社会・高校1種公民)

卒業生からのメッセージ



時代の転換期に関われる喜び

2003年卒業
 防衛庁防衛局計画課
 土井 千春 さん

大学では絵画の勉強から法律まで興味のあるものを学んでみました。その結果、就職にあたっては将来性、やりがいといった魅力から防衛庁に就職することを希望しました。1年目に配属された法令審査という部署は、まさに有事法制に真正面から取り組むという体験をしました。現在は防衛局に配属され、防衛大綱及び中期防を作ることにかわらせて頂いています。1年目2年目ともに忙しい日々を送っていますが、大学で学んだ安全保障や国際法或いは憲法といった基礎が少なからず役立っていると思います。



議論をして思考力を身につけよう

2003年卒業
 第57期司法修習生 (鳥取地方裁判所配属)
 森 祥平 さん

京大法学部に入学された方には、是非、ゼミなどで積極的に議論してほしいと思います。相手の意見を理解したり、相手を説得したりするには、しっかりとした法的思考や知識が必要だからです。

私が今勉強している法律実務では、重大な影響が出るような事実認定や法的判断を、時間をかけずにしなければならぬ時があります。迅速で正確な判断は、議論で鍛えた思考力が身に付いていないと到底できません。

法律家は、国際的な活動をしている巨大企業の業務から普通の市民生活まで様々な場面で必要とされています。鳥取市のような地方の小都市でも、そのニーズは非常に高く、いつも驚かされています。まさに、日本中で、法的思考を身につけた人材が必要とされているのです。そして、法的思考を身につければ、皆さんも必ず活躍できると思います。

教員紹介

田中成明教授（法理学）

法動態への相互主体的視座の確立という関心から、法理學理論の構築と現代日本の法状況の比較的研究を行っています。

大嶽秀夫教授（政治学）

1980年代以降の日本政治の動向とくに行政改革と政党再編の政治過程とその影響。

西村健一郎教授（社会保障法）

社会保障の法理論。

森本滋教授（商法）

会社法の比較研究・金融関連法の研究。

河上倫逸教授（西洋法制史）

ヨーロッパ近・現代法を歴史的文明現象として把握し、その比較研究。法の歴史的社會理論の構築。

位田隆一教授（国際法）

国際開発法の研究の完成を旨とすと共に、国際法の観点から生命倫理の研究と実践を進めています。

林信夫教授（ローマ法）

ローマ社会における契約法を中心に、法の存在態様、展開過程の歴史的メカニズムの解明に取り組んでいます。

伊藤之雄教授（日本政治外交史）

日本の政党政治や外交の発達過程や近代・現代国家の展開と共に、伊藤博文・原敬などの有力政治家を考察しています。

木南敦教授（英米法）

アメリカ合衆国の法制度について比較という観点を取り入れて研究しています。憲法、信託法、小切手法といろいろ取り上げています。

新川敏光教授（政治過程論）

福祉国家の構造、その発展と再編の政治について、比較論的に研究しています。

浅田正彦教授（国際法）

国際法の諸問題につき軍縮や武力行使を素材として研究を行い、国際法全般にわたって教育を行っています。

酒巻匡教授（刑法）

刑事手続法の基本問題。

洲崎博史教授（商法）

保険契約法の基本問題。

山本敬三教授（民法）

現代契約法の基礎的研究。

服部高宏教授（ドイツ法）

現代ドイツにおける法形成過程に関する研究。ケアの法制度化をめぐる諸問題に関する研究。

杉原高嶺教授（国際法）

国際裁判の制度と機能の研究、海洋法制度の研究、及び国際法の体系化の研究。

中森喜彦教授（刑法）

犯罪論の体系的構築。

吉岡一男教授（刑事学）

犯罪現象の包括的理解にもとづいて、刑事法や刑罰など刑事制度を中心に、犯罪対応のあるべき姿を検討しています。

芝池義一教授（行政法）

国や地方自治体が行っている行政活動のための法制度、例えば情報公開制度や環境アセスメント制度、さらにこれら個別の制度を分析するための「行政法的一般理論」について研究しています。

錦織成史教授（民法）

とくに、不法行為、損害賠償の分野を中心に研究しています。

岡村周一教授（行政法）

行政訴訟法その他行政法の諸問題の研究。

的場敏博教授（政治学）

現代日本の政党政治を、①戦後日本の政党政治の流れの中に、②他の先進民主主義国との比較の中に位置づけています。

山本豊教授（民法）

契約の内容規制、消費者契約、電子契約など現代契約法の先端的問題の研究。

松岡久和教授（民法）

不動産物権変動論、金融・担保法、不当利得法などを具体的な各論の中心に置き、最終的には民事財産法の構造をどう捉えるかを研究しています。

川濱昇教授（経済法）

独占禁止法と証券取引法を中心に経済法の全般を法と経済学的手法も利用しつつ分析しています。

潮見佳男教授（民法）

民事責任の基本問題。

山本克己教授（民事手続法）

民事手続法の基本問題。

前田雅弘教授（商法）

株式の適切な管理運営を確保するために、法はどうあるべきかという問題を中心に研究しています。

北村雅史教授（商法）

企業の健全性確保の見地から、経営者の義務・責任や経営機構に関する会社法制度のあり方について研究しています。

伊藤孝夫教授（日本法制史）

日本法制史全般にわたる諸問題、日本近代法の形成と展開。

木村政昭教授（比較政治学）

国家に関する歴史社會学的研究。現在は国家と民族に関して取り組んでいます。

棚瀬孝雄教授（法社会学）

現代法秩序の研究。

櫻田嘉章教授（国際私法）

生活関係の国際化に伴い、私人の間で発生する法律問題を解決するための基礎及び応用理論。

徳田和幸教授（民事訴訟法）

民事訴訟における手続保障のあり方、多数当事者訴訟に関する諸問題等についての研究。

初宿正典教授（憲法）

近代以降のドイツ憲法史にヒントを得つつ、日本国憲法の諸問題を特にドイツ憲法と比較しながら研究しています。

小野紀明教授（政治思想史）

特に20世紀の西洋政治哲学を哲学や芸術思潮と関連させながら研究している。他方で、今日の社会的問題に積極的に対応しようと試みる現代規範理論も、政治思想史を基礎として考察しています。

大石眞教授（憲法）

民主制・議会制度を中心とした憲法学の研究を行うとともに、日本憲法史や宗教法制などを考察しています。

寺田浩明教授（中国法制史）

伝統中国における法（成文法や裁判や契約）のあり方を比較法史的視点から研究しています。

眞淵勝教授（公共政策）

日本官僚制の研究。とくに経済官庁が対象である。ゼミでは市町村合併や年金など、近年話題になっている政策テーマが取り上げられています。

村中孝史教授（労働法）

雇用されて働いている人たちの労働条件や、労働組合をめぐる法律関係について、教育・研究を行っています。

亀本洋教授（法理学）

正義論と法學方法論を中心に、法理学または法哲学と呼ばれる分野の研究と教育を行っています。

岡村忠生教授（税法）

国際課税の諸問題、特に多国籍企業への課税や、個人所得課税の基本問題について、研究を進めています。

鈴木基史教授（国際政治行政分析）

国際紛争・協調の実証的・理論的分析。

塩見淳教授（刑法）

市民の安全確保と自由領域の保障とをともに果たしうるような刑法を求めて研究・教育を行っています。

秋月謙吾教授（行政学）

中央地方関係にかかわる官僚制の研究。

<p>横山美夏教授 (民法・フランス法)</p> <p>契約に関わる基礎的な法律問題について、フランス法と日本法とを比較検討しながら研究しています。</p>	<p>中西寛教授 (国際政治学)</p> <p>国際政治の歴史的展開。</p>	<p>佐久間毅教授 (民法)</p> <p>権限のない者がおこなった契約などの取引の効力をどのように考えるべきかを、主に研究しています。</p>
<p>笠井正俊教授 (民事訴訟法)</p> <p>民事訴訟における審理の在り方、専門的知見を要する訴訟に特有の問題等を中心に研究を進めています。</p>	<p>唐渡晃弘教授 (政治史)</p> <p>ヨーロッパ政治外交史、とくに民族問題と国民国家の研究</p>	<p>土井真一教授 (憲法)</p> <p>憲法の基本原理、とりわけ法の支配と権力分立論について、研究を行っています。</p>
<p>毛利透教授 (憲法)</p> <p>民主主義と表現の自由の基礎理論、統治機構改革、憲法訴訟論などを研究しています。</p>	<p>中川英彦教授 (企業法務及び国際取引法)</p> <p>企業活動と法の接点、法と実務との乖離、その解決方法はどうかなど、法と実務の架け橋を探求しています。</p>	<p>松田一弘教授 (知的財産権法)</p> <p>特許について、進歩性、記載要件などの特許要件、侵害訴訟における均等論を中心に研究しています。</p>
<p>上子秋生教授 (行政実務)</p> <p>我が国の地方公共団体の行政活動および運営に関する法制度についての研究を行っています。</p>	<p>本多正樹教授 (企業法務)</p> <p>金融取引、金融制度に関連する法的諸問題の研究</p>	<p>山田文助教授 (民事手続法)</p> <p>民事紛争解決手続(訴訟外手続を含む)について、制度論的・法解釈論的なアプローチで研究しています。</p>
<p>中西康助教授 (国際私法)</p> <p>国際民事手続法の基礎理論及び欧州統合における法の役割について研究しています。</p>	<p>高山佳奈子助教 (刑法)</p> <p>因果関係や故意・責任能力といった犯罪の成立要件、および犯罪に対する刑罰のあり方を研究しています。</p>	<p>橋本佳幸助教 (民法)</p> <p>不法行為法を中心に、民事財産法の直面している現代的諸問題について研究・教育を行っています。</p>
<p>待鳥聡史助教 (アメリカ政治)</p> <p>議会と大統領が別個に選ばれる「二元代表制」下で、政決定に大きな権限を持つ議会の研究を行っています。</p>	<p>堀江慎司助教 (刑事訴訟法)</p> <p>伝聞法則をはじめとする刑事証拠法の研究とともに、刑事手続法全般についての教育を行っています。</p>	<p>島田幸典助教 (比較政治学)</p> <p>英独を中心とする欧州諸国制の比較的研究。</p>
<p>深澤龍一郎助教 (行政法)</p> <p>行政機関が裁量権限を行使することによって発生するさまざまな法的問題について研究を行っています。</p>	<p>船越資晶助教 (法社会学)</p> <p>批判法学の法・社会理論</p>	<p>戸田暁助教 (企業法務)</p> <p>証券取引法などの企業法の理論と実務に関する諸問題について研究を行っています。</p>
<p>稲森公嘉助教 (社会保障法)</p> <p>社会保障の法理論及び法制度について、主に医療保障のしくみを中心に研究を行っています。</p>	<p>齊藤真紀助教 (商法)</p> <p>会社における関係者間の利害調整枠組みの研究。</p>	<p>奈良岡聰智助教 (日本政治外交史)</p> <p>大正期を中心とする近代日本の政党政治、政官関係、日英関係</p>
<p>増田史子助教 (国際取引法)</p> <p>国際商取引法、とくに国際運送を中心に、貿易取引の私法的規整について研究しております。</p>	<p>愛知靖之助教 (知的財産法)</p> <p>特許法、とりわけ特許発明の技術的範囲画定に関する諸問題を中心に研究を行っています。</p>	<p>アリスティアスウェール助教 (国際公共政策)</p> <p>主に明治期の政治思想・行政学を研究してきたが、最近是新古典の政治経済学と新公共経営を分析しています。</p>

専門科目 (平成16年度開講分)

法学部専門科目	経済学部開講科目	演習
憲法第一部、憲法第二部、行政法第一部、行政法第二部、税法、社会保障法、国際法第一部、国際法第二部、国際機構法、刑法第一部、刑法第二部、刑事訴訟法、刑事学、民法第一部、民法第二部、民法第三部、民法第四部、商法第一部、商法第二部、経済法、民事訴訟法、国際私法、国際取引法、労働法、法理学、法社会学、日本法制史、西洋法制史、東洋法史、ローマ法、英米法概論、法学入門、家族と法、ドイツ法、フランス法、政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策、政治学入門①、政治学入門②、日本政治思想史、司法制度論、特別講義(外交史、法情報論、現代法理論、イスラームの法と政治、現代アジア・アメリカ論、法学基礎文献)、特殊講義(韓国の政治と経済)、外国書講読(英)、外国文献研究(英・独・仏)、演習	経済原論 IA、経済原論 IB、経済原論 IIA、経済原論 IIB、経済政策論 A、経済政策論 B、財政学 A、財政学 B、経済史 A、経済史 B、労働経済論 A、労働経済論 B、世界経済論 A、世界経済論 B、金融論 A、金融論 B、統計学 A、統計学 B、経営学原理 A、経営学原理 B、会計学原理 A、会計学原理 B、経済学史 A、経済学史 B、日本経済史 A、西洋経済史 A、西洋経済史 B、社会政策論 A、公共経済学 A	憲法、行政法、税法、社会保障法、国際法、国際機構法、刑法、刑事学、民法、商法、経済法、国際私法、労働法、法理学、法社会学、日本法制史、ローマ法、東洋法史、英米法、ドイツ法、政治原論、政治過程論、比較政治学、国際政治学、国際政治経済分析、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策



経済学部の紹介

伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919（大正8）年に法学部（法科大学）から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899（明治32）年から経済学関連の講義がスタートしていましたから、その歴史は日本でも一、二という伝統をもっています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的な分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2002年に、大和証券グループの協力を得て、金融・証券システム寄附講座を開設しました。また、同年、現代中国経済の調査研究のメッカとすべく、上海センターを設立しました。

自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から自主的に選択し、自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

また、本学部では、創立以来、演習（ゼミナール）制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

多様性と国際性

本学部は、論文入試をはじめ、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は大学院生を含めると京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。

経済学部の4年間

第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、経済学部が提供する「入門科目」を受講し、経済学の基本を学ぶことになります。入門科目には、「マクロ経済学入門」、「ミクロ経済学入門」、「社会経済学入門」、「基礎統計学」、「経済史・思想史入門」、「現代経済事情」、「経営学入門」、「会計学入門」、「情報処理入門」があります。これら9つの科目の概要については、2ページ後に紹介しています。

第2学年から学ぶこと

第2学年からは経済学の専門科目を受講することができます。専門科目は、「専門基礎科目」と「専門科目」に分かれています。「専門基礎科目」として、マクロ経済学、ミクロ経済学、社会経済学、計量経済学、経済統計学、経済史、経済学史、経済思想など経済学の基本となるもの、国の経済活動に関わる経済政策や財政学、資金の流れに関する金融論、経営学の基礎である経営学原理、企業の仕組みに関する経営組織論、企業が顧客に対してどうすればよいかを考えるマーケティング、企業を営むために必要な資金を考える経営財務論や会計学などがあります。「専門科目」としては、今日の経済・経営の分野において必要とされる多数の講義が用意されています。これら「専門基礎科目」と「専門科目」はすべて選択科目であり、必修科目はありません。さらに、経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて幅広い分野から、自分自身の興味と関心に応じて、自主的に受講科目を選択することができます。

少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習（ゼミナール）です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的なテーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉学意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強を通じて身につけた能力は、一生役立つと思います。第2学年からゼミナールに参加することができます。ゼミナールは各教員が特定のテーマで毎年各学年10名を募集し、指導します。第3学年進級時に、所属ゼミナールを変更することも認められています。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方が生まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育まれてきたものをしっかりと勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積まなければならないことと同じです。経済学の

考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことのできる場所が京都大学経済学部です。

大学院への入学について

最近では、約1割強の学生が大学院経済学研究科に進学します。京都大学大学院経済学研究科には、「博士コース」と「ビジネス科学コース」とがあります。「博士コース」は、経済学・経営学の研究者を育成するためのコースです。修士課程と博士後期課程からなる5年間のコースです。2004（平成16）年度から、修士課程に「ビジネス科学コース」が設置されました。このコースは、産学連携の一層の進展、あるいは実践的な高度専門職業人の養成という時代の要求に積極的に応えることを目的としています。このコースでは、経営戦略、経営管理、会計、マーケティング、といった伝統的な経営学分野でのカリキュラムに加えて、ファイナンス工学、ベンチャー経営、ITビジネス、公共政策など、時代が要求するいくつかの先端的な専門教育を行っています。

連絡先：経済学部教務掛（075-753-3406）
<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/>

在学生からのメッセージ



自主性を生かす経済学部

2回生
 塚田 麗さん

毎日、新聞やテレビに取り上げられている経済。その経済にも幅広い分野がありますが、私は世界の経済事情をもっと詳しく知りたいと思い、経済学部に入りました。

経済学部では学部科目に必修科目がないので、多種多様な授業の中から自分の好きな授業を自由に選択できます。私は国際経済に関係する講義を多めに履修し、他に関心がある授業も履修しています。この通り経済学部は、自主性を尊重しているので、自分が望む充実した大学生活を描くことが可能なのです。

2回生から始まるゼミは少人数で、普通の講義とは違い、発表する場などが設けられています。ゼミでは、先輩と知り合う機会ができ、皆懂れる人ばかりです。



経済学で世界を見る

経済学部経済学科3回生
 吉田 晋也さん

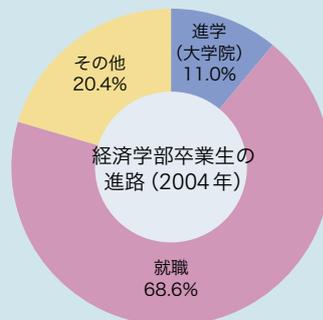
高校生の頃、新聞記事や本など通じて、社会主義経済体制の崩壊、貿易摩擦、バブルの崩壊などの経済問題に触れ、経済とは何なのか、またどのように動くのかということについて学びたいと考え始め、経済学部経済学科に進みました。

現在はゼミにおいて国際経済学を中心に学習しています。経済がグローバル化し国境を越えてモノ・金・人が移動する現代において、国家間・世界規模での経済活動の重要性が増しています。ゼミでは理論の学習の他、現在の最新の経済問題に関する研究もおこなっています。

為替レート、日本のFTA、日中貿易などが日々ニュースで取り上げられる今日、それらを経済的に理解することは非常におもしろいと感じています。

卒業後の進路

京都大学経済学部はすでに80年余の歴史があり、多数の個性的な人材を社会に送り出してきました。学界のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界・実業界のトップリーダーも少なくありません。毎年1割強の学生は大学院へ進学しています。



就職先の例：

三井住友銀行、トヨタ自動車、住友商事、中央青山監査法人、三洋電機、東京電力、東京三菱銀行、農林中央金庫、東京海上火災保険、監査法人トーマツなど

経済学部で取得可能な資格

大学を除くすべての国公立、私立学校の教員となるためには教育職員免許状が必要です。

経済学部は教員免許状についての課程認定を受けており、教育職員免許法に定められた所要の単位を修得すれば、次の種類の免許状が取得できます。

高等学校教諭：「地理・歴史」、「公民」、「商業」
 中学校教諭：「社会」

卒業生からのメッセージ



知と自由 痴の余裕 恥の理由

2002年卒業
 朝日放送勤務
 丹田 佳秀さん

早く働きたいと思っていた高校時代。「働くなら経済の勉強もした方がいいよな」

そんな安易な理由で選んだのが経済学部でした。良くも悪くも自由と言われる京大。パラダイスと呼ばれる経済学部。酒におぼれた自分。お恥ずかしいことに「勉強」なんてものをした記憶がほとんどありません。

そんな私もいまや放送局の記者をしています。殺人と強盗の毎日。電話1本で呼び出され、そのまま数週間も徹夜が続いたり、暇な日々が続いたり。泥まみれ、地を這うような取材もすれば、華やかに？テレビカメラの前に立つことも。刺激の絶えない仕事です。

この仕事、必要なのは体力・精神力、モノをみる視点。今思えば大学4年間は、いろんな奴がいて、いろんな考え方を知ったいい場所だったかなと思います。



思考するモラトリアム

2003年卒業
 JR東海勤務
 村田 真一さん

経済学部を選んだのは、何か高邁な思想があったわけではありません。社会ってどう回っているんだ？という疑問の正解があるかもしれない、と漠然と感じただけです。

実際は、経済学も正解をなかなか示してはくれませんが（浅学のせいでもありましょうが・・・）。ただ、考える種は与えてくれます。また、本学はその種を芽吹かせるだけの時間もくれます、かなりたくさん。

私は現在鉄道会社で営業の仕事をしています。営業といっても、直接お客様と触れることはなく、駅等の相談係といったところです。現場から様々な相談事が毎日舞い込みます。突飛な事柄も多くあります。その度、ベストな方法を早急に模索しなければならず、考える癖を得た学生時代が役立っています。

いろんなことをゆっくり考えられる時間を是非楽しんでください。

入門科目紹介

ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心にした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればいいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。

基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だった様です。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測ることなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計、など応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検定を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

経済史・思想史

温故知新という言葉を知ってますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考えるべし、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありえません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いていますので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となってきました。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させてくれると思います。

会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基いて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するためだけに活用されるものではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。

講座・教員一覧

専攻名	講座名	教授	助教授	講師	助手
経済システム分析	経済理論	八木紀一郎 小島専孝 宇仁宏幸	遊喜一洋	ディミター・ヤルナゾフ	
	統計・情報分析	大西広 森棟公夫	中島康彦		白井亨
	歴史・思想分析	田中秀夫 堀和生	坂出健 竹澤祐丈		
経済動態分析	比較制度・政策	本山美彦 今久保幸生 岡田知弘 久本憲夫 岩本武和	黒澤隆文	稲葉久子	
	金融・財政	(植田和弘) 古川顯	島本哲朗 諸富徹		
	市場動態分析	橘木俊詔 田尾雅夫 西牟田祐二	文世一		
現代経済学	現代経済学	下谷政弘 西村周三 塩地洋	依田高典 渡邊純子	櫻田忠衛	
	国際経営・経済分析	山本裕美 根井雅弘	菊谷達弥 宇高淳郎		
ビジネス科学	経営管理・戦略	若林靖永 成生達彦	曳野孝	マスワナ・ジャン・クロード	
	市場・会計分析	上總康行 藤井秀樹	若林直樹 澤邊紀生		
	事業創生	赤岡功 日置弘一郎 徳賀芳弘	末松千尋 相山泰生		
	ファイナンス工学	木島正明	岩城秀樹		
	ビジネス科学	吉田和男	松井啓之		
プロジェクトセンター			北野尚宏		
寄附講座 金融・証券システム	大西匡光 カバノフ・ユーリ・ミハイロビッチ	辻村元男			

専門科目 (系別科目)

1・2 回生	2 回生～	3 回生～
<p>●入門科目</p> <p>ミクロ経済学入門, マクロ経済学入門, 社会経済学入門, 経済史・思想史入門, 現代経済事情, 経営学入門, 会計学入門, 基礎統計学, 情報処理入門</p>	<p>●専門基礎科目</p> <p>ミクロ経済学 1, ミクロ経済学 2, マクロ経済学 1, マクロ経済学 2, 社会経済学 1, 社会経済学 2, 経済史 1, 経済史 2, 経済政策論 1, 経済政策論 2, 財政学, 金融論, 計量経済学, 経済統計学, 経営学原理, 経営戦略, 経営組織 1, 経営組織 2, マーケティング 1, マーケティング 2, 経営財務, 会計学 1, 会計学 2</p> <p>●専門科目 I</p> <p>社会思想史, 日本経済論, 公共経済学, 世界経済論, 社会政策論, 経済数学 1, 経済数学 2, 経営史, 財務会計, 管理会計, 組織経済論, 情報処理論 1a, 情報処理論 1b, 情報処理論 2a, 情報処理論 2b</p>	<p>●専門科目 II</p> <p>経済学史, 社会経済変動論, 経済哲学, 意思決定論, 計画理論, 経営情報論, 日本経済史, アジア経済史, 欧米経済史, 工業経済論, ヨーロッパ経済論, 経済統合論, 国際経済学, 国際金融論, 比較経済システム論, 市場経済移行論, 労働経済論, 農業経済論, 国際農政論, 地域産業論, 地域開発論, 金融政策, 租税論, 公共政策論, 地方財政論, 財政政策論, 金融リスク論, 証券投資論, 派生証券論, ファイナンス工学, サービス経済論, 保険論, 医療経済学, 交通経済論, 情報・通信産業論, 現代経済思想, 進化経済学, 産業組織論, 比較経営論, 産業・企業成長論, 東アジア経済論, 現代日本産業論, 人的資源管理論, オペレーション・マネジメント, 都市経済学, 組織調査論, 国際経営史, 非営利組織経営, 流通論, マーケティング・リサーチ, 会計監査論, 経営分析論, 原価計算論, 国際会計論, 企業家・起業家論, IT ビジネス論, 国際経営論, ネットワーク経済論, 事業創成, ベンチャービジネス論, ベンチャーキャピタル論</p>

大学院連携科目	「特別科目」及び「演習」	留学生対象科目
応用計量経済学, 上級計量経済学, 上級統計学, 上級数理統計学, 思想史の方法と対象, データベース構築論, 国際財政論, 金融システム論, 土地経済論, 環境経済学, 数理経済学, 国際マーケティング	外国経済書講読, 演習, 卒業論文, 特殊講義	基礎比較経済論, 基礎日本経済論, 基礎企業論, 基礎国際企業論, 基礎組織行動論



理学部の紹介

自然はどのようになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を持つ人達が、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

理学部は、京都大学の中でも最も長い歴史をもつ学部で創立以来何度かの改革を行ってきましたが、最近の大きな改革は1998年に理学科のみの一学科制が発足したことです。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を可能にし、同時に従来の学問分野の枠組みにとらわれない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育ていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著明な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野を幾つも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくられるものではありません。このような環境において、今また、21世紀COE拠点として、5専攻(系)の全てにあたる5つの教育研究計画が評価され、理学部全体で活動を開始しています。

理学部の4年間

1年次・2年次では、主として全学共通科目と理学部学部科目を履修する

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目、外国語科目、保健体育科目などと学部科目である専門基礎科目を主として履修します。これらの科目は、大学院人間・環境学研究科及び理学研究科を実施責任部局として全学部ならびに研究所、研究センターなどが、全学部の学生を対象に開講されている。また、講義以外には演習、ゼミナール、講読、実験、実習など様々な形で授業は行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

少人数クラスを設け履修を円滑に進める

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終わりまでに取得しておく必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあれば相談できるよう、理学部教員2人が対応する少人数クラス(10名)が設けられています。

3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する

理学部は理学科1学科とし、この学科には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

- 数理科学系：数学
- 物理科学系：物理学，宇宙物理学
- 地球惑星科学系：地球物理学，地質学・鉱物学
- 化学系：化学
- 生物科学系：動物学，植物学，生物物理学

3年次では、これらのいずれかの系に属し、その系が担当する課題演習を履修し、続いて4年次において課題研究(卒業研究)または講究(数学系)を履修します。従って、2年次の終わりの時期には系登録を行います。

全学共通科目に関しては、以下のように大別してA～Bの4群とこれらの組み合わせから成っています。

- A群科目 人文・社会科学系
- B群科目 自然科学系
- C群科目 外国語
- D群科目 保健体育
- A・B群科目 科学史など
- A・C群科目 文明論など
- B・D群科目 健康科学など

学部科目としては、専門基礎科目と専門科目とがありますが、科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。特に専門科目は履修単位の上限はありません。これは広く浅く学ぶことを薦める意図ではなく、年次とともにその専門化の程度を進めて、自己に適した専門

的課題を見つけて、それに関連する分野の科目を重点的に履修し易くするためのものです。

4年次では卒業研究に取り組む

4年次では、数学系では講究と呼び、他の系では課題研究と呼ばれる卒業研究が必須科目になっています。この科目の履修においては、学生は、個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力をつけます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

学部3年次から大学院への入学について

大学院理学研究科は、数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に3年以上在学した者で、理学研究科が所定の科目とそれを優秀な成績で単位取得したと認められた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。また、修士課程または博士課程において、特に優秀と理学研究科が認められた者に、それぞれ、1年で修士、または修士課程と合計して3年の在学で博士の学位が授与されることがあります。

連絡先：理学部第二教務掛 (075-753-3637)

<http://www.sclib.kyoto-u.ac.jp/kusci/index-j-top.html>

在学生からのメッセージ



暖かい数学分野

4回生

山中 野々花 さん

「自由放任」の真骨頂、数学分野でも近年では分かりやすいカリキュラム、講義の内容が身に付くように演習をつけるなどの工夫が見られます。数学をする学生は大学（の例えば上に挙げたような制度）を利用したり、自主セミナーをしたり、じっと家に引き籠って独学したりと勉強する形態は様々で、こうじゃなきゃいけないということはないと思います。いかなる道を辿るにせよ、楽しんで数学をすることができたらいい。するといつのまにか暖かな環境にいる自分に気付くことでしょう。そして今後もそんなおらかな大学であって欲しいものです。



不思議を知り、そして生み出す

理学研究科化学専攻修士課程2年

福地 将志 さん

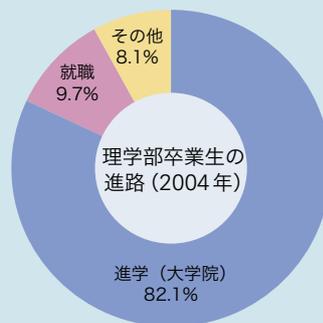
私は、NMR（核磁気共鳴）という分析装置における方法論の開発を行っています。このNMRという装置を用いることで、新たに合成された物質の同定やタンパク質の三次元構造を決定することができます。わたしたちはどのようにして良質なスペクトルを得るか、というテーマで研究しています。化学系では、四回生で研究室に配属されて、研究生生活を始めることになり、ほとんどの人が大学院に進みます。一、二回生の頃は、分野の区別がなく、色々な講義に出席して、ゆっくりと自分のやりたいことを決めることができます。初めはゆっくりと好きなことを探し、そしてどっぷりと研究にはまっていく、そんな学部です。

卒業後の進路

卒業後大学院に進学する者が全体の5分の4以上に達し、博士の学位取得者は毎年100人を越えています。卒業後民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分1程度です。

就職先の例：

日本IBM, 富士通, 三洋電機
第一生命, 三井住友銀行, 共同通信社など



理学部で取得可能な資格

理学部では、教育職員免許状の高等学校教諭一種免許状（数学・理科）と中学校教諭一種免許状（数学・理科）の課程認定を、数理学系・物理科学系・地球惑星科学系の卒業生については測量法施行令第14条第1項に規定する「相当する学科」としての認定を受けています。また、学芸員資格についても、必要な科目を修得することにより取得することが可能です。

取得できる資格の例：

教育職員免許状（高等学校教諭一種免許状〈数学・理科〉、中学校教諭一種免許状〈数学・理科〉）、測量士補、学芸員資格

卒業生からのメッセージ



学部生の四年間について

2000年卒業

理学研究科生物物理学教室博士後期課程3年

桑山 成樹 さん

理学部に入学し、将来は世界の第一線で活躍する研究者になりたい方々にとって、学部の四年間は研究をするための準備期間になると思います。自分自身学部時代は無駄に遊んでばかりいたので今振り返ってやっておけばよかったなと思うことを列挙します。自分が本当におもしろいと思えることを見つけ、それを人に熱く語る。ジャンルにこだわらず、知識を広げる。外国人の友人をたくさん作る。専門的なことをのぞいては、研究者に必要なことはこの程度のことかもしれません。あまり偉そうなことをいってはいけませんね。ここには研究をしたいみなさんが欲しいと思うものは必ずどこかに転がっています。あとはあなた次第です。がんばってください。



かけがえのない人たちとの出会い

2000年卒業

株式会社東芝・研究開発センター・研究員

平野 泉 さん

小さい頃から物理を勉強し、研究をしてみたいと思っており、理学部に入学しました。大学では本当にいろいろな人との出会いがありました。テニス部と一緒に汗を流した仲間、バンド仲間、一緒に勉強会を開き、夜な夜なお酒をのみながら議論を交わした仲間、毎日研究室で生活を共にした仲間。たくさんの仲間や先生方に支えられて、多くの貴重な経験も体験できました。物理教室主催のローレンツ祭で、研究室の先生、先輩らとバンドを組み演奏したのも、とても良い思い出です。現在私は企業に就職し、半導体の研究をしていますが、この6年間で得たいろいろな経験を糧として、これからの研究生生活をがんばっていきたいと思います。

学系紹介

数理科学系

数学は長い歴史の中で育まれ、立派な体系をもつ学問であり、現代社会における科学技術も支えている。数理科学系では数学全般についての研究と教育を行う。主に19世紀から21世紀にかけて発展してきた現代数学を教える。入門的なものから専門的なものまで取り揃えた講義によって、受験数学では味わうことのできない数学を学ぶことができる。数理科学系の所属教員の専門分野は多岐にわたり、数学のほとんどすべての分野を網羅している。

数論、代数幾何学、複素多様体論、微分幾何学、トポロジー、微分位相幾何学、微分方程式論、関数解析、複素解析、代数学、表現論、作用素環論、力学系、非線形数学、確率論、数値解析、計算機数学、保険数学

物理学・宇宙物理学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とする。本専攻は3教室に分かれ、物理第1教室では主に物質の構造と性質について、物理第2教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では宇宙の様々な場所で起こる諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等を絡めながら幅広い研究を行っている。

不規則系物理学、高分子物理学・結晶物理学、量子光学・レーザー分光、低温物理学、光物性、固体電子物性、化学物理・生命物理、非線形動力学、凝縮系の理論、統計物理学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、高エネルギー物理学、宇宙線、素粒子論、原子核理論、天体核、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論天文学

地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としている。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラとして見える太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマントルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか、身近で遙かな事柄を研究している。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクトニクス、地球物質科学、地球生物圏史、関連地球惑星科学

化学系

化学とは何かを一言で誰にも異論の無いように言うのは難しいのですが、大ざっぱに言えば、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問であると言えます。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象としますから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々あります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性に応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

相関化学、理論化学、物理化学、物性化学、無機化学、有機化学、生物化学

生物科学系

生物科学専攻は、細胞内の構造や機能および遺伝子の発現過程といったマイクロ研究のみならず、生態学、行動学、系統分類学、人類学など野外のマクロ研究にも力を注いできた。この伝統に培われた野生生物学研究と、最近めざましい分子生物学研究を統合して、世界最高レベルの研究と教育の推進を目指している。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、海洋生物学、動物行動学、動物生態学、生態科学Ⅰ、発生ゲノム科学、放射線生物学、細胞情報制御学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、生態科学Ⅱ、ゲノム情報発現学、分子生物物理学、分子進化化学、分子生体情報学、神経生物学、分子細胞生物学



全学共通科目（専門基礎科目）

科目

コンピュータグラフィックス実習A、コンピュータグラフィックス実習B、微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、線形代数学統論、確率論基礎、数理統計、確率過程論、物理学基礎論A、物理学基礎論B、初修物理学A、初修物理学B、熱力学、振動・波動論、力学統論、電磁気学統論、物理学実験、特殊相対論、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、分析化学及び環境化学実験、合成及び測定実験、基礎地球科学IA、基礎地球科学IB、基礎地球科学IIA、基礎地球科学IIB、地球科学実験A、地球科学実験B、Visual地球科学概説、Visual地球科学演習、生物学実習Ⅰ、生物学実習Ⅱ、生物学実習Ⅲ、生物自然史基礎論A、生物自然史基礎論B、真菌自然史A、真菌自然史B、動物自然史A、動物自然史B、多項式環と計算機代数A、多項式環と計算機代数B、力学系の複素解析入門A、力学系の複素解析入門B、非線型数学、非線型数学セミナー、天体観測実習、宇宙の誕生から生命まで、現代の素粒子像、地球物理学セミナーⅠ、地球生物圏史セミナー、地質学セミナー、地球テクトニクス基礎セミナー、現代化学入門A、現代化学入門B、低温科学A、低温科学B、植物自然史A、植物自然史B、生命現象の分子細胞生物学、生命現象の生物物理学、基礎生物学A、基礎生物学B、薬学生物学、薬学物理化学（化学熱力学）、薬用植物学、科学英語A、科学英語B、タンパク質と核酸の科学、ビーム科学入門、自然災害科学Ⅰ、自然災害科学Ⅱ、環境地図科学ゼミナールⅡ、霊長類学のすすめ、放射性同位元素と放射線の取扱入門、地球大気計測、宇宙科学、生態科学、現代植物学、やわらかな物理学-物質と生命の本質を探る、基礎情報処理、基礎情報処理演習、アルゴリズムの設計と解析、コンピュータと論理学、現代の数学と数理解析、プログラミング言語の理論、数理言語学と計算可能性の理論

専門科目

1 回生	2 回生	3 回生
<p>線型代数学演習 A, 線型代数学演習 B, 地球・惑星科学 I, 地球・惑星科学 II, 地球・惑星科学 III, 現代化学セミナー A, 現代化学セミナー B, 大学で学ぶ物理学, 自然人類学 A, 自然人類学 B</p>	<p>集合と位相, 代数学入門, 幾何学入門, 函数論, 微分積分学統論 I, 微分積分学統論 II, 数学基礎演習 I, 数学基礎演習 II, 解析力学 1, 解析力学 2, 波動と量子論, 熱・統計力学 1, 物理のための数学 1, 物理のための数学 2, 物理学情報処理論 1, 解析力学 I 理論演習, 解析力学 2 理論演習, 熱・統計力学 I 理論演習, 天文学概論 I, 天文学概論 II, 計算地球物理学, 計算地球物理学演習, 地球連続体力学, 観測地球物理学, 観測地球物理学演習 A, 観測地球物理学演習 B, グローバルテクトニクス, 地質科学通論, 基礎地質科学実習, 有機化学 IA, 有機化学 IB, 物理化学 (量子化学) A, 物理化学 (量子化学) B, 無機化学 I, 物理化学 II, 生物化学 I, 分子生物学 I, 分子生物学 II, 分子遺伝学 I, 海洋生物学, 細胞生物学, 構造生物学, 無脊椎動物学, 植物系統分類学 I, 生物物理化学, 基礎生物学実験 I, 基礎生物学実験 II, 基礎生物学実験 III, 臨海実習第 1 部</p>	<p>代数学 I, 代数学 II, 幾何学 I, 幾何学 II, 解析学 I, 解析学 II, 微分方程式論, 函数解析学, 代数学演義 I, 代数学演義 II, 幾何学演義 I, 幾何学演義 II, 解析学演義 I, 解析学演義 II, 函数論統論, 数値解析, 計算機科学, 量子力学 1, 量子力学 2, 量子力学特論 1 (散乱と古典近似), 熱・統計力学 2, 物理実験学 1 (粒子物理), エレクトロニクス, 物性物理学 1, 物性物理学 2, 物理実験学 2 (物性), 物理数学特論 1, 連続体力学, 量子物性論, 電磁気学 3, 電磁気学 4, 物理学情報処理論 2, 非線形科学, プラズマ物理, 宇宙物理入門, 物理の英語, 熱・統計力学 2 理論演習, 量子力学 1 理論演習, 量子力学 2 理論演習, 電磁気学 3 理論演習, 電磁気学 4 理論演習, 現代物理学, 物理科学課題演習 (原子核物理: 素粒子の基本相互作用 - 量子電磁力学, アインシュタインは正しいか? - EPR パラドックスを検証する-, 原子核と電磁場の相互作用, 粒子の加速, 高強度レーザー, 自然における対称性, 自然界の 4 つの力, 宇宙 X 線放射過程, 宇宙ガンマ線放射), 物理科学課題演習 (物性物理: 相転移, 物質の光応答, X 線・粒子線と結晶との相互作用, 電子物性・高温超伝導, プラズマ, 量子エレクトロニクス, 低温物性・超流動, 自己組織化現象のダイナミクス), 基礎宇宙物理学 I 力学, 基礎宇宙物理学 II 電磁流体力学, 基礎宇宙物理学 III 輻射過程, 観測天文学, 物理科学課題演習 (宇宙物理: 天体測光観測, 天体撮像観測, 天体分光観測), 弾性波動論, 地球流体力学, 電離気体電磁力学, 地球熱学, 測地学 I, 地震学 I, 海洋物理学 I, 気象学 I, 地球電磁気学, 物理気候学, 火山物理学 I, 地形学, 地球惑星科学課題演習 (地球物理: 固体地球系, 流体地球系, 重力と地殻変動, 地球内部と地震発生, 地下構造と活構造・地表変動, 地球熱学, 海洋構造と変動システム, 気象学総合演習, 地球磁気圏の構造と波動現象, 気候システムと気候物理), 岩石学 I, 岩石学 II, 鉱物学 I, 鉱物学 II, 層序学, 地質調査法, 生物圏進化史, 古生物学 I, 古生物学 II, 構造地質学, 堆積学, 地球年代学, 岩石レオロジー, 岩石学実験 I, 岩石学実験 II, 結晶学演習, 地質科学野外巡検 I, 地球テクトニクス実験, 古生物学実験, 地球惑星科学課題演習 (地質鉱物: 地質科学研究法), 生物化学 II, 生物化学 III, ケミカル・バイオロジー, 化学実験法 I, 化学実験法 II, 無機化学 IIA, 無機化学 IIB, 物性化学 I, 物性化学 II, 化学統計熱力学 I, 化学統計熱力学 II, 有機化学 II, 有機化学 III, 化学数学, 物理化学 IIIA, 物理化学 IIIB, 量子化学 I, 量子化学 II, 分析化学 I, 分析化学 II, 環境化学, 化学演習 IA, 化学演習 IB, 化学演習 IIA, 化学演習 IIB, 化学演習 IIIA, 化学演習 IIIB, 化学演習 IV, 化学演習 V, 化学演習 VI, 化学実験 A, 化学実験 B, 化学実験 C, 化学実験 D, 植物系統分類学 II, 脊椎動物系統学, 動物行動学, 生態学 I, 生態学 II, 人類学第 1 部, 人類学第 2 部, 陸水生生態学, 放射線生物学, 分子情報学, 理論分子生物学, 発生生物学 I, 発生生物学 II, 植物生理学, 動物発生進化論, 植物分子生物学, 分子進化学, 環境生態学, 免疫生物学, 神経生物学, 分子遺伝学 II, 膜生物学, ゲノム科学, 数理生物学, 植物分子遺伝学 I, 生物間相互作用, 植物分子遺伝学 II, 生物学セミナー A, 生物学セミナー B, 生物学実習 A, 生物学実習 B, 生物学実習 C, 生物学実習 D, 生物学実習 E, 臨海実習第 2 部, 臨海実習第 3 部, 臨海実習第 4 部, 野外実習第 1 部, 野外実習第 2 部, 陸水生生態学実習 I, 陸水生生態学実習 II, 安定同位体実習, 物質の創成と制御</p>

4 回生	卒業研究科目	特別講義
<p>代数幾何学 I, 代数幾何学 II, 整数論 I, 整数論 II, 位相幾何学 I, 位相幾何学 II, 微分幾何学 I, 微分幾何学 II, 確率論, 偏微分方程式, 函数解析特論, 解析学特論 I, 解析学特論 II, 力学系, 非線型微分方程式, 数値解析特論, 計算機科学特論, 保険数学 I, 保険数学 II, 保険数学演習 I, 保険数学演習 II, 原子核物理学 1, 原子核物理学 2, 素粒子物理学 1, 素粒子物理学 2, 重力, ソフトマター, 量子力学特論 2 (場の量子論), 量子力学特論 3 (多体論), 量子光学・光物性, 物理数学特論 2, 非平衡統計, 物性物理学 3, 物性物理学 4, 太陽物理学, 恒星物理学, 星間物理学, 銀河物理学, 観測的宇宙論, 惑星物理学, 測地学 II, 地震学 II, 海洋物理学 II, 気象学 II, 太陽地球系物理学, 陸水物理学, 火山物理学 II, 活構造学, 鉱物学特論, 惑星科学基礎論, 変成岩岩石学, 地史学, 鉱物学実習, 数理地球科学演習, 地質学機器分析法実習, 地質科学野外巡検 II, 理論テクトニクス入門, 実験岩石力学, 実験岩石力学実習, 理論テクトニクス特論, 地球年代学実験, 無機化学 III, 物理化学 IV, 有機化学 IV, 有機化学 V</p>	<p>●数学 代数学講究, 幾何学講究, 解析学講究, 計算機科学講究</p> <p>●原子核科学 自然における相互作用 I, 自然における相互作用 II, 素粒子と原子核, 原子核の世界, 天体核現象, 高エネルギー天体物理</p> <p>●物性科学 不規則系の物性, 光物性, 結晶, 超伝導と磁性, プラズマ, レーザー分光, 低温物理, 化学物理・生命現象の物理, 非線型・非平衡現象の理論, 凝集系の分子分光, 分子集合体および無機化合物の構造と物性, 固体・表面のナノ構造解析, 反応動力学, 化学物理理論</p> <p>●宇宙科学 太陽物理, 恒星物理, 銀河物理, 理論天文学</p> <p>●地球惑星科学 (地球物理学) 惑星間空間物理, 地球電磁場, 大気物理, 気候物理, 海洋物理, 地震・地球内部, 測地, 地表変動・固体地球物理・火山物理</p> <p>●地球惑星科学 (地質学・鉱物学) 地球テクトニクス, 岩石学, 鉱物学, 地層学, 地史学</p> <p>●化学 有機物性化学, 生物構造化学, 量子化学, 理論化学, 分子分光学, 物理化学, 光物理化学, 分子構造化学, 電子スピン化学, 金相学, 表面化学, 無機物質化学, 有機合成化学, 有機化学, 集合有機分子機能, 生物化学, 遺伝子動態学</p> <p>●生物科学 植物系統分類学, 動物系統学, 動物生態学, 生態科学, 自然人類学, 霊長類行動生態学, 動物行動学, 海洋生物学, 免疫生物学, 動物の発生と進化, 植物生理機能学, 植物の発生生物学・細胞性粘菌における細胞分化と形態形成, 植物分子遺伝学, 植物細胞分化の分子生物学, 分子細胞生物学, 放射線生物学, 細胞分子構造生物学, 分子情報学, 細胞応答解析学, 細胞シグナル伝達の分子生物学, 神経生物学, 動物発生の分子生物学, 遺伝子生物学</p>	<p>数学特別講義, 物理科学特別講義, 地球惑星科学特別講義, 化学特別講義, 生物学特別講義</p>



京都大学医学部が望む学生像

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心的分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種の特任家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

医学科『革新的医学の進歩を医療に活かす』

医学科の6年間

「医師」には高度な専門知識の修得と同時に、その知識を論理的に使いこなす能力、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性や、人間そのものに対する深い洞察力を必要とします。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などを旨とする医学研究、制度を改革するための人間社会への深い理解も重要です。

医学科は「医師」、「医学研究者」、「組織のリーダー」を養成するために、学生の自主性を重視した多様な6年間の教育課程を用意しています。

基礎医学の習得

第1学年では全学共通科目とともに、基礎生物学の授業を通じて医学科の教員と議論を深めることができます。第2学年で全学共通科目は終了し、第3学年から本格的な基礎医学の授業が始まります。なかでも、自主研修として、授業や実習を通じて興味を持ったテーマに沿って、学生が各研究室に配属され、それぞれ少人数セミナーや実際の実験を体験し、医学研究の現場に直接触れる機会が用意されています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できるものです。

充実した臨床医学教育の実践

臨床医学では、自分で臨床の現場に入り、直接患者さんから学ぶことが重要です。そのために、第1学年に、アーリーエクスポージャーとして臨床の場を体験し、医療・医学に対する意欲を高めてもらいます。学部後半の臨床医学のカリキュラムでは、講義形式の授業だけではなく、第5学年と第6学年で臨床を体験するため、医学部附属病院、一般の学外の研修病院で実習の時間を多くして、臨床医学教育の充実を計るカリキュラムが編成されています。

医学部附属病院は、近年、多くの新しい部門、設備が加わり、基礎医学との橋渡しとしての探索医療センター、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるための地域医療ネットワークなどが活動しており、診療・治療・教育の場として充実した施設になっています。

また、学外の研修実習病院では、第一線で実際に医療に携わっている経験豊かな医師が臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。これらを通して、最新の医療に貢献できる、医師の教育が充実したものになるようカリキュラムが考慮されています。

連絡先：医学部医学科教務掛 (075-753-4325)

<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

在学生からのメッセージ



視野を広く

医学科 4 回生
後藤 容子 さん

わたしは、医療に携わることで人の痛みをわかり、人の役に立つことができたらと思い、医師をめざす道を選びました。自主研究の期間である現在は、研究室に通い、実際に研究に参加させてもらっています。このような期間は、自分の本当に興味があることは何なのかを考え、自分の将来進むべき道を決める上でも非常によい機会であります。また、総合大学であるためさまざまな人との出会いに恵まれ、多様な価値観にふれ、自分の視野を広げることができるのも大きいと思います。

学科紹介 (医学科)

医学科

医師や医学研究者を養成するための教育・実習を基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般をすべて学び、経験することになります。基礎医学は、生命科学と医師に必要な解剖学・病理学・法医学・社会健康医学などを学びます。臨床教育は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習によって、理論的な基礎と実際の医療現場での活用を学びます。

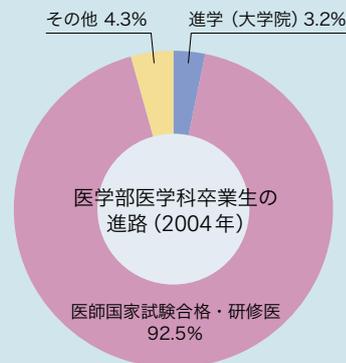
これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD・PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、臨床教育を受けずに大学院へ進学し、基礎医学研究に専念することもできます。

専門科目 (医学科)

1 回生	基礎医学生物学
2 回生～3 回生	組織学、組織学実習・組織標本作製実習、肉眼解剖学講義実習、発生学、生理学、生理学実習、実験動物学、分子細胞生物学、分子細胞生物学実習、神経科学、脳実習、免疫学、微生物学講義、微生物学実習、寄生虫学、病理学総論、病理学各論・実習、法医学、法医学実習、薬理学・同実習、放射線生物学・実習、遺伝学、薬物動態学・毒性学、医療情報学
3 回生～4 回生	環境・社会医学、医療学総論、診断学総論、治療学総論、放射線診断学、臨床検査医学、循環器病学・心臓血管科学、血液病学、内分泌・代謝病学、呼吸器病学、消化器病学、泌尿器科学・腎臓病学、臨床神経学（神経内科学・脳神経外科学）、特殊感染病学、免疫病学、整形外科学、耳鼻咽喉科学、眼科学、婦人科学・産科学、皮膚科学、小児科学、加齢医学（老年医学）、精神医学、麻酔・集中治療・救急医学、放射線腫瘍学、口腔外科学、形成外科学、医の倫理、糖尿病・栄養内科学
4 回生	自主研究
5 回生～6 回生	臨床実習（血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、循環器内科、消化器内科 / 光学医療診療部、呼吸器内科、免疫・膠原病内科、老年内科 / 地域ネットワーク医療部、糖尿病・栄養内科、総合診療科、神経内科、第一外科、第二外科、移植免疫外科、眼科、産科婦人科、小児科、皮膚科、泌尿器科 / 人工腎臓部、耳鼻咽喉科、整形外科、精神科神経科、放射線科 / 核医学、麻酔科 / 救急部 / 集中治療部、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、形成外科、口腔外科 / 薬剤部、検査部 / 輸血部 / 病理部）
6 回生	卒業試験

卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もありますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の臨床研修を受けます。



医学部医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、厚生労働省が実施する医師国家試験受験資格が与えられます。

卒業生からのメッセージ



研究者、医療従事者としての医師

2000年医学科卒業
京都大学大学院医学研究科脳統御医科学系専攻
麻生 謙二 さん

高校生時、医学部進学を選んだのは、総合科学としての医学への漠然とした興味と、特殊技能を必要とする職業としての医師に憧れたことが理由でした。私に関して言えば、入学後はのんびりと過ごしてしまいましたが、今から思うと、この医学生としての6年間は自分の時間を十分に持てる最後の機会だったと思います。

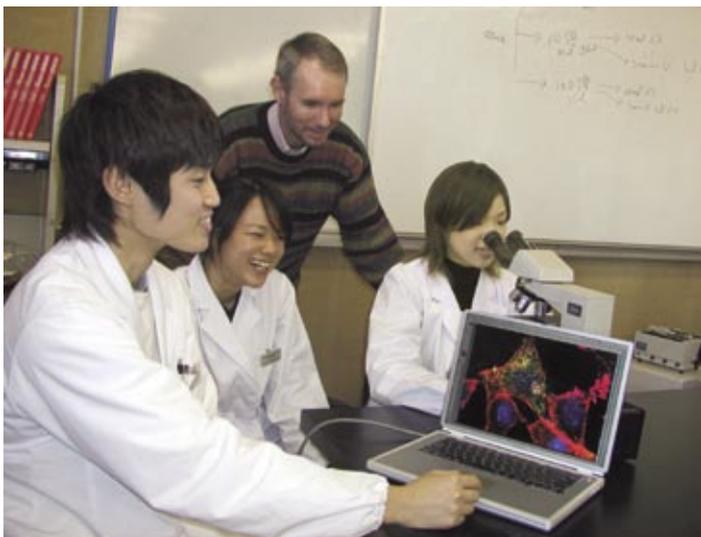
卒業後は医師として神戸、静岡の病院での研修の後、現在は大学院にて人間の脳の働きを画像としてとらえる脳機能イメージングの勉強をしています。京都大学の自由な校風の中、自分のペースで研究させてもらっていますが、それに伴う自己責任の重さを日々感じつつ大学院生活を過ごしております。



癒しと総合人間学

2003年医学科卒業
京都大学医学部附属病院内科研修医
久保 健児 さん

当学の附属病院で1年目の研修医として働いています。足がすぐんで一歩目が出ない人、ものが飲み込めない人、記憶がなくなって思い出せない人等いるんな人がやってきます。本当に多種多様ないるんな人のドラマに参加する毎日…。人間の神秘も、最新の科学の進歩も、泣き笑いの人生もすべてがここにはあります。入院患者さんたちの傍にしながら、隣接する研究室などでは、遺伝子や分子レベルの研究から統計学的研究、神経心理学的アプローチなども行われています。高校生の時は、文系や理系の中の○○科といった分野ごとの世界でしたが、医療・医学というのは、そのどれもが関係する、挑戦しがいのある総合人間的な分野なのです。



保健学科教育課程の概要

保健学科は、入学当初よりの専門科目の一部履修やアーリー・エクスポージャー（早期臨床体験）、問題解決型授業、全専攻の学生が合同で学ぶ融合型授業を取り入れています。

修業年限は4年で、その間に全学共通科目、専門基礎科目、専門科目を履修します。いずれの専攻も初めの2年間は、全学共通科目を履修し幅広い教養を身につけます。

全学共通科目と平行し、第IIIセメスターまでに専門基礎科目を必修科目として履修します。そして第IIIセメスターより各専攻別に、専門科目の履修が始まります。また学年進行に伴い病院などにおける臨床、臨地実習を、4学年では卒業研究を行います。

なお、3学年の進学时臨床実習開始前にチェックポイントがあります。定められた単位を修得していない場合は進級、臨床実習への参加ができません。全専攻とも必要単位、望まれる履修科目、専門科目が異なっています。各自が全学共通科目、専門基礎科目、専門科目ごとに履修要件、卒業要件を十分に把握しておいてください。

授業科目の区分

保健学科の授業科目は、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目から成り立っています。全学共通教育は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通して豊かな人間性を育むための教育を実施することを目的としています。専門基礎科目は、医学部保健学科全専攻の学生が個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各専攻それぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

学年	1		2		3		4	
セメスター	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
科目	全学共通科目				各専門科目 ・看護学専攻 ・検査技術科学専攻 ・理学療法学専攻 ・作業療法学専攻			
	専門基礎科目 (全専攻共通・必修)							

セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。保健学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

全学共通科目

全学共通科目はA群、B群、C群、D群の4群に区分されます。これをもとに保健学科は卒業に必要な基礎となる科目数と単位数を定めています。各専攻によって、特に履修を要望する科目があります。

専門基礎科目

専門基礎科目は医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、全専攻に共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。一般教養科目と平行して第Iセメスターより第IIIセメスターまでに、保健学科全専攻の学生は必須単位として共通履修することとなります。

専門基礎科目は生体の基礎、医療の基礎ならびに健康科学より構成され、13科目が含まれその配当単位は合計17単位となっています。全学共通科目として開講される基礎人体構造学、生体制御機構概論、医療情報学、健康人間学の4科目は全専攻の学生に必須単位であり、専門基礎科目としての履修単位とみなされます。

専門科目（看護学専攻）

看護学専攻では第Iセメスターから、全学共通科目・専門基礎科目と並行して、看護学の基礎となる「看護学原論」、「生活環境看護学」を学習します。これらの科目は、看護学において基本的な概念となる人、環境、生活、健康に対する理解を深めると共に、看護に対する興味を新たにしたり、各自の看護観を形成したりするための基盤となるものです。第IIセメスターでは、人との関係を形成する上で基本となる「コミュニケーション論」や、援助方法の基礎となる「生活援助学」「生活援助演習」など、より具体的な学習を進めます。

2年次以降は成人、老年、母性、小児、精神、地域の各領域の専門科目が本格的に始まります。ここでは、人体の構造や機能、病理などの専門基礎科目や、基礎看護学の学習を踏まえ、各領域の特性や捉え方、疾患をもつ人や状況のアセスメント、必要な援助方法などを学習します。一部の演習は各領域が共同し、事例を用いたより具体的にフィジカルアセスメントや症状マネジメントをしたり、援助について考え方を習得できるように学習します。

専門科目（検査技術科学専攻）

本専攻では1年次において、全学共通科目と並行して専門基礎科目の一部（基礎人体構造学、神経科学総論など）を取り入れています。2年次からは生体のしくみと働き、疾患のおきるメカニズムなどを専門分野ごとに学習を始めます。すなわち、生化学と実習、分子生物学と実習、血液学、微生物学と実習などについて学習します。また情報理工医学系科目として、情報処理工学、医療情報学実習、医用電子工学と実習、医用核磁気学、診療画像学概論などを並行して進めます。3年次では遺伝子検査技術学などのバイオサイエンス関連科目と実習、病理学および病理組織・細胞検査学と実習、移植に関わる感染制御学、生体応答解析学と実習、臨床に則した血液検査学と実習、また生体成分の分析学である臨床化学と実習、情報処理学に関係する実習および種々の生理機能に関する臨床生理学と実習な

どについて、多くの疾病をモデルとして、それらの病因に対する情報解析方法についてより具体的に学びます。4年次ではこれまでの学習を基礎として、病院実習を通して検査技術科学の広がり学びます。これによって、既に確立された検査技術を修得し、さらに発展的にその検査法の改良または新検査法をも開発できるようになること、また、再生医学、移植医療など最先端分野の知識を修得し、先端医療のアウトラインを把握することをめざします。

専門科目 (理学療法学専攻)

第 I セメスターから「理学療法総論」を学び、「理学療法見学実習」で実際の理学療法の現場を見学・体験させることによって理学療法への興味を深めた後、第 II セメスターから専門科目として人体構造学、運動機能解剖学などの基礎医学を学んでいきます。

第 III セメスターには疾病概論、外傷・救急概論、病理学総論などの専門基礎科目を中心に学び、その後の専門科目を学ぶ上での基礎づくりを行います。そして第 III セメスターから第 V セメスターにかけては理学療法評価学、各疾患別理学療法学などの専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつけるような講義および実習を行います。

第 VI セメスターから第 VII セメスターにかけては臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実際を経験します。第 VIII セメスターは卒業研究と各種セミナー等の演習科目により、さらに理学療法学を深めていきます。

専門科目 (作業療法学専攻)

1年次では、共通科目と専門基礎科目と合わせて、臨床実習 I (早期臨床体験) により実際の作業療法臨床の場面を見学することで、作業療法への興味を深め、2年次からは、人体の構造と機能および心身の発達について、作業機能開発学講座から作業学、作業分析学、作業学演習 I、作業療法評価学総論を、作業機能適応学講座から発達障害系病態学、精神医学、老年医学、作業療法治療学の各 (身体障害、精神障害、発達障害) 領域についての総論を学びます。3年次には、さらにそれらの応用として、作業療法管理運営論、心理社会機能評価学、日常生活援助法 I・II、研究方法論、作業療法治療学の各領域それぞれの各論、高次神経障害作業療法学、高齢期作業療法学、さらにはそれらの技術を習得するための演習・実習を学びます。4年次には、より高度な臨床応用力をつけるために、地域作業療法学、作業療法演習、各領域の適応学原理を選択により作業療法アプローチに重点をおいて学びます。

連絡先：医学部保健学科教務掛 (075-751-3906)

<http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/>

在学生からのメッセージ



最先端医療を担いたい

保健学科検査技術科学専攻 1 回生
有岡 祐子 さん

私は、小さい頃から医療に興味があり、進学するなら医学関係と考えていました。最近の医療世界がますます高度化、複雑化する中で、検査技術の進歩に魅力を感じ、検査技術科学を選びました。先日、テレビを見ていたら、超音波検査により今まで気づかなかった病気を発見でき、一命をとりとめたという話を取り上げられていました。改めて今日の医療における検査技術の重要性を感じた瞬間でした。今は、一般教養と共に専門基礎を学んでおり、検査技術に必要な基礎知識を養っています。さらに発展する検査の世界を担う人材になれるよう、日々励んでいきたいと思っています。

卒業後の進路 (保健学科)

【看護学専攻】 医療系 (病院、診療所、助産院、訪問看護ステーション、保健所、介護老人保健施設など)、福祉系 (健康福祉事務所、老人福祉施設、児童福祉施設、知的障害者援護施設など)、学校 (養護教諭)、官公庁、企業、教育研究機関、大学院進学など

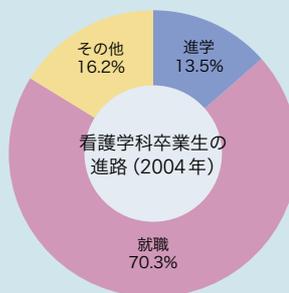
【検査技術科学専攻】 医療系 (病院、診療所、保健所等)、教育研究機関、大学院進学、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、今後は高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政など

【理学療法学専攻】 リハビリテーションセンター、国公立病院、私立病院、老人保健施設、肢体不自由児施設、通所リハビリテーション施設、大学院進学、行政機関、教育機関、関連企業など

【作業療法学専攻】 医療系 (病院、診療所、保健所、保健センターなど)、福祉系 (児童福祉施設、精神障害者社会復帰施設、身体障害者社交性援護施設、老人福祉施設など)、養護学校、関連企業、研究所、保健医療福祉行政機関、大学院進学など

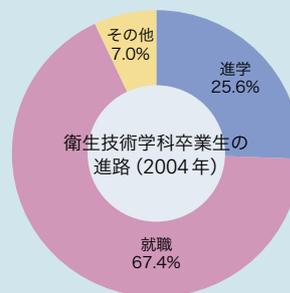
* 医学部保健学科としては、未だ卒業生がありませんので、以下のグラフは 2004 年 3 月の京都大学医療技術短期大学部 4 学科の卒業生の進路状況を掲載しています。

【看護学科】



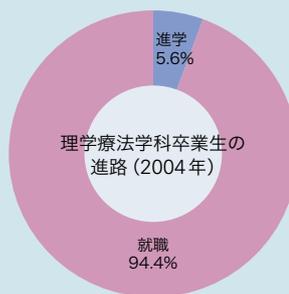
就職	52	国公立・大学附属病院	39
		私立病院	13
進学	10	保健師課程	2
		大学院	1
		大学編入	2
		助産師課程	3
		その他	2
その他			12

【衛生技術学科】



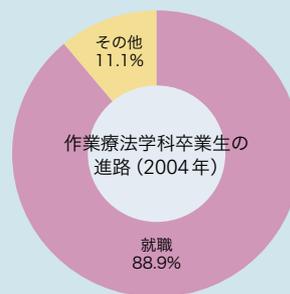
就職	29	病院	18
		企業	2
		検査センター	5
進学	11	大学研究室	4
		大学編入	8
その他		その他	3
			3

【理学療法学専攻】



就職	17	病院	17
進学	1	大学編入	1

【作業療法学専攻】



就職	16	病院	16
その他			2

医学部保健学科で取得可能な資格

保健学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

【看護学専攻】 看護師、保健師、助産師*

* 所定の単位 (選択科目) を修得した場合に限られます。

【検査技術科学専攻】 臨床検査技師

【理学療法学専攻】 理学療法士

【作業療法学専攻】 作業療法士

講座紹介（保健学科）

看護学専攻

看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気の人だけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既成の枠にとられない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、看護学専攻では、教育・研究体制として大講座制をとっています。

1. 臨床看護学講座

臨床看護学講座は、基礎看護学系と臨床看護学系からなっています。基礎看護学系は、看護学の理論や概念を背景に、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化をめざして教育・研究を行います。臨床看護学系は、主として成人期にある人のからだところの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるよう、教育・研究を行います。

2. 家族看護学講座

少子化・核家族化が進む 21 世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生育育てることに直接あるいは間接的に参加できるよう、支援し生活を援助していく方法を教育・研究します。

3. 地域・老年看護学講座

長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、寝たきり予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。

検査技術科学専攻

検査技術科学専攻は、近年の細胞生物学、分子生物学、遺伝子医学（遺伝子診断、遺伝子治療）、臓器移植、再生医療などの分野における急速な進歩の結果として生じる臨床検査領域の大きな変化に対応するため、新しい病態検査におけるコメディカル教育を念頭に、医学一般はもちろん、基礎科学、工学的知識の修得と、IT (Information Technology) 革命に対する検査情報ネットワークシステムに関する知識の修得およびこれを実践する技術を教育します。またチーム医療の一員として、先端科学と情報技術に関する十分な知識と技術を有する臨床検査に精通したコメディカルの育成と、先端医療における検査技術と知識を国際的に供給するための幅広い視野を有する人材の育成をその基本的教育理念とします。

1. 基礎生体病態情報解析学講座

基礎生体病態情報解析学講座では、難病、移植、再生、生殖医療等の高度医療を主とする生体情報解析に対応できる検査技術科学を開発・発展させるために、生体からの情報を抽出し遺伝子、分子レベルから細胞、組織レベルにわたる基礎的な生理的ならびに病理的情報を分析します。これらの情報を基に病態解明のための分子診断検査、細胞情報解析ならびに形態学的解析技術等を開発し、これに関する教育・研究を行います。

2. 臨床生体病態情報解析学講座

分子生物学、遺伝子工学技術の急速な発展・進歩に伴い、難治疾患に対する高度先進医療の開発が医療現場で大きく進展しています。臨床生体病態情報解析学講座では、移植・再生医療、遺伝子治療をはじめとする先端科学の臨床への展開を支援する臨床検査のエキスパートとして必要な理論や技術について教育・研究します。

3. 情報理工医学講座

IT を駆使した画像診断機器が導入され医療技術が飛躍的に高まっています。情報理工医学講座では、これら診断機器を駆使する上で、その基礎となる基礎科学、工学的理論について教育・研究を行います。さらに、院内、地域の医療情報を医師とともに管理、解析、統合していく方法論について教育・研究を行います。

理学療法学専攻

1. 運動機能開発学講座

運動機能開発学講座では、疾病や外傷などによる運動機能障害、スポーツ障害や呼吸循環代謝障害などに対してそれらの回復や軽減を目的とした理学療法を対象とします。

2. 健康運動機能学講座

健康運動機能学講座では、健康な生活を営むために必要な運動機能について定量的、定性的に分析・評価するための方法を確立し、高齢者の保健、障害予防のための理学療法を対象とします。

作業療法学専攻

人の日々の生活は、身辺処理や生活管理などの日常生活活動、職業や家事・育児・学業などの仕事関連活動、余暇活動などとさまざまな作業活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来し生活に障害をもたらします。病や障害の有無にかかわらず人間の健康な生活を維持し、豊かにするには、日々の生活を構成するさまざまな作業活動の影響・効果を科学的に捉えることが必要です。作業療法学専攻は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材の育成するため、作業機能開発学講座と作業機能適応学講座を設けています。

1. 作業機能開発学講座

作業と人間との関わり、作業が生活に及ぼす影響・意義、など人間の健康生活に必要な作業活動の基本機能を神経筋骨格系の機能的側面、社会心理学的側面から理論的に理解、究明し、心身の障害に対する作業治療学、日常生活や社会生活の援助の基礎となる知識と効果的介入法の教育と研究を図ります。

2. 作業機能適応学講座

精神機能、心理・社会機能、感覚・運動機能、高次神経機能、など人間の健康生活の基本となる機能に障害がある人々に対し、生活を構成するさまざまな作業活動を用いて日常生活の自律と適応、社会参加を図る作業療法に関し、高度な治療原理、問題解決法の考案・実施に関する臨床教育と研究を行います。

全学共通科目 (保健学科)

学科	科目
看護学専攻	健康心理学, 健康教育論, 医療概論, 分子細胞生物学, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B
検査技術科学専攻	健康心理学, 健康教育論, 医療概論, 数学基礎 A, 数学基礎 B, 初修物理学 A, 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B, 又は物理学基礎論 B, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 分子細胞生物学, 物理学実験又は分析化学及び環境科学実験, 情報科学概論, 基礎情報処理演習, 基礎情報処理演習 A, 又は基礎情報処理演習 B
理学療法専攻	健康心理学, 健康教育論, 医療概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学, 分子細胞生物学, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 情報科学概論, 基礎情報処理演習 A, 又は基礎情報処理演習 B, 基礎情報処理演習, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B
作業療法専攻	健康心理学, 健康教育論, 健康人間学, 医療概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学, 分子細胞生物学, 情報科学概論, 基礎生物学 A, 基礎生物学 B

専門科目 (保健学科)

専攻	1 年生～	2 年生～	3 年生～	4 年生
看護学専攻	看護学原論, 生活環境看護学, 看護援助学, コミュニケーション論 (人間関係論), 看護援助学演習 I, 生活健康実習	生体防御看護学, 看護援助学演習 II, 生活援助実習, 成人看護対象論, 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学演習, 精神看護学概論, 母性看護概論, 母性保健論, 小児看護概論, 小児保健学, 生育医療学, 在宅ケア論, 老年看護学, 保健福祉行政論, 地域看護学概論, 地域看護学断学, 保健看護政策論, 保健行動学習論, 地域看護活動論 I, 地域看護活動論 II	成人看護学実習, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 母性看護学演習, 小児看護学演習, 家族看護学, 母性看護学実習, 小児看護学実習, 基礎助産学, 生殖科学, 助産診断技術学 I, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 地域看護学演習, 地域看護学実習	看護管理・倫理学, 看護カウンセリング論, 緩和ケア論, 患者教育論, 高度医療看護論, リエゾン精神看護学, ヒューマン・セクシャリティ論, ペアレンティング論, 助産診断技術学 II, 助産経営学, 助産学実習, 看護研究, 選択実習, 症例研究,
検査技術科学専攻		生化学, 生化学実習, 分子生物学実習, 細胞生物学実習, 遺伝子検査技術学, 微生物学, 微生物学実習, 臨床検査総論, 血液学, 臨床生理学, 生体応答解析学, 情報処理工学, 医用電子工学, 医用核磁気学, 医用電子工学実習	遺伝子検査技術学実習, 医動物学・実験用動物学, 医動物学・実験用医動物学実習, 公衆衛生学実習, 検査精度管理学, 放射性同位元素検査技術学, 病理学各論, 病理組織・細胞検査学, 病理組織・細胞検査学実習, 臨床検査総論実習, 感染制御学, 血液検査学, 血液検査学実習, 臨床生理学, 臨床生理学実習, 臨床化学, 臨床化学実習, 生体応答解析学, 生体応答解析学実習, 医療情報学実習, 診療画像学概論, 画像診断機器工学, 画像情報学実習, 検査情報管理学, 検査情報管理学実習, 医用機器システム学	臨床実習, 臨床病態学, 卒業研究
理学療法専攻	理学療法見学実習, 理学療法総論, 人体構造学, 運動機能解剖学	リハビリテーション医学, 運動学, 筋・骨格系病態学, 神経系病態学, 人体機能学, 人体機能学実習, 発達障害系病態学, 老年医学, 日常生活援助法 I, 精神医学	臨床運動機能学, 臨床運動機能学実習, 筋・骨格系理学療法学, 筋・骨格系理学療法学実習, 神経系理学療法学, 神経系理学療法学実習, 呼吸循環代謝系病態学, 呼吸理学療法学, スポーツ傷害理学療法学, 発達障害系理学療法学, 臨床評価実習 I, 臨床実習 I, 人体構造学実習, 理学療法評価学, 運動機能評価学実習, 理学療法評価学実習, 老年期理学療法学, 地域理学療法学概論, 物理療法学, 生活動作学実習, 循環代謝系理学療法学, 義肢学, 装具学, 臨床評価実習 II, 日常生活援助法 II	身体運動解析セミナー, 画像診断セミナー, 運動機能解剖セミナー, 症例検討セミナー, 理学療法特論, 臨床実習 II, 卒業研究
作業療法専攻	臨床実習 I, 人体構造学, 運動機能解剖学	人体機能学, 人体機能学実習, 作業学, 作業分析学, 作業学演習 I, 作業療法評価学総論, 日常生活援助法 I, 臨床実習 II, 発達障害系病態学, 精神医学, 老年医学, 身体障害作業療法治療学総論, 精神障害作業療法治療学総論, 発達障害作業療法治療学総論, 人体構造学実習, 運動学, 筋・骨格系病態学, リハビリテーション医学, 神経系病態学	作業療法管理運営論, 作業学演習 II, 生活機能評価学実習, 感覚運動統合機能評価学演習, 心理社会機能評価学, 日常生活援助法 II, 臨床実習 III, 研究方法論, 身体障害作業療法治療学各論 I, 身体障害作業療法治療学各論 II, 精神障害作業療法治療学各論 I, 精神障害作業療法治療学各論 II, 高次神経障害作業療法学, 発達障害作業療法治療学各論 I, 発達障害作業療法治療学各論 II, 作業療法技術論, 高齢期作業療法学, 運動機能評価学実習	地域作業療法学, 臨床実習 IV, 心理社会機能適応学原理/感覚統合機能適応学原理/高次神経機能適応学原理, 作業療法演習, 卒業研究



薬学部・薬学研究科の沿革

京都大学における薬学の研究は、昭和14年(1939年)に医学部薬学科として5講座制で発足したことに始まりました。設立当時は、我国でもようやく製薬工業の基礎が固まり、最初の合成化学療法剤であるサルファ剤が注目され始めたときでした。産学の強い要請により、製薬技術者および研究者の養成を目的に、有機化学系、分析系を中核とした教育・研究組織として出発しました。当初は、化学合成、天然物からの有効成分の抽出と構造決定、薬品分析など創薬系に特化した教育、研究が行われましたが、その後の薬学に対する社会的要請のひろがりに対応してバイオサイエンス系分野、医療系分野の講座を新設することにより、総合科学としての薬学の教育、研究体制が整備されました。そして、昭和35年(1960年)薬学部薬学科として独立し、昭和36年(1961年)には製薬化学科が設置され、2学科となりました。

その後、健康の保全のための新しい医薬品創製という社会の要請に応じて、物理、化学、生物を基盤とし、医療とも密接に結びついた薬の総合科学としての薬学の発展のために貢献してきました。平成5年(1993年)には、創薬研究の推進を目的とした薬品作用制御システム専攻が独立専攻として設置され、2学科、1独立専攻、1附属施設の陣容となりました。

平成9年(1997年)に、大学院重点化に向けた改組により、大学院(薬学研究科)が創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の3専攻体制となり、それと同時に薬学部も総合薬学科の1学科に再編成されました。平成14年には総合研究棟が竣工し、平成15年には薬学部本館の改修が行われるとともに教育棟が新設され、施設面でも充実が図られてきています。また、平成15年には創薬神経科学講座、医薬品理論設計学講座の2寄附講座、21世紀COEプログラム採択に伴う協力講座生命知識システム学分野が設置されるなど先端創薬科学への取り組みが進められるとともに、創薬・医療連携コア部門を設置し、社会との連携による創薬・医療研究の推進に取り組んでいます。

現在、薬学部は学部教育に大きな変革を迎えようとしており、平成17年度は学部教育制度に変更はありませんが、平成18年度には、薬剤師国家試験受験資格に6年間の履修期間を要する教育制度への変更が予定されており、6年制学科の導入、医療系コースでの6ヶ月間の医療実務実習の実施など、カリキュラム改革が検討されています。

総合科学としての薬学を学ぶ

創薬、医療の研究者を目指して

薬学は、疾患の治癒、健康の増進をもたらす医薬品の創製、生産、管理、適正使用を目的とした総合科学です。さらに、医療において重要な役割を担う薬剤師の育成も社会から付託されています。薬学の基礎は物理学、化学、生物学であり、これらの基礎科学を総合、応用し、生命と物質(医薬品)に関する研究を進めることにより、最適な薬物療法の実現を目指す学問です。最近の医療技術の進歩や高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しています。医薬品研究は人の健康や生命に関わるものですので、薬剤師、薬学研究者等の薬学に携わる人間は、単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性が求められます。薬学部は4年一貫教育の理念のもとに、薬の専門家として必要な知識や技術を修得し、薬剤師としての専門知識・技能を取得するために、バランスのとれたカリキュラムによる教育を実施しています。

1 回生：全学共通科目を中心に履修

教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と専門基礎教育科目を履修します。これらの科目は、幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は、人文・社会系科目(A群科目)、自然系科目(B群科目)、外国語科目(C群科目)からなっており、薬学部において必修となっている科目には、薬学概論、薬学生物学、薬学物理化学、基礎有機化学、科学英語などの薬学部提供科目が含まれます。さらに、専門基礎教育科目として一般生理学が配当されます。

2 回生：専門教育への準備

全学共通科目と専門基礎教育科目が中心になり、さらに専門教育科目の一部も受けることができるようになります。2回生の午前中の講義のほとんどは専門基礎教育科目と専門教育科目で占められています。専門基礎教育科目は全て卒業に必要な必修科目であり、化学系、物理系、生命系、医療系という薬学の主要4領域における基礎的学識を身につけ、3、4回生で履修する専門科目への準備を行います。

3 回生：専門の講義と実習の毎日

薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部に入ってきます。3回生では、午前中は講義を受け、午後は実習を行います。講義科目については、学生個人の学問的興味に応じた科目選択が可能であり、専門性の高い履修ができるようになっています。一方、実習は全て必修科目であり、専門実習Ⅰ～Ⅳを1年間にわたって履修することにより、上述の主要4領域における研究の基礎と実験技術を学びます。

4 回生：特別研究と病院実習に取り組む

専門教育科目、研究基盤教育科目を履修するとともに、特別実習(卒業研究)と病院実習を行います。

特別実習はほぼ1年間にわたって行われます。特別実習は、それまでに学んだ薬学の知識を総合的に理解し、研究課題を通して最先端の研究に取り組むとともに科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を身につけることを目的としています。研究室に配属となり、教員の指導・助言を受けながら、専門分野の新しいテーマの研究に取り組み、その結果を学士論文にまとめます。特別実習は、薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものであります。

このような特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割・職能を理解し、薬剤部諸業務について実習するために、医学部附属病院薬剤部で

実務実習を行います。卒業後は薬剤師国家試験の受験資格が与えられます。薬剤師の専門知識は薬学関連領域の教育研究の基盤となるものであり、将来どのような分野で活躍するにせよ、薬剤師としての資格を取得することが望まれます。

薬学研究の発展の担い手として

本学部の卒業生の多くは大学院に進学し、薬の開発や医療の第一線で活躍しています。大学院は2年間の修士課程と3年間の博士後期課程によりなっており、修士課程には一般コースと臨床薬学コースがあります。臨床薬学コースでは、一般コースと同様の講義、演習、実験、実習のほか6ヶ月間の病院実習が行われます。また、博士後期課程には、創薬科学、生命薬科学、医療薬科学の3専攻の他に、21世紀COEプログラム「ゲノム科学の知的情報基礎・研究拠点形成」に基づくバイオインフォマティクス副専攻コースがあります。

大学院においては、薬学領域の理論や応用の研究を行うとともに、高度の専門性を有する研究者の養成が行われています。薬学研究には「薬を創る」と「薬を使う」という2つの領域が含まれています。前者は新しい化合物の創製や生体機構の分子レベルでの解明など、新しい薬を創るための基礎研究を行います。後者は創られた薬を合理的かつ適正に投与するための基礎研究で、新しい製剤の創出と医療現場での適用、医薬品の作用、副作用機序の解明、新しい薬物療法の確立を目指します。これらの研究は医療機関、製薬会社、行政組織とも密接に連携して行われます。

連絡先：薬学部教務掛 (075-753-4514)
http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/

在学生からのメッセージ

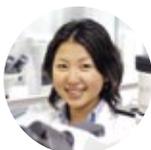


医療につながる研究

薬学部総合薬学科4年生
谿 有紀 さん

小さい頃、風邪をひくたびに病院でもらった小児用の甘い薬の味が大好きで、ずっと医療に携わる人になりたいと思っていました。薬がなければ医師だけでは治療できません。医療を支える薬の重要性を知り、薬による治療の神秘性に惹かれて、薬学部に入學しました。私が学んでいる医療薬科学は、薬が生体に作用する仕組みを解析し、薬をどう使えばよりよい治療ができるかを研究する学問です。

4年生になった今は、他の研究室や企業と協力しながら、神経保護性物質の働きについて研究しています。神経変性疾患に悩む一人でも多くの人に笑顔をもたらすことができるよう、研究に励んでいます。幸せを呼ぶ薬を作るため、忙しいですが有意義な学生生活を送っています。



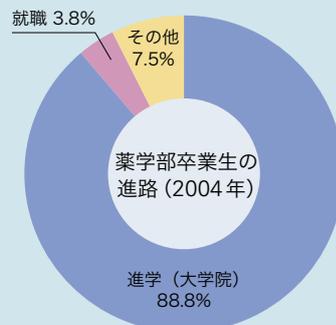
自然科学を広範に实际的に学ぶ

薬学部総合薬学科3年生
宮崎 貴子 さん

ゲノム、タンパク質の転写・翻訳、脳の海馬領域等々、高校の図書室で読んだ日本語版「サイエンス」の記事の中で印象深かったトピックです。高校在学中は、生物のしくみ、特にヒトの体のしくみに興味をもち、進学先に薬学部を選びました。でも、実際に入学して驚いたのは、薬学がカバーする学問領域の広範さです。薬学では、物理、生物、化学に関する幅広い知識が必要とされます。特に専門教育が中心となる3年生では、午後は毎日がこれらの分野の実験です。大変ですが薬学部生であるという実感を得ており、研究者としての将来を考えるようになりました。多くの人々が笑顔で健やかに美しく生きられる社会を夢見て頑張りたいと思います。

卒業後の進路

9割以上が大学院に進学します。修士課程を修了した学生の3割前後が博士後期課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国公立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では8割以上が製薬会社に就職しています。



就職先の例 (修士課程修了者):

エーザイ、小野薬品工業、三共、塩野義製薬、大塚製薬、大正製薬、第一製薬、大日本製薬、武田薬品工業、田辺製薬、日本新薬、日本たばこ産業、藤沢薬品、山之内製薬など

薬学部で取得可能な資格

薬学部卒業生にとって最も重要な資格は薬剤師です。薬剤師とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事できる者のことであり、公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することを任務とします。薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格したものに与えられ、薬学部卒業生及び4回生で卒業見込みの者が試験に出願することができます。このほかに、教職員免許状、衛生検査技師などの資格が取得できます。

取得できる資格・業務の例:

薬剤師、教職員免許状 (高等学校教諭一種免許状および中学校教諭一種免許状の理科)、衛生検査技師、放射線取扱主任者、毒物劇物取扱責任者、薬事監視員、食品衛生監視員、麻薬管理者、向精神薬取扱責任者、環境衛生指導員

卒業生からのメッセージ



薬学部の内なる魅力

2000年総合薬学科卒業
住友化学工業勤務
篠原 温美 さん

「薬学部」、京大南部に位置するこの学部は、その立地と学問的イメージからか堅い研究者集団と想像されているようです。確かに研究に対する情熱、姿勢という点はその通りかもしれませんが、全体の雰囲気は穏やかで明るいものです。他学部に比べ少人数で、理系としては女性が多いせいか、個性的な先生方の熱心で実践的な講義、内容の濃い3回生専門実習、4回生特別実習などのカリキュラムは、どれも温かくアットホームな雰囲気です。また、4回生の専門分野配属後も講座対抗イベントなどの交流が盛んなため、構内はいつも賑わっています。薬学部で得た多くの知識、世界を相手とする研究の姿勢、そして人間関係は、卒業後も貴重な財産となっています。そんな多面的に魅力のある薬学部で充実した輝かしい学生生活を送られるように応援します。



神経を守る

2001年総合薬学科卒業
武田薬品工業勤務
中田 大介 さん

何らかの形で医療に携わりたいと思っていた私は、高校で有機化学に興味を持ち、化学の視点から医学に関わることのできる薬学部へ進学しました。薬学は物理・化学・生物、さらには薬に関する科目と、幅広い学問の上に成り立つ総合科学で、講義や実習の内容も多岐に渡ります。多くの選択肢に接する中で、自分が本当に興味のある分野は神経科学だと思い、中枢神経をテーマにした研究室に入りました。病気になるとなぜ神経細胞は死んでしまうのか？どうすれば神経細胞を守れるのか？まだ答えは完全には分かっていません。でも私の研究がその答えに近づく一助になれば、という夢と期待をもって研究できたことを覚えています。薬を創ること、薬を使うことで人々を助けたい—そんな気持ちがあれば、多彩な薬学部の中で自分の進みたい道がきっと見つかるはずで。

学科紹介

総合薬学科

薬学部は総合薬学科の1学科制をとっています。総合薬学科では、医薬品の創製、生産、適正使用を目標とした総合科学としての薬学の基礎と応用に関する知識と技術を修得します。4年次には病院実習と特別実習が行われます。学部を卒業後、さらに広い視野に立って専門知識を深め、研究能力を養うことを希望する諸君には、大学院に進学する道が開かれています。

研究室紹介 (大学院の基幹分野, 協力分野, 寄附講座, COEプログラム協力講座, 創薬・医療連携薬学コア部門)

創薬科学専攻

薬品有機製造学：藤井信孝 教授

- 1 ゲノム/プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2 7回膜貫通 G 蛋白共役型受容体の有機化学・創薬化学研究
- 3 蛋白質リン酸化シグナルを標的とした生物有機化学的研究
- 4 抗癌剤, 抗ウイルス剤, 抗癌剤の分子設計・合成研究
- 5 蛋白質およびその類縁体の化学合成・化学修飾に関する研究

薬品合成化学：富岡清 教授

- 1 未来型触媒的不斉合成反応の設計と開拓
- 2 立体化学制御の分子論的基礎の構築と新概念の創出
- 3 分子の高次構造制御の有機化学
- 4 抗腫瘍性有機化合物の設計・合成と生物有機化学
- 5 生物活性天然物の発見と機能化学

薬品分子化学：竹本佳司 教授

- 1 プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 2 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 3 生物活性天然有機化合物およびその類縁体の全合成研究
- 4 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 5 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

薬品資源学：本多義昭 教授

- 1 薬用植物の多様性に関する研究
- 2 二次代謝機能発現に関する研究, 特にテルペノイドの生合成に関する遺伝子群の発現制御機構
- 3 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 4 海外伝統薬物の調査研究

薬品機能解析学：松崎勝巳 教授

- 1 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- 2 アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 3 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 4 受容体の機能解析と創薬
- 5 薬物-タンパク質相互作用の解析

構造生物薬学：加藤博章 教授

- 1 トランスポーター, チャンネルなど膜タンパク質機能の構造要因の解明
- 2 膜タンパク質局在化に関わるシステムの構造生物学
- 3 酵素の触媒作用の構造的起源の解明

ゲノム創薬科学：辻本豪三 教授

- 1 ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲットバリデーション
- 2 バイオインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 3 生体内オーファン G 蛋白質共役型受容体のリガンド探索, 並びに機能構造解析
- 4 遺伝子改変動物, 病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

製剤機能解析学：半田哲郎 教授

- 1 血漿中のリポ蛋白質粒子のアポリポ蛋白質選択性に関する生物物理化学的研究
- 2 脂質集合構造によるリパーゼの活性化と阻害に関する生体界面化学的研究
- 3 脂質非ラメラ相の構造評価とその分散微粒子の DDS への応用
- 4 カイロミクロンの分泌とその阻害に関する生体界面化学的研究
- 5 Na チャンネルブロッカーによるインスリンシグナリング抑制機構の解明

精密有機合成：川端猛夫 教授

- 1 動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 2 有機触媒による反応制御
- 3 分子のキラリティーに基づく高次構造制御
- 4 分子認識および超分子化学に関する研究
- 5 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

生命薬科学専攻

生体分子認識学：川崎敏祐 教授

- 1 先天性免疫における動物レクチンの役割に関する研究
- 2 神経系における糖鎖シグナルの役割に関する研究
- 3 新規プロテインキナーゼのシグナル伝達に関する研究
- 4 糖転移酵素の構造と機能に関する研究
- 5 小型魚類を用いた糖鎖関連遺伝子の役割に関する研究

分子微生物学：河合明彦 教授

- 1 ウイルスの神経病原性の分子機構の解明と生ワクチン開発への応用
- 2 (-) 鎖 RNA ウイルスの改造による生ワクチンおよび発現ベクターの開発
- 3 ウイルスタンパク質の機能解析およびその応用として神経細胞導入用遺伝子治療ベクターの開発
- 4 ウイルスの複製に関わる細胞膜成分, 細胞骨格系およびストレスタンパク質の役割の解明
- 5 ウイルス感染および腫瘍免疫における自然免疫やサイトカインの関与について

腫瘍ウイルス薬品学：下遠野邦忠 教授

- 1 がんウイルスによる細胞の増殖制御とがんの分子機構に関する研究
- 2 がんウイルスの蛋白質の機能と複製の分子機構に関する研究
- 3 ウイルスの持続感染機構
- 4 細胞周期を制御するウイルス性因子の研究

生体機能解析学：金子周司 教授

- 1 イオンチャンネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬, 機能解析, 薬効解析, 安全性評価, 病因論, ゲノム科学に関する研究
- 2 痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機序に関する研究
- 3 薬物依存など可塑性の脳機能変化の分子機構に関する研究
- 4 脳内サイトカイン・ケモカイン類に関する分子薬理学的研究

遺伝子薬学：伊藤信行 教授

- 1 遺伝子探索法による新規細胞間シグナル分子の探索と構造解析
- 2 新規細胞間シグナル分子の生体内代謝調節, 発生・分化における役割の解明
- 3 FGF 欠損マウスの作成とその解析
- 4 形態形成の分子機構の解明
- 5 ゼブラフィッシュ遺伝子機能解析系を用いた未知遺伝子の機能解析

生理活性制御学：小堤保則 教授

- 1 細胞死誘導型免疫抑制物質の作用機構と関連遺伝子に関する研究
- 2 スフィンゴ糖脂質の持つ生理活性に関する研究
- 3 シアル酸分子種に関する研究

生体情報制御学：中山和久 教授

- 1 ゴルジ体を中心としたタンパク質の細胞内輸送および局在化機構の解明
- 2 プロスタグランジン受容体を介する細胞・生理機能の制御に関する研究
- 3 ヒスタミン合成酵素の遺伝子発現制御と活性発現調節の分子機構の研究
- 4 マスト細胞の分化と機能に関する研究
- 5 シングルセル発現プロファイル解析による神経・生殖細胞分化の研究

神経機能制御学：根岸学 教授

- 1 神経ネットワーク形成, 神経可塑性の分子メカニズムの研究
- 2 中枢神経系におけるプロスタノイド受容体の情報伝達機構の研究
- 3 三量体 G 蛋白質及び低分子量 G 蛋白質による神経機能調節の研究
- 4 ストレス遺伝子の発現機構

生体機能化学：杉浦幸雄 教授

- 1 亜鉛フィンガー型転写因子の DNA 認識と機能発現に関する研究
- 2 金属の関与する新しい核酸認識モチーフの設計と創製
- 3 遺伝子を標的とする人工タンパク質の創製と機能
- 4 ペプチド・タンパク質の細胞内導入と細胞内情報伝達の調節に関する研究
- 5 センサー機能を有する人工イオンチャンネルの創出

医療薬科学専攻

薬品動態制御学：橋田充 教授

- 1 医薬品の体内動態の分子機構の解明と動態モデルに基づく数理学的解析
- 2 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法、製剤設計法の開発
- 3 タンパク質医薬品の臓器、細胞特異的ターゲティング技術の開発
- 4 遺伝子医薬品を対象とするドラッグデリバリーシステムの開発
- 5 薬物経粘膜・経皮吸収の機構解析とコンピュータ吸収予測法の開発

薬品作用解析学：赤池昭紀 教授

- 1 中枢神経作用薬の薬理学を主要研究課題とする。
- 2 抗痴呆薬、難治性神経疾患および網膜変性疾患治療薬の薬理作用の解析
- 3 神経変性疾患におけるニューロン死の機序の解析とその保護因子の探索
- 4 胎児血清に由来する神経保護物質セロフェンド酸の作用機序の解析
- 5 ニューロン生存と神経再生を制御する細胞内機能分子に関する研究

病態機能分析学：佐治英郎 教授

- 1 画像定量解析法による脳疾患、心疾患、がんでの生体機能変化の状態分析とそれに基づく病態の仕組みの解明および薬物作用の動的解析に関する研究
- 2 病態の特性に基づく標的部位選択的移行、選択的活性化をおこす機能性画像診断・治療薬の創薬研究
- 3 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究

病態情報薬学：高倉喜信 教授

- 1 核酸医薬品の体内動態支配因子及び細胞内取り込み機構の解明
- 2 DNA ワクチン及び抗原ペプチドの体内/細胞内動態の最適化による免疫反応の制御
- 3 極性細胞への遺伝子導入による生理活性タンパク質の方向選択的デリバリー
- 4 薬物代謝酵素/トランスポーターの共同効果及びその変動要因の速度論的解析

医療薬剤学：乾賢一 教授

- 1 医薬品の体内動態と薬効・毒性に関する基礎と臨床
- 2 薬物トランスポーターの分子・細胞生物学的解析と臨床応用に関する研究
- 3 病態時における薬物動態・薬効の変動要因の解析と患者個別投与設計に関する研究
- 4 薬物相互作用の in vitro 予測・評価系の開発に関する研究
- 5 薬物トランスポーター・代謝酵素の遺伝多型・個体間変動とテーラーメイド医療

寄付講座

創薬神経科学：杉本八郎 客員教授

- 1 アルツハイマー病などの神経変性疾患の原因究明に基づいた創薬研究
- 2 創薬シードとしての生体内もしくは天然物中にある未知なる生理活性物質に関する研究
- 3 ゲノムや神経再生医療技術を用いた創薬アプローチに関する研究

医薬品理論設計学：北浦和夫 客員教授

- 1 電子状態理論による蛋白質と医薬品候補化合物の分子間相互作用の精密解析
- 2 統計・情報処理による医薬品候補化合物の高速・高精度親和性予測法の開発
- 3 ドラッグデザインのための計算化学的手法の開発
- 4 計算化学的手法および SBDD による医薬品化合物の論理的な探索研究
- 5 生体高分子の構造・機能に関する理論的研究

COE プログラム協力講座

生命知識システム学：金久貴 教授

- 1 バイオインフォマティクスに基づく創薬科学研究
- 2 代謝バスキュー、代謝物質、酵素反応に関する情報科学的解析
- 3 糖鎖と糖関連遺伝子に関するゲノム科学的解析
- 4 タンパク質と低分子化合物の相互作用解析
- 5 ゲノム多型情報、遺伝子発現情報等の有効利用技術の開発

創薬・医療連携薬学コア部門

本コア部門は、寄附講座の2研究室、薬学研究科基幹分野の5研究室、医療薬剤学分野（附属病院薬剤部）により組織され、最適化薬物治療の実現を通じた社会貢献を目的とし、創薬・医療に関わる社会との連携研究を推進する。

- 1 臨床医学・産業界との連携による創薬・医療研究の推進
- 2 先端的創薬科学研究領域の開拓
- 3 臨床薬学研究の基盤となる研究・教育体制の構築
- 4 臨床・産業界への多様な人材の供給
- 5 6年制を控えた薬学教育の標準化・グローバル化の実現

全学共通科目（必修・選択必修科目）

科目

薬学概論、薬学生物学、薬学物理化学（化学熱力学）、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、数学基礎 A、数学基礎 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、熱力学、物理学実験、分析化学及び環境化学実験、生物学実習 III、薬用植物学、基礎情報処理、基礎情報処理演習

専門科目

群	1 年生～	2 年生～	3 年生～	4 年生
I 群 物理・薬化学科目 (化学系)		有機化学 I(化学結合論)、有機化学 II(有機構造論)、薬用資源学、有機化学 III(有機反応論 I)、バイオサイエンス統計基礎、基礎バイオインフォマティクス	薬学専門実習 I、生薬学、天然物化学、有機化学 IV(有機反応論 2)、有機化学 V(有機合成論)、薬学専門実習 II、生体機能化学	薬学専門実習 V、医薬品化学、精密有機合成化学、新薬論、特別実習、応用バイオインフォマティクス
II 群 物理・薬化学科目 (物理系)		物理化学 I(量子化学)、物理化学 II(電気化学・界面化学)、分析学 I(薬品生物分析学)、分析学 II(放射化学)、物理化学 III(構造化学)、分析学 III(分光学)、バイオサイエンス統計基礎、基礎バイオインフォマティクス	薬学専門実習 I、生物物理化学、放射性医薬品学、薬学専門実習 II、生物構造情報学	薬学専門実習 V、製剤機能設計学、特別実習、応用バイオインフォマティクス
III 群 生物・分子薬学科目		生物化学 I(物質生化学)、生物化学 II(代謝生化学)、生物化学 III(核酸生化学)、バイオサイエンス統計基礎、基礎バイオインフォマティクス	薬学専門実習 I、微生物学 I(細菌学)、生物化学 IV(分子遺伝学)、生物化学 V(細胞生物学)、生物化学 VI(生理化学)、薬学専門実習 III、微生物学 II(ウイルス学)、生体防御学	薬学専門実習 V、細胞工学、生物化学 VII(腫瘍生物学)、特別実習、応用バイオインフォマティクス
IV 群 生命・臨床薬学科目	一般生理学	医療薬学 I(薬剤学)、機能形態学、病理学、医療薬学 II(薬理学)、衛生薬学 II(環境衛生学)、バイオサイエンス統計基礎、基礎バイオインフォマティクス	薬学専門実習 I、病態生理学、医療薬学 III(薬物動態学)、衛生薬学 I(衛生化学)、薬学専門実習 IV、臨床薬物学、医療薬学 IV(医薬品安全性学)、医療薬学 V(医療薬剤学)	薬局方・薬事関連法規、臨床薬学総論、薬学専門実習 V、感染学、薬物治療学、特別実習、応用バイオインフォマティクス



工学部の紹介

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人間の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の持続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとした基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30（1897）年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3（1914）年7月、理工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8（1919）年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部で発展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開校しました。桂キャンパスへは工学研究科と情報学研究科が移転することになっており、平成16年7月現在で工学研究科の電気系、化学系専攻が移転を終え、他専攻、情報学研究科についても今後順次移転することになっています。桂キャンパスでは主に大学院教育を行い、学部教育は吉田キャンパスで行いますが、4回生の授業と特別研究（卒業研究）は桂キャンパスで行うことがあります。

工学部の4年間

「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るということに基づいています。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、人間・環境学研究科と理学研究科を実施責任部局として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年になると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降ではコースを選択して専門科目を学びます。

第4学年では特別研究（卒業研究）に取り組む

第4学年では、特別研究（卒業研究）を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に取り組み、その結果を学士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を取得し、学士論文を完成すれば、学士（工学）の学位を取得することができます。

カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見通し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重視し、伸びのある思考力と実践力を養うようにしています。また、カリキュラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習ができるようにしています。必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。

求める入学者

以上のような教育を受けていただくために、次のような入学者を求めています。

- ・高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- ・既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- ・創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

連絡先：工学部教務掛 (075-753-5039)

<http://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/>

在学生からのメッセージ



持続可能な発展を目指した地球工学を学んで

地球工学科 4 回生

小川 純子 さん

現代社会においてインフラ整備は欠かせないものですが、科学技術の発展の陰で進行してきた自然環境の破壊を無視して、旧世紀型のインフラ整備を行うことは最早許されません。自然と調和したインフラ整備を行い、より良い社会を創造することは、「持続可能な発展」を理念として現在を生きる私達に課せられた課題であり、地球工学は今後ますます重要な分野になると思います。

私は、環境衛生に興味があって、地球工学科を選びました。2年間、様々な分野の講義を受講するうちに、人々の生活を支えている社会基盤の構造等を取り扱う学問の面白さに惹かれ、土木コースに進みました。今後は、地下水・土壌汚染や廃棄物問題等、人間活動が及ぼす環境影響について、知識と理解を深めて行きたいと考えています。

地球工学科は、幅広い学問領域を対象としているので、自分の興味のある分野がきっと見つかると思います。



大学生活を楽しもうよ！

工業化学科 4 回生

工東 直美 さん

小学校の頃から理科、特に化学が好きで将来は研究職につきたいと思っていました。工業化学科に入学し、より詳しく深いことを学んでいくうちに、その化学への思い入れはより強いものとなった気がします。4回生となった現在では、特に興味をひいた高分子化学を専攻とする研究室に配属され、ここから本格的にスタートする研究にドキドキワクワクしています。

また、大学では学科での専門講義以外にも多くのことを学ぶことができます。学生だからできるようなこともたくさんあります。勉強、サークル等、広い範囲のことに積極的に挑戦し、大学生活を充実させ楽しんでいけば、必ずそれは将来に役立つと思っています。



技能を身につける楽しみ

建築学科 4 回生

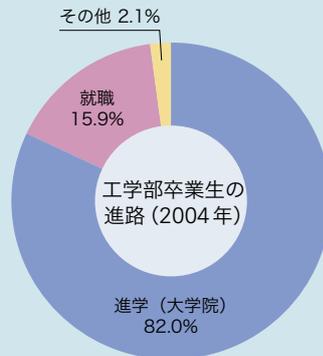
黒木 沙織 さん

建築学科では、建築を意匠、環境、構造の三つの視点から学んだ上で、実際にさまざまな用途の建築を、設計する機会が与えられています。自分の頭の中に生まれたたくさんのアイデアをカタチにしていく設計作業は大変楽しく、それがひとつの作品として実を結ぶのは、とてもやりがいのある瞬間です。その際、多角的な視点から建築を学んできたことが、作品に、アンビルドながら深みや説得力をもたらしてくれます。これはとても重要なことだと私は思います。これからは、三年間の総合的な勉強を踏まえ、より専門的に建築の、特に音響分野の研究をしていく予定です。建築は忙しい学科ですが、その分とても充実した毎日を過ごせると思いますよ。

卒業後の進路

本学部卒業生の5分の4以上（平成15年度82%）の者が大学院修士課程へ進学しています。将来、研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は年々増加しています。

また、修士課程修了後は4分の3以上（平成15年度78%）が就職しています。



工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、測量士補、建築士、電気主任技術者、無線技術士、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者、火薬類取扱保安責任者等の学科試験が一部免除されます。（また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。）

卒業生からのメッセージ



京都大学での生活を振り返って

2002年物理工学科卒業

三菱重工業株式会社勤務

波多野 正剛 さん

私は高校時代から飛行機に関わる職業に就きたいと考えていたので、物理工学科に入学、そして大学院の航空宇宙工学専攻に進学しました。合計六年間、京都大学で学んだ経験は自分自身にとってかけがいのないものになりました。技術者になるために必要な数学、物理学など多くの学問に触れることができた他に、卒業論文、修士論文の作成を通しては、物事を正確に理解する力、研究に対する取り組み方をなども学ぶことができました。このようなことは高校までの受動的な学習ではなかなか身につかないものだと思います。現在は当初の目標を果たし航空機製造メーカーに勤めておりますが、京都大学で学んだ経験を生かして一人前の設計者になれるようにがんばってまいります。



見えない電気のしくみがみえる

2000年電気電子工学科卒業

松下電器産業株式会社勤務

溝上 要 さん

私は幼い頃から「何でも知りたがり」でした。その探究心の矛先は生活に最も身近で大切な電気に向いて行き、電気電子工学科を選びました。学部での専門の講義は電気・電子に関する基礎知識を蓄え、好奇心を満たすのに十分なものでした。目からうろこ！という経験をしばしばしたものです。

本来、「光り物（照明やテレビなど）」が好きだったので、大学院ではプラズマ物性を専攻し、そこで出会ったのがプラズマテレビでした。修士論文で微小空間のプラズマについて基礎研究をし、現在は会社でプラズマテレビの開発に従事しています。私の場合、大学時代の研究内容が実務に直結していますが、どんな仕事でも、電気・電子関連の知識というのは必要不可欠なものです。

「わからなかったことがわかる、みえないものがみえる」というのが電気系の醍醐味ですね。

学科紹介

地球工学科

地球工学 (Global Engineering) は、文明の運営に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ (社会基盤施設) の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。本地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力の養成を教育研究目標としています。

建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く係わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も建築・構造・環境の設計及び施工に従事する建築家及び建築技術者、行政的な指導、監督にあたる建築行政担当者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。

物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギー源の開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組む新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておくことが必要です。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、エネルギー理工学、宇宙基礎工学の4つのコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械工学、機械物理工学、精密工学、原子核工学、材料工学、航空宇宙工学の各専攻、エネルギー科学研究科および情報学研究科の関連専攻が、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所、再生医科学研究所の協力のもとに、学際的広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行っています。

電気電子工学科

21世紀社会における重要なテーマとして、高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化、などがあります。これらは、すべて電気電子工学が生み出す技術なしでは実現不可能です。電気電子工学科では、回路網学、電磁気学、材料物性、半導体工学、光工学、通信工学、情報理論、自動制御工学、パワーエレクトロニクス、などの基礎科目や関連する幅広い専門科目を教育するとともに、先端的なテーマについての研究を通して、社会に貢献できる優れた人材の育成をめざしています。

情報学科

現在の高度情報化社会では、対象とするシステムはますます巨大化・複雑化し、工学の各専門分野が融合した形態をとるのが普通です。このような情勢に対処するためには、現代科学技術の基盤をなしている“情報”とは何かを究明し、その役割を明らかにするとともに、システムを全体として横断的にとらえ、問題解決のための手法を探索する“数理的思考”が不可欠です。情報学科では、数学や物理学の知識を実際問題応用でき、計算機のハードウェア、システムソフトウェア、高度な情報システムを設計活用できる人材を育てることを目標として、総合的な教育と研究を行っています。なお、1学年終了時に数理工学コースと計算機科学コースに分かれます。

工業化学科

化学は様々な物質を作り出す反応とそのプロセス、物質に機能を与える物性などを対象とする学問で、人々の豊かな生活を支えるとともに、最先端科学技術の発展に大きな貢献をしています。工業化学科では、化学に関連した幅広い分野にわたる基礎知識の養成を目的として教育を行います。第一学年では化学・物理学・数学などの自然科学基礎科目と、語学や人文社会科学科目を学習します。第二学年前期から工業化学科としての専門基礎科目が始まります。第二学年後期より、創成化学コース、工業基礎化学コース、化学プロセス工学コースに別れて、専門教育を受けます。第四学年には各専攻の研究室に所属して卒業研究を行い、研究者・技術者としての高度な知識を習得します。

工学部及び各学科の詳細については、「工学部紹介冊子 2005」をご覧ください。「工学部紹介冊子 2005」については、前頁の連絡先にお問い合わせください。

全学共通科目 (学科推薦科目)

学科	科目
地球工学科	微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 熱力学, 力学統論, 物理学実験, 基礎地球科学 IA, 基礎地球科学 IB, 基礎地球科学 IIA, 基礎地球科学 IIB, 地球科学序論, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 分析化学及び環境化学実験, 環境生物・化学, 図学 A, 図学 B, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 線形代数学統論, 振動・波動論, 無機化学入門 A, 無機化学入門 B, 生物自然史基礎論 A, 生化学入門 101, 生化学入門 102
建築工学科	線形代数学 A, 線形代数学 B, 微分積分学 A, 微分積分学 B, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 熱力学, 振動・波動論, 力学統論, 図学 A, 図学 B, コンピュータグラフィクス実習 A 又は B, 物理学実験, 生活と数学 A, 生活と数学 B, 基礎地球科学 IIA, 基礎地球科学 IIB, 確率論基礎, 数理統計, 確率過程論, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B
物理工学科	微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 物理学実験, 基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 図学 A, 分析化学及び環境化学実験, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 電磁気学統論, 確率論基礎, 数理統計, 合成及び測定実験, 無機化学入門 A, 無機化学入門 B, 生命科学概論 A, 生命科学概論 B, 振動・波動論, 統計物理学, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 力学統論
電気電子工学科	微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 物理学基礎論 A, 力学統論, 物理学実験, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 分析化学及び環境化学実験線形代数学統論, 複素解析 A, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 確率論基礎, 数理統計, 確率過程論, 数論基礎 A, 数論基礎 B, 数理論理学 A, 数理論理学 B, 熱力学, 統計物理学, 量子物理学, 解析力学, 特殊相対論, 基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 無機化学入門 A, 無機化学入門 B, 合成及び測定実験
情報学科	微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 物理学実験, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 線形代数学統論, 熱力学, 振動・波動論, 確率論基礎, 数理統計, 数理論理学 A, 数理論理学 B, 情報と社会
工業化学科	基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 分析化学及び環境化学実験微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 物理学実験, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 合成及び測定実験, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 熱力学, 振動・波動論, 力学統論, 解析力学

専門科目

学科	1 年生～	2 年生～	3 年生～	4 年生
地球工学科	地球工学総論, 基礎情報処理演習, 基礎情報処理, 情報処理及び演習	確率統計解析及び演習, 地球工学基礎数理, 一般力学, 社会基盤デザイン, 基礎環境工学 I, 資源エネルギー論, 工業数学 B1, 構造力学 I 及び演習, 水理学及び演習, 土質力学 I 及び演習, 計画システム分析及び演習, 環境衛生学, 物理探査学	測量学及び実習, 連続体の力学, 工業数学 B2, 構造力学 II 及び演習, 材料学, 波動・振動学, 水文学基礎, 水理水工学, 海岸環境工学, 土質力学 II 及び演習, 土質実験及び演習, 社会システム計画論, 基礎環境工学 II, 大気・地球環境工学, 水質学, 環境装置工学, 放射線衛生学, 環境工学実験 I, 地質工学及び演習, 弾性学及び演習, 流体力学, 物理化学, 先端資源エネルギー工学, 資源工学基礎計測, 資源工学地化学実験, <学外実習, 空間情報学, 構造実験・解析演習, コンクリート工学, 耐震・耐風・設計論, 河川工学, 水資源工学, 水理実験, 地盤環境工学, 岩盤工学, 都市・地域計画, 公共経済学, 交通マネジメント工学, 交通政策論, 都市景観デザイン, 上水道工学, 下水道工学, 廃棄物工学, 環境工学実験 2, 波動工学, 応力解析法及び演習, 熱流体工学, 分離工学, 工業計測, 資源工学材料実験	地球工学デザイン, 土木法規, 地球防災工学, 材料実験, 地殻海洋資源論, 地殻開発工学, 塑性学及び演習, 時系列解析, 工学倫理, 建築工学概論, 特別研究
建築工学科	基礎情報処理, 基礎情報処理演習, 建築工学概論, 日本都市史, 世界建築史, 設計演習基礎, 造形実習	建築計画学 I, 住居計画学, 建築設計論, 設計演習 I, 設計演習 II, 建築環境工学 I, 建築環境工学 II, 建築構造力学 I, 建築構造力学 II, 建築生産 I, 建築材料, 建築・都市行政, 建築情報処理演習, 工業数学 C	都市設計学, 建築設備システム, 鉄筋コンクリート構造 I, 鉄骨構造 I, 建築構造力学 III, 日本建築史, 建築生産 II, 建築論, 都市・地域論, 都市環境工学, 建築光・音環境学, 建築温熱環境設計, 建築構造解析, 耐震構造, 鉄筋コンクリート構造 II, 鉄骨構造 II, 設計演習 III, 設計演習 IV, 建築応用数学, 建築情報システム学, 景観デザイン論	建築計画学 II, 建築基礎構造, 耐震構造, 地球工学総論, 設計演習 V, 構造設計演習, 構造・材料実験, 建築安全設計, 建築環境工学実習, 建築環境工学演習, 工学倫理, 専門英語, 特別研究
物理工学科	物理学総論 A, 物理学総論 B, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	計測学, 計算機数学, 材料力学 1, 材料力学 2, 熱力学 1, 熱力学 2, 機械設計製作, 工業数学 F1, 工業数学 A1, 材料基礎学 1, 固体物理学, 応用電磁気学, 原子物理学, 流体力学基礎, 物質科学基礎, 材料統計物理学, 材料科学基礎 1, 材料科学基礎 2, 化学熱力学基礎, 原子核工学序論	工業数学 F2, 工業数学 A2, 工業数学 F3, 工業数学 A3, 数値解析, 材料基礎学 2, 量子物理学 1, 量子物理学 1, 量子物理学 2, 連続体力学, 流体熱工学, 工業力学 A, エネルギー変換工学, 振動工学, 制御工学 2, システム工学, 生産工学, 薄膜材料学, 精密加工学, 設計工学, 結晶回折学, 材料組織学, 結晶物性学, 材料物理化学, 構造物性学, 熱及び物質移動, エネルギー平衡論, 統計力学, エネルギー・材料熱化学 1, エネルギー・材料熱化学 2, 材料物理学, プラズマ物理学, 量子反応基礎論, 中性子物理学, エネルギープロセス論 1, エネルギープロセス論 2, 流体力学, 統計熱力学, 原子炉物理学, 量子線計測学, 気体力学, 熱統計力学, 空気力学, 推進基礎論, 航空宇宙機力学, 質点系と振動の力学, 固体力学, 量子無機材料学, 固体電子論, 材料機能学, 材料プロセス工学, 環境物理化学, 電気回路と微分方程式, 電気電子回路, 物理工学演習 1, 物理工学演習 2, 機械システム学演習, 機械システム工学実験 1, 機械システム工学実験 2, 機械システム工学実験 3, 機械設計演習 1, 機械設計演習 2, 機械製作実習, 材料科学実験および演習 1, 材料科学実験および演習 2, エネルギー理工学設計演習・実験 1, エネルギー理工学設計演習・実験 2, 航空宇宙工学実験 1, 航空宇宙工学実験 2, ものづくり演習, インターンシップ, 金属材料学, 材料量子化学, 材料電気化学, 加速器工学, 放射化学	量子物理学 2, 応用制御工学, 人工知能基礎, システム工学, 加工学, 物理学英語, 材料強度物性, 固体物性学, 信頼性工学, 品質管理, 機械要素学, 材料分析化学, 核物理基礎論, 生物物理学, 原子炉基礎演習・実験, 近代解析, 有限要素法の基礎と演習, 航空宇宙工学演義, 工学倫理, 特別研究 1, 特別研究 2
電気電子工学科	電気電子工学概論, 電気回路基礎論, 電気電子工学基礎演習, 電気電子回路, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	電子回路, 電気電子工学実験 A, 電気電子工学実験 B, 電気電子プログラミング演習, 電気電子学, 電磁気学 1, 電力回路, 電気機器 1, 論理回路, 計算機工学, 情報理論, 物性・デバイス基礎論, 半導体工学	電気電子工学実習 A, 電気電子工学実習 B, 電気電子計算工学及び演習, グラフ理論, 電気回路, 電磁気学 2, デジタル回路, 電気電子計測 1, 電気電子計測 2, 自動制御工学, デジタル制御, システム最適化, 知能型システム論, 電気機器 2, パワーエレクトロニクス, 発電工学, 放電工学, 通信基礎論, 情報伝送工学, 通信ネットワーク, 電波工学 1, マイクロ波工学, 計算機ソフトウェア, 計算機システム, デジタル信号処理, 固体電子工学, 電気電子工学のための量子論, プラズマ工学, 真空電子工学 1, 電気電子材料学, 光工学 1, 生体医療工学	電波工学 2, 光通信工学, 電力系統工学, 絶縁設計工学, マンマシンシステム工学, 電気応用工学, 音響工学, 真空電子工学 2, 光電子デバイス工学, 光工学 2, 電気伝導論, 工学倫理, アルゴリズム論, 人工知能, 応用代数学, 電気法規, 電波法規, 特別研究
情報学科	計算機科学概論, 数理工学概論, アルゴリズムとデータ構造入門, 線形計画, 電気回路と微分方程式, 電気電子回路, 基礎情報処理演習	工業数学 A1, 質点系と振動の力学, 数理工学実験, 基礎数理演習, プログラミング演習, 計算機科学実験及び演習 1, 計算機科学実験及び演習 2, システム解析入門, 論理システム, システムと微分方程式, 解析力学, 論理回路, 言語・オートマトン, 計算機アーキテクチャ 1, プログラミング言語, コンパイラ, 電子回路, 情報理論, コンピュータネットワーク, グラフ理論, 数値解析, 意思決定論	情報理論, コンピュータネットワーク, 数値解析, 工業数学 A2, 工業数学 A3, 線形制御理論, 確率と統計, 確率離散事象論, 応用代数学, 人工知能, ヒューマンインタフェース, 数値計算演習, 数理工学セミナー, システム工学実験, 計算機科学実験及び演習 3, 計算機科学実験及び演習 4, 物理統計学, 連続体力学, 量子物理学 1, 量子物理学 2, 現代制御論, 最適化, 非平衡系の数理, 計算機アーキテクチャ 2, オペレーティングシステム, パターン認識, データベース, 集積システム入門, 技術英語, 情報システム, アルゴリズム論, 画像処理論, ソフトウェア工学, マルチメディア, 計算と論理, 情報システム理論	信号とシステム, 近代解析, 非線形系の力学, 数理科学英語, 情報と職業, 通信基礎論, 工学倫理, 特別研究
工業化学科	工業化学概論 I, 工業化学概論 II, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	物理化学基礎及び演習, 有機化学基礎及び演習, 基礎無機化学, 化学プロセス工学基礎 【創成化学コース】有機化学 I (創成化学), 物理化学 I (創成化学), 無機化学, 分析化学, 高分子化学基礎 I, 化学プロセス工学 【工業基礎化学コース】物理化学 I (工業基礎化学), 無機化学 I (工業基礎化学), 分析化学 I, 有機化学 I (工業基礎化学), 化学プロセス工学, 化学数学 I, 最先端の化学入門 【化学プロセス工学コース】物理化学 I (化学工学), 無機化学 I (化学工学), 基礎流体力学, 化学工学数学 I, 化学工学計算機演習	【創成化学コース】創成化学実験, 有機化学 II (創成化学), 生体関連物質化学, 物理化学 II (創成化学), 高分子化学基礎 II, 統計熱力学入門, 機器分析化学, 環境保全概論, 有機化学 III (創成化学), 物理化学 III (創成化学), 錯体化学, 最先端機器分析, 高分子化学 I, 環境安全化学 【工業基礎化学コース】工業基礎化学実験, 物理化学 II (工業基礎化学), 有機化学 II (工業基礎化学), 無機化学 II, 分析化学 II, グリーンケミストリー概論, 生化学 I, 高分子化学概論 I, 化学数学 II, 環境保全概論, 有機化学 III (工業基礎化学), 物理化学 III (工業基礎化学), 無機化学 III, 生化学 II, 生物化学工学, 有機工業化学, 高分子化学概論 II, 量子化学概論, 環境安全化学 【化学プロセス工学コース】移動現象, 反応工学 I, 流体系分離工学, プロセス制御工学, 物理化学 II (化学工学), 化学工学数学 II, 計算化学工学, 化学工学実験, 環境保全概論, 反応工学 II, 固相系分離工学, 微粒子工学, プロセスシステム工学, 化学工学シミュレーション, 生物化学工学, 環境安全化学, 物理化学 III (化学工学), 有機工業化学	【創成化学コース】電気化学, 高分子化学 II, 化学のフロンティア, 産業科学特論, 工学倫理, 化学実験の安全指針, 特別研究 【工業基礎化学コース】化学実験の安全指針, 触媒化学, 化学統計力学, 有機分光学, 電気化学, 有機金属化学, 先端機器分析科学, 工学倫理, 特別研究 【化学プロセス工学コース】化学実験の安全指針, プロセス設計, 工学倫理, 特別研究,



農学部の紹介

わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。途上国では多くの人々が飢えに苦しみ死に瀕しています。また、牛のBSEや鶏のインフルエンザ問題で騒がれたように、食の安全性が問題になっています。現在、われわれ人類が健康で幸せに暮らすために、安全で質の高い食料を十分に供給することが求められています。

他方、この地球上では、人口増加に加えて、砂漠化や地球温暖化などの環境問題が21世紀の緊急の課題となっています。「環境の時代」と言われる21世紀では、自然と人間活動の調和が求められており、環境に負担をかけない食料生産を目指すことが必要です。農村の豊かな生態系や自然景観を維持・保全することも大切です。このような食料と環境の問題を解決して、人類が快適で平和に暮らすためになくてはならない学問が農学です。農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基礎とした「生命・食料・環境」に関する総合科学です。研究対象は、分子・細胞などのマイクロレベルから圃場・生態系、さらには地域社会といったマクロレベルまで、広範囲に及んでいます。

京都大学農学部では、資源生物科学科(生物系)、応用生命科学科(化学系)、地域環境工学科(物理系)、食料・環境経済学科(社会科学系)の基礎系4学科、及び、森林科学科、食品生物科学科の総合系2学科、計6学科を設置し、食料の生産・加工から流通に至るまでの諸問題とそれを取り巻く環境の保全・管理・創造などについて幅広い教育・研究を展開しています。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科毎に異なる高度な専門教育を実施することを目的としています。したがって、本学部のアドミッションポリシーは、「各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育で求められる十分な学力を有する人材を求める」であります。

本学部の卒業生の多くは大学院に進んで研究を行います。大学院である農学研究科には、農学専攻、森林科学専攻、応用生命科学専攻、応用生物科学専攻、地域環境科学専攻、生物資源経済学専攻、食品生物科学専攻の7つの専攻があります。それぞれの専攻では、人類の福祉の向上と持続的な繁栄に貢献することを目指して、農学の基礎及び応用の研究を活発に行っており、京都大学農学研究科は平成15年度から文部科学省の「21世紀COEプログラム」に選ばれています。

農学部の4年間

いま農学部では

衣食住は人類の生活にとって必要不可欠な条件ですが、食物はもとより、私たちの身の回りの実に多くのものが農業によってまかなわれています。21世紀を迎えて、世界人口の飛躍的増加が見込まれていますが、地球環境を守りながら、あまねく人類の健康で文化的な生活を保障するためには、農学はますます重要な使命を担っているのです。そのため、今日では遺伝子組換えなどのバイオテクノロジーを活用した品種改良や高度な生産技術の開発研究に力が注がれています。また、環境にやさしい農業を目指して、人工衛星からのリモートセンシングやIT技術を利用した研究も行われています。さらには、人類の持続的発展のためには地域の自然条件のみならず、経済的・社会的・文化的諸条件の総合的考察からの検討も不可欠です。このように、今日の農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などの手法も取り入れて、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした生命系の総合科学へと発展しているのです。そのためには、特定の専門分野に偏らない広い視野に立った総合的な基礎知識が必要です。

農学部は、基礎系4学科と総合系2学科から構成されています。受験生のみなさんは、得意とする分野や学びたい内容に合わせて学科を選択して入学しますが、学部では4年一貫教育のもとに、学ぶこととなります。まず、第1・2学年では全学共通科目を中心に履修します。その多くは基礎学力を養うもので、全学共通科目としてA群(人文科学、社会科学)、B群(自然科学)、C群(外国語科目)があり、これらの群から卒業に必要な単位数を履修することになります。また第1・2学年から専門科目も一部学ぶこととなりますが、第3学年から本格的に専門科目を履修し、実験、ゼミナール等が始まります。第4学年では研究分野(研究室)に分かれて課題研究(卒業研究)を行います。これは教員の指導、助言を受けながら大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む最初のステップです。こうして、所定の単位を修得した学生は、学士(農学)の学位を取得して卒業することになります。さらに研究を深めようと志す学生は大学院へ進学します。

高度な専門的知識の修得と研究者養成

21世紀における地球規模の重要課題として、エネルギー、資源、環境、食料、生命、情報、民族および文化等がありますが、農学はそれら全てに関わっており、その果たすべき役割はますます重くなってきております。これらの課題により一層対処するため、7専攻よりなる農学研究科の改組を平成13年4月に行いました。これによって、大学院は教育と研究が有機的により一本化され、社会の期待に添うことのできる組織となりました。農学の理念をよく理解し、広い視野でものごとを考える力としっかりとした基礎学力を身につけた農学部の卒業生は、その大半が、他学部、他大学の卒業生とともに農学研究科に進学します。そこでは、高い研究水準を持った熱意のある教員と最新の設備が大学院学生の研究意欲を強く刺激します。院生は教員の指導は受けるものの、自由に発想し、自身で考え、近未来を目指した先端的研究や、遠い将来を見据えた着実ではあるがユニークな研究を行うことができます。現在、大学院には、韓国、中国、インドネシアをはじめ22ヵ国からの外国人留学生約100名が在籍しています。多くの留学生と一緒に勉強することで、知らず知らずの内に国際性が身につくことにもなります。

生産現場に根ざした教育・研究

京都大学には農学研究科附属の農場と牧場があり、学部および大学院の教育並びに農学研究の場として利用されています。附属農場は、農学部創設の翌年、1924年に農学部構内に開設されましたが、現在では高槻市八丁畷の本場、同市古曾部町の花弁温室部、および農学部構内の京都農場、からなっています。農場では、農業の現状と未来に即した農学研究、特に先端的研究を農場の現場に応用するための理論構築、作物の品種改良などを目的として圃場をベースにした数多くの研究が行われています。学部学生の実習教育は、2回生を対象として「栽培技術論と実習（通年）」が開講されています。

附属牧場は、京都市の北西約50kmの丹波町に位置し農学部からは車で約1時間半ほどの距離にあります。総面積約15ha（牧草地10ha）に、繁殖雌牛、育成子牛および肥育牛があわせて約150頭ほど飼育されています。牧場ではこれらの肉用牛を用いて、肉量および肉質についての生産能力と品種、性、栄養との関係を産肉生理学的な面から研究するとともに、得られた成果にもとづいて効率的な牛肉生産方式を開発しようとしています。学部学生の実習教育は、研修・宿泊施設を利用して、「畜産技術論と実習（集中講義）」が2年生および4年生を対象にして開講され、肉用牛の飼育管理技術と生産システム、牧草の生産利用技術の取得などをおもな内容にしています。

連絡先：農学部第一教務掛（075-753-6012）
<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/>

在学生からのメッセージ



地球規模で農林業について考える

食料・環境経済学科 4回生
 川原 菜穂 さん

農学部では主に自然科学的手法を用いて問題解決に取り組めます。

しかし、私達の学科では唯一、人文・社会経済学的手法を用いて研究を行います。高校生の皆さんにとっては、ここで何を学ぶのか理解しにくいと思います。私もはじめはそうでした。生物や化学なら、比較的なじみやすいですね。でも心配しないでください。皆さんは、大学で一から新しい学問を始めるのだと思ってください。

「食料問題」「森林問題」は地球に暮らす人類にとって大きな課題です。「農」「食」「人」に関心を持っている人、政策や農林業の実態をみつめなおし、今後の農林業政策について一緒に考えてみませんか。



生命科学—農学的アプローチ

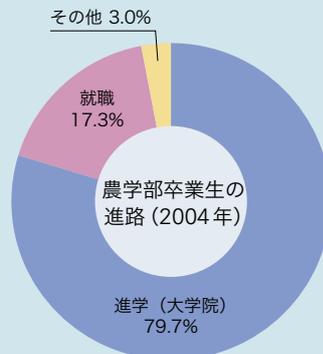
応用生命科学科 4回生
 槇野 早恵 さん

農学部というと「農業や農作物の研究」といった限定的なイメージを持たれがちですが、実際は「生命・食料・環境」に関連する多岐に渡る研究領域が統合した学部です。私は応用生命科学科で学ぶ有機化学、微生物学、生化学などのいろいろな講義や学生実験を通して、さまざまな視点から総合的に生命科学に関わる農学部の教育・研究に魅力を感じています。

私は現在、ミトコンドリアなどの呼吸鎖酵素系に作用する生理活性物質の有機化学合成と作用機構の研究を行っています。日々の研究の進展は微々たるものですが、その積み重ねが農業、医薬などの創薬科学の発展に役立ち、いつの日か社会への貢献につながるものと思って楽しく勉強しています。

卒業後の進路

約8割が大学院に進学しますが、就職先は、公務員、試験研究機関の研究員として、また民間企業では化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・マスコミ・コンピューター等、幅広い分野に進出しています。



就職先の例：

環境省、国税庁、郵政公社、日本気象協会、農業・生物系特定産業技術機構、味の素、サントリー、不二製油、旭硝子、村田機械、ヤンマー、東京電力、伊藤忠商事、三菱商事、東京三菱銀行、日本生命、読売新聞社、共同通信社、博報堂、電通、リクルート、日本IBM、日本航空、ミキハウス、ミズノなど

農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、二級建築士試験及び木造建築士資格試験受験資格、測量士及び測量士補の資格取得の教育課程を設けているほか、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ



学問の場としての農学部

1995年農林生物学科（現 資源生物科学科）卒業
 京都府立大学大学院農学研究科講師
 大迫 敬義 さん

大学院修了後、私立大学の研究員を経て現在は公立大学で教育と研究に従事しています。複数の大学での経験を通して、京都大学は様々な点において学問に適した環境を備えていると感じています。その一つは、農学部でありながら授業内容が実学に偏らず、基礎的分野を重視する科目が多いことです。例えば、現在の私の専門に関わる遺伝学では分子、細胞から集団まで幅広く学ぶことができました。そこで修得した知識や思考法は植物の遺伝現象をより深く学び研究する上での確固たる土台となっています。もう一点は、研究室においては構成員が対等に議論できる雰囲気醸成されていることです。時には批判を伴う意見のやり取りを教員と学生、先輩と後輩といった立場の違いに関わらず活発に行うことが学問の発展に寄与することを実感できたのは幸運でした。



世界に羽ばたく礎を築く大学生活を

2001年生物機能科学科（現 森林科学科）卒業
 松下電工株式会社勤務
 守田 清史 さん

京都大学には学問を究めるのは勿論のこと、スポーツでも何にでも自分の好きなことに打ち込むことができる風潮があります。私自身、昼はバレーボール、夜は研究という具合に大学・大学院時代は勉強と自分の好きなことを両立させ、充実した日々を過ごしました。現在、会社ではリサイクル技術の研究に従事しております。京都大学でお世話になった6年間は現在の私にとって、研究内容の面では残念ながら少ししか役立っておりませんが、仕事とプライベートの両立、研究に向かう姿勢・考え方という面で非常に役立っております。大学で学んだ学問がそのまま活かせる職業に就けるとは限りません。しかし、研究をする姿勢は、学ぼうとする対象が何であって一生涯に亘って応用できるものです。京都大学を、自分を見つめる場所として大いに活用し、世界に向けて羽ばたく礎として下さい。

学科紹介

資源生物科学科

資源生物科学科は陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を環境との調和を図りながら追求することを目標に研究・教育を行っています。また、このような資源生物を外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ方策を探るとともに、これまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象にした応用研究を多面的に行っています。

資源植物グループ（資源植物の栽培ならびに育種に直接関係する応用及び基礎分野）：作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学

資源動物グループ（資源動物に関する応用及び基礎分野）：動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学

海洋生物グループ（海洋生物に関する応用及び基礎分野）：海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学

生産環境グループ（資源植物の栽培環境及び保護を取り扱う分野）：雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学

応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する（バイオサイエンス）、一方その成果を農・医薬、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する（バイオテクノロジー）ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学（全能性統御機構学）、植物分子生物学（遺伝子特性学）

地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、精密農業による資源循環型社会の構築、自然と人間が共存する知的創造的農村の実現、ロボットやIT利用の未来型農業の追求、太陽エネルギー資源の開発利用など様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、農産加工学

食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活に最も関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料環境政策学、森林・林業政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論

森林科学科

環境の保全に配慮しながら自然資源を有効に利用するため、森林の持続的管理がキーワードになっています。森林科学科では、森林生態系の機能・構造と物質循環を基礎に、森林資源の持続的な生産技術、木材や紙をはじめセルロースや生分解性プラスチックなどさまざまな林業生産物の利用法、水や大気などの保全に果たす森林の役割、さらにこれらの社会科学的评价などをテーマとして、広く森林を取り扱う教育・研究を行っています。

森林利用学、林産加工学、生物材料設計学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生化学、森林生態学、熱帯林環境学、森林・人間関係学、森林生物学、森林水文学、森林育成学、森林情報学、環境デザイン学、山地保全学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学

食品生物科学科

食品生物科学科では、食品を構成する物質の構造と機能、新しい食品機能を持つ物質や遺伝子の探索、疾病を予防する機能や栄養性・安全性などに優れた食品の創成と効率的な生産、並びに地球規模での食環境など、食料全般に関わる諸問題を微生物、植物、動物を対象に研究し、教育を行います。これにより、食料科学の学術の進展のみならず、健康の維持・増進や食料不足の改善など、多様な社会的問題の解決に寄与し、豊かな食生活の確立に貢献することを目指しています。

栄養化学、生体情報応答学、生命有機化学、農産製造学、微生物生産学、酵素化学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、食環境学

全学共通科目（学科推薦科目）

学科	科目
資源生物科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎生物学 A、基礎生物学 B、生化学入門 A、生化学入門 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、生物圏の科学—生命・食糧・環境—、合成及び測定実験
応用生命科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、基礎遺伝学 I、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、分析化学及び環境化学実験、合成及び測定実験、基礎生物学 A
地域環境工学科	数学基礎 A、数学基礎 B、微分積分学 A、微分積分学 B、数理統計、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験
食料・環境経済学科	数学基礎 A、数学基礎 B、確率論基礎、数理統計、基礎情報処理、基礎情報処理演習、環境学 A、環境学 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、生物圏の科学—生命・食糧・環境—、応用数理 A、応用数理 B、人間と数学 A、人間と数学 B、環境科学基礎ゼミナール
森林科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、環境学 A、環境学 B、物理学実験、分析化学及び環境化学実験、基礎生物学 A、基礎生物学 B
食品生物科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、分析化学及び環境化学実験、基礎生物学 A、基礎生物学 B

専門科目

学科	1 年生～	2 年生～	3 年生～	4 年生
資源生物科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、資源生物科学基礎Ⅰ、資源生物科学基礎Ⅱ	資源生物科学概論Ⅰ、資源生物科学概論Ⅱ、資源生物科学概論Ⅲ、資源生物科学概論Ⅳ、分子生物学、遺伝学、生態学、動物生理学、微生物学、植物生理学、応用気象学、生物統計学、資源生物科学基礎実験、土壌学Ⅰ、海洋動物学、栽培技術論と実習、畜産技術論と実習、海洋生物科学技術論と実習Ⅰ、海洋生物科学技術論と実習Ⅱ、海洋生物科学技術論と実習Ⅲ、植物調査法と実習、応用数学、生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、細胞生物学概論、食品安全学Ⅰ	植物遺伝資源学、植物生理学Ⅱ、作物学Ⅰ、育種学Ⅰ、蔬菜園芸学、果樹園芸学Ⅰ、植物生産管理学、栽培システム学Ⅰ、品質科学、動物遺伝育種学、動物生殖学、動物栄養学、生体機構学、資源動物生産学、海洋環境学、海洋生物生態学、海洋微生物学Ⅰ、海洋生物資源学、海洋微生物生態学、雑草学Ⅰ、植物病理学Ⅰ、昆虫生態学Ⅰ、昆虫生理学、熱帯農業生態学、微生物生態学、生物圏情報学Ⅰ、資源生物科学専門外書講義Ⅰ、資源生物科学専門外書講義Ⅱ、資源生物科学専門外書講義Ⅲ、資源生物科学専門外書講義Ⅳ、資源生物科学実験及び実験法Ⅰ、資源生物科学実験及び実験法Ⅱ、作物学Ⅱ、育種学Ⅱ、花卉園芸学、果樹園芸学Ⅱ、家畜ゲノム科学・バイオテクノロジー、動物機能開発学、海洋生物生理学、海洋微生物学Ⅱ、魚類学、海洋生物細胞学、雑草学Ⅱ、昆虫生態学Ⅱ、生態制御学、遺伝学Ⅱ、品質設計開発学、品質評価学、動物栄養機能学、分子形態学、海洋生態学、海洋生体システム利用学、海洋植物学、植物病理学Ⅱ、植物環境ストレス学、土壌学Ⅱ、農業科学、生物圏情報学Ⅱ、分析化学、生物有機化学Ⅱ、分子生物学Ⅰ、分子生物学Ⅱ、分子細胞生物学Ⅰ、分子細胞生物学Ⅱ、食品微生物学、酵素化学	栽培システム学Ⅱ、家畜育種学、環境情報処理論、畜産技術論と実習Ⅱ、食品安全学Ⅱ、資源生物科学特別科目Ⅰ、資源生物科学特別科目Ⅱ、資源生物科学特別科目Ⅲ、資源生物科学特別科目Ⅳ、作物科学演習、園芸科学演習、耕地生態科学演習、品質科学演習、生産管理科学演習、応用動物科学演習Ⅰ、応用動物科学演習Ⅱ、海洋生物資源学演習、海洋微生物学演習、海洋生物生産学演習、資源植物科学演習、植物保護科学演習、生産生態科学演習、課題研究
応用生命科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、応用生命科学入門Ⅰ、応用生命科学入門Ⅱ、応用生命科学入門Ⅲ、応用生命科学入門Ⅳ	細胞生物学概論、生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、有機構造解析学、生物物理学Ⅰ、有機反応機構論Ⅰ、有機反応機構論Ⅱ、応用微生物学Ⅰ、食品安全学Ⅰ	生物物理学Ⅱ、分析化学、生物有機化学Ⅰ、生物有機化学Ⅱ、生物有機化学Ⅲ、一般生体高分子化学、生体高分子構造論、生体触媒化学、応用微生物学Ⅱ、応用微生物学Ⅲ、植物栄養学、植物生化学、分子生物学Ⅰ、分子生物学Ⅱ、分子細胞生物学Ⅰ、分子細胞生物学Ⅱ、醸造食品学概論、基礎生理学、専門外国書講義Ⅰ、専門外国書講義Ⅱ、分析化学実験、生化学実験、分子生物学実験、植物生化学実験、応用微生物学実験、有機化学実験、生物物理化学実験	応用微生物学Ⅳ、栄養化学、食品工学、油脂製造加工並びに食品保蔵論、食品安全学Ⅱ、応用生命科学演習Ⅰ、応用生命科学演習Ⅱ、課題研究
地域環境工学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、地域環境工学概論Ⅰ、地域環境工学概論Ⅱ、地域環境工学演習	応用気象学、地域環境工学基礎、応用数学、応用力学、材料力学、水理学、情報処理学及び演習Ⅰ、情報処理学及び演習Ⅱ、栽培技術論と実習	工業数学C、環境動態学、測量学、土木材料学、構造解析学、土壌物理学、農業水文学、地域整備開発施設学、灌漑排水学、農村計画学、農地整備学、水資源利用学、利水システム工学、生物機械計測学、振動学、熱力学及び伝熱工学、数値計画法、農用エネルギー・動力学、フィールドロボティクス、農産加工機械学、制御工学、機械設計、電気・電子工学、農業機械技術史、農業機械学専門外書講義、作物学Ⅰ、蔬菜園芸学、果樹園芸学Ⅰ、土壌学Ⅰ、農学原論、食料・環境政策学、資源環境経済学、食品工学、砂防学Ⅰ、森林水文学、森林生態学、土木材料・環境地盤工学実験、水理学実験、土壌物理学・水環境工学実験、測量法及び実習、施設機能工学演習、計算水理学演習、農業機械学実験Ⅰ、農業機械学実験Ⅱ、製図(CAD)演習	国土・地域計画、生物圏情報学Ⅰ、生物圏情報学Ⅱ、地域環境工学実習、灌漑排水学演習、農村整備計画演習、農業機械学演習、課題研究
食料・環境経済学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、食料・環境経済学概論、農学基礎社会・経済論	経済原論Ⅰ、経済原論Ⅱ、経済思想史、社会経済史、経済情報処理論、農業発展論、国際農林業概論、資源生物科学基礎Ⅰ	農業組織経営学、農業経営情報会計学、資源環境経済学、食料・環境政策学、林業政策学、国際農村発展論、農業・農村史、農学原論、農企業問題特論、アグリビジネス論、農業資金会計論、資源環境分析学、農林統計学、農産物価格論、林業経済学、農村社会学、専門外国書講義Ⅰ(英語)、専門外国書講義Ⅱ、作物学Ⅰ、土壌学Ⅰ、植物栄養学、農村計画学、水資源利用学、国際森林資源論、熱帯林環境学、花卉園芸学、栄養化学、農地整備学、野生動物保全学、熱帯森林資源学、食環境学、食品安全学Ⅰ、食料・環境経済学特別講義Ⅰ、食料・環境経済学特別講義Ⅱ、農業組織経営学演習Ⅰ、農業経営情報会計学演習Ⅰ、資源環境経済学演習Ⅰ、食料・環境政策学演習Ⅰ、林業政策学演習Ⅰ、国際農村発展論演習Ⅰ、農業・農村史演習Ⅰ、農学原論演習Ⅰ、農業簿記経営調査実習	国土・地域計画、食品安全学Ⅱ、食料・環境経済学特別講義Ⅲ、森林ツーリズム論、農業組織経営学演習Ⅱ、農業組織経営学演習Ⅲ、農業経営情報会計学演習Ⅱ、資源環境経済学演習Ⅱ、資源環境経済学演習Ⅲ、食料・環境政策学演習Ⅱ、食料・環境政策学演習Ⅲ、林業政策学演習Ⅱ、林業政策学演習Ⅲ、国際農村発展論演習Ⅱ、国際農村発展論演習Ⅲ、農業・農村史演習Ⅱ、農業・農村史演習Ⅲ、食料・環境経済学実習、課題研究
森林科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、森林基礎科学Ⅰ、森林基礎科学Ⅱ、森林基礎科学Ⅲ、森林基礎科学Ⅳ	森林科学Ⅰ、森林科学Ⅱ、森林科学Ⅲ、森林科学Ⅳ、応用気象学、森林科学実習Ⅰ、森林科学実習Ⅱ、森林科学実習Ⅲ、森林科学実習Ⅳ、研究林実習Ⅰ	国際森林資源論、森林計画学、造園学Ⅰ、造園学Ⅱ、森林利用学、樹木生理学、森林育成学、森林植物学、森林管理システム及び応用技術論、雪氷学基礎論、森林生態学、群集生態学、森林植物繁殖学、野生動物保全学、熱帯林環境学、熱帯森林資源学、樹木細胞生理学、細胞壁形成論、砂防学Ⅰ、砂防学Ⅱ、森林水文学、森林影響論、生物材料物性学、木構造学、木材加工学Ⅰ、木材加工学Ⅱ、セルロース化学、バイオマス化学、森林生化学Ⅰ、森林生化学Ⅱ、高分子合成化学、バイオマス複合材料化学、生物物理化学、パルプ・紙学、専門外国書講義Ⅰ、コンピュータ利用と森林科学、森林総合実習及び実習法、森林生物学実験及び実験法、森林物理学実験及び実験法、森林基礎化学実験及び実験法、森林利用学実習及び実習法、生態学実験及び実験法、樹木の超微形態観察及び観察法、森林水文・砂防学実験及び実験法、木材工学実験及び実験法、木材加工学実験及び実験法、バイオマス化学実験及び実験法Ⅰ、バイオマス化学実験及び実験法Ⅱ、造園学実習Ⅰ、研究林実習Ⅱ、研究林実習Ⅲ、研究林実習Ⅳ	緑地植物学、専門外国書講義Ⅱ、森林ツーリズム論、緑地計画論、森林有機化学、高分子物性学、バイオマスエネルギー、生物圏情報学Ⅰ、生物圏情報学Ⅱ、木材保存学、木質材料学、住環境学、きのこ学、森林科学特別科目Ⅰ、森林科学特別科目Ⅱ、森林科学特別科目Ⅲ、林業政策学、林業経済学、測量学、水理学、土壌学Ⅰ、土壌学Ⅱ、材料力学、構造解析学、振動学、熱力学及び伝熱工学、応用数学、生体触媒化学、造園学実習Ⅱ、建築設計・製図実習、森林科学演習、生物圏情報学演習Ⅰ、生物圏情報学演習Ⅱ、課題研究
食品生物科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、食品基礎生物学Ⅰ、食品基礎生物学Ⅱ、食品基礎生物学Ⅲ、食品有機化学Ⅰ	食品有機化学Ⅱ、食品物理化学Ⅰ、食品生化学Ⅰ、食品生化学Ⅱ、食品生化学Ⅲ、食品安全学Ⅰ、食品生物科学入門及び実習Ⅰ、食品生物科学入門及び実習Ⅱ	食品有機化学Ⅲ、食品物理化学Ⅱ、食品生化学Ⅱ、食品分子生物学、食品微生物学、食品生理学、酵素化学、生命有機化学、栄養化学、食品工学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、生体情報応答学、微生物生産学、食環境学、品質科学、専門外国書講義Ⅰ、食品生物科学基礎実験及び実験法、有機化学実験及び実験法、食品・栄養化学実験及び実験法、化学工学実験及び実験法、酵素化学・生化学実験及び実験法、微生物学実験及び実験法、生命科学実験及び実験法	専門外国書講義Ⅱ、油脂製造加工並びに食品保蔵論、醸造食品学概論、生体触媒化学、食品安全学Ⅱ、食品生物科学演習、課題研究

平成 16 年度 入学者選抜実施状況 (単位：人)

学部	日程	募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	前期文系	55	200	192	191	55			132
	前期理系	55	177	173	172	57			
	後期	20	366	321	211	20			
文学部	前期	190	629	627	623	193	1		223
	後期	30	430	306	156	31			
教育学部	前期	40	162	162	158	42			63
	後期	20	189	148	106	21			
法学部	前期	300	905	905	892	304			329
	後期	10	411	287	108	25			
経済学部	前期一般	160	573	573	569	161	3		238
	前期論文	50	317	250	238	50			
	後期	20	588	588	392	30			
理学部	前期	271	841	826	814	271	1	1	301
	後期	30	882	869	579	30			
医学部	前期	213	554	473	471	222	11	2	248
	後期	30	397	259	155	35			
薬学部	前期	70	244	243	237	72			84
	後期	10	147	146	102	12			
工学部	前期	857	2323	2322	2291	862	6		957
	後期	98	1006	806	384	101			
農学部	前期	233	670	670	656	242	3		310
	後期	67	743	742	464	71			
小計	前期	2494	7595	7416	7312	2531			
	後期	335	5159	4472	2657	376			
合計		2829	12754	11888	9969	2907	25	3	2885

工学部・農学部学科別内訳 (単位：人)

学部 (学科)	日程	募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学 辞退者数	追加 合格者数	入学者数
工学部	前期	857	2323	2322	2291	862	6		957
	後期	98	1006	806	384	101			
地球工学科	前期	166	449	449		166	3		184
	後期	19	293	231		21			
建築学科	前期	72	272	272		72			80
	後期	8	147	64		8			
物理工学科	前期	211	558	558		213	1		236
	後期	24	181	181		24			
電気電子工学科	前期	117	291	291		118			131
	後期	13	96	91		13			
情報学科	前期	81	185	184		81			91
	後期	9	89	89		10			
工業化学科	前期	210	568	568		212	2		235
	後期	25	200	150		25			
農学部	前期	233	670	670	656	242	3		310
	後期	67	743	742	464	71			
資源生物科学科	前期	75				76			96
	後期	19	166	166		20			
応用生命科学科	前期	38				40	1		50
	後期	9	168	168		11			
地域環境工学科	前期	26				27			38
	後期	11	88	88		11			
食料・環境経済 学科	前期	23				25			34
	後期	9	91	90		9			
森林科学科	前期	45				47	1		59
	後期	12	193	193		13			
食品生物科学科	前期	26				27	1		33
	後期	7	37	37		7			

医学部学科・専攻別内訳 (単位：人)

学部 (学科・専攻)	日程	募集人員	志願者数	第1段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学 辞退者数	追加 合格者数	入学者数
医学部	前期	213	554	473	471	222	11	2	248
	後期	30	397	259	155	35			
医学科	前期	90	352	271		93			103
	後期	10	238	100		10			
保健学科	前期	123	202	202		129	11	2	145
	後期	20	159	159		25			
看護学専攻	前期	63	90	90		68	9	1	70
	後期	7	55	55		10			
検査技術科学 専攻	前期	30	55	55		31	2	1	38
	後期	7	59	59		8			
理学療法学専攻	前期	15	34	34		15			19
	後期	3	28	28		4			
作業療法学専攻	前期	15	23	23		15			18
	後期	3	17	17		3			

外国学校出身者のための選考の実施結果 (外数) (単位：人)

学部	募集人員	志願者数	第1次選考 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法学部	20名以内	32	18	15	7	7
経済学部	10名以内	24	11	8	8	6

※外国学校出身者のための選考については、下記の各学部教務掛にお尋ねください。

法学部第一教務掛 (Tel.075-753-3107) 経済学部教務掛 (Tel.075-753-3406)

平成16年度 出身高校等所在地別 志願者・入学者数 (単位：人)

出身高校等所在地	志願者	入学者	
北海道	171	34	
東北地区	青森県	29	4
	岩手県	20	5
	宮城県	66	13
	秋田県	22	6
	山形県	19	3
	福島県	52	8
	計	208	39
関東地区	茨城県	124	20
	栃木県	61	16
	群馬県	83	13
	埼玉県	171	19
	千葉県	238	27
	東京都	937	119
	神奈川県	298	31
	計	1912	245
中部地区	新潟県	54	9
	富山県	69	25
	石川県	87	29
	福井県	93	21
	山梨県	27	9
	長野県	140	19
	岐阜県	185	42
	静岡県	300	61
	愛知県	697	165
	計	1652	380

出身高校等所在地	志願者	入学者	
近畿地区	三重県	196	50
	滋賀県	334	81
	京都府	1412	330
	大阪府	2228	551
	兵庫県	1369	380
	奈良県	966	268
	和歌山県	197	53
	計	6702	1713
中国地区	鳥取県	66	14
	島根県	40	14
	岡山県	187	46
	広島県	309	78
	山口県	104	29
	計	706	181
	四国地区	徳島県	69
香川県		174	44
愛媛県		133	39
高知県		65	15
計	441	118	
九州地区	福岡県	385	85
	佐賀県	51	9
	長崎県	54	15
	熊本県	86	21
	大分県	26	1
	宮崎県	35	6
	鹿児島県	132	17
	沖縄県	35	7
	計	804	161
	その他 (大学検定等)	158	14

平成16年3月卒業者の産業別就職状況（医学部をのぞく）

産業	学部	総合人間学部		文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		薬学部		工学部		農学部		男子計	女子計	総合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
農業				1														2		3	0	3	
林業																		1		1	0	1	
漁業																				0	0	0	
鉱業																				0	0	0	
建設業		1					1			1							5	2	1	1	8	4	12
製造業	食料品・たばこ						2		1		2								5	3	10	3	13
	繊維工業・衣服				1						2						2		1	2	6	2	8
	印刷・同関連業				3	2			1			1							2		6	3	9
	化学工業・石油	1	1	1			1	8	1	4	1				2	1				2	15	8	23
	鉄鋼・非鉄・金属								3		4						1				8	0	8
	一般機械器具								2								2	1	1		5	1	6
	電気・機械器具	1			1				4	2		1	3					8			17	3	20
	電子・デバイス	2				1			2	1	16	2	1					1			22	4	26
	輸送用機械器具	1	1			1			5	2	6	1						5			17	5	22
	精密機械器具	1			2	2			4	1	1							2		1	1	11	4
その他					4			2	2	1		1					8		2		14	6	20
電気・ガス・水道業				2				6	1	6							3		1		18	1	19
情報通信業		9	1	10	8	4	2	7	2	14	4	6	1				5		1		56	18	74
運輸業		2		3		1	4	12	1	4	1						3	1	1		26	7	33
卸売・小売	卸売業	2	1				1	5	3	8							2		3		20	5	25
	小売業	2			1		1	7	1										1		10	3	13
金融・保険業	金融業	3			2	2	1		22	3	34	3	1				4		3	1	70	9	79
	保険業				1		1		12	1	7	1	3				3			1	27	3	30
不動産業					1			2	2	3							1				6	3	9
飲食店・宿泊業					1				1		1										1	2	3
医療・福祉	医療・保健衛生																				0	0	0
	社会保険福祉介護				1																0	1	1
教育学習支援	学校教育	1	2	2	3	3	1					1									7	6	13
	その他	2		6	1	1	1	1	1	1		6					2		1		20	3	23
複合サービス事業												1				10					10	1	11
サービス業	法務								1												0	1	1
	学術・開発研究								2								1	1	1		2	3	5
	宗教									1									1		2	0	2
	その他	6	2	2	6	3	2	12	1	16	8	4					29	2	5	2	77	23	100
国家公務		1	1		1	1		48	12	5	1					2		2	1	59	16	75	
地方公務		2	1	2	8		3	22	8	7	2	2				5	2	2		42	24	66	
上記以外										4	1				1	42	2			46	4	50	
総合計			48		81		34		237		175		30		3		158		52		642	176	818
男子計	女子計	37	11	40	41	17	17	188	49	147	28	28	2	0	3	147	11	38	14				

入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法について

入学者選抜要項の請求方法

入学者選抜に関する概要を記載した選抜要項は、7月中旬(予定)から配付します。

郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、240円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号332mm×240mm)を同封の上、志望する学部の教務掛あてに「選抜要項請求」と朱書きして申し込んでください。

京都大学のHP(<http://www.kyoto-u.ac.jp/>)にも掲載いたします。

学生募集要項の請求方法

入学者選抜に関する細目を記載した学生募集要項は、12月中旬(予定)から配付します。

①大学へ請求する方法(12月中旬から請求可能)

○学生募集要項のみ請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、390円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号332mm×240mm)を同封の上、志望する学部の教務掛あてに「学生募集要項請求」と朱書きして申し込んでください。

○学生募集要項及び総合人間学部、工学部、農学部を志望する方で学部案内を請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、580円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号332mm×240mm)を同封の上、志望する学部の教務掛あてに「学生募集要項・総合人間学部案内請求」、「学生募集要項・工学部案内請求」、「学生募集要項・農学部案内請求」と朱書きして申し込んでください。

②郵便局から請求する方法

(10月から請求可能:12月中旬から送付)

郵便局や高等学校等に10月から設置される「請求申込書」(大学願書ゆうパックカタログ)に必要事項を記入し、最寄りの郵便局に学生募集要項のみ請求する場合は送料390円と手数料70円を添えて申し込んでください。

③テレメールで請求する方法

(9月から請求可能:12月中旬から送付)

○テレメール(電話)

次の最寄りの地区に電話をして、6桁の資料番号をダイヤルし、音声ガイダンスに従って操作してください。

東京(03)3222-0102 名古屋(052)222-0203

大阪(06)6222-0102 福岡(092)433-0102

○テレメール(インターネット)

<http://telemail.jp> (携帯電話からもアクセスできます)

上記サイトから請求してください。

資料名	資料番号	送料
学生募集要項	584603	390円

QRコード

※対応する携帯電話で読み取れます。



送料は、資料請求によりお手元に届いた資料に同封されている支払い方法に従いお支払いください。

なお、手数料として70円が必要となります。

郵便局・テレメールでの請求についての問い合わせ先:

全国学校案内資料管理事務センター 大阪(06)6231-5992

入学者選抜要項・学生募集要項の請求先

学部	担当掛	電話番号	所在地	URL
総合人間学部	教務掛	075-753-6507	〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町	http://www.h.kyoto-u.ac.jp/
文学部	第一教務掛	075-753-2709	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html
教育学部	教務掛	075-753-3010		http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/
法学部	第一教務掛	075-753-3107		http://kyodai.jp/
経済学部	教務掛	075-753-3406		http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/
理学部	第二教務掛	075-753-3637	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.sclib.kyoto-u.ac.jp/kusci/index-j-top.html
医学部	医学科	教務掛	〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町	http://www.med.kyoto-u.ac.jp/
	保健学科	教務掛	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53	http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/
薬学部	教務掛	075-753-4514	〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町	http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/
工学部	教務掛	075-753-5039	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/
農学部	第一教務掛	075-753-6012	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/

入試に関する問い合わせ先

担当部課	電話番号	所在地
学生部入試課入学試験掛	075-753-2521	〒606-8501 京都市左京区吉田本町

キャンパス案内

吉田キャンパス



北部構内

- 農学部, 農学研究科 ①
- 理学部, 理学研究科 ②
- 生命科学研究所
- 基礎物理学研究所
- 数理解析研究所

本部構内

- 文学部, 文学研究科 ③
- 経済学部, 経済学研究科 ④
- 法学部, 法学研究科 ⑤
- 教育学部, 教育学研究科 ⑥
- 工学部, 工学研究科 ⑦
- 情報学研究科
- 地球環境学堂・学舎
- 経済研究所
- エネルギー科学研究所
- 環境保全センター
- 国際融合創造センター
- 学術情報メディアセンター(北館)
- ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
- インフォメーション・センター ⑧

吉田南構内

- 総合人間学部 ⑨
- 人間・環境学研究科
- 高等教育研究開発推進センター
- 学術情報メディアセンター(南館)

医学部構内

- 医学部医学科, 医学研究科 ⑩
- 放射性同位元素総合センター
- 放射線生物研究センター

病院構内

- 医学部附属病院

薬学部構内

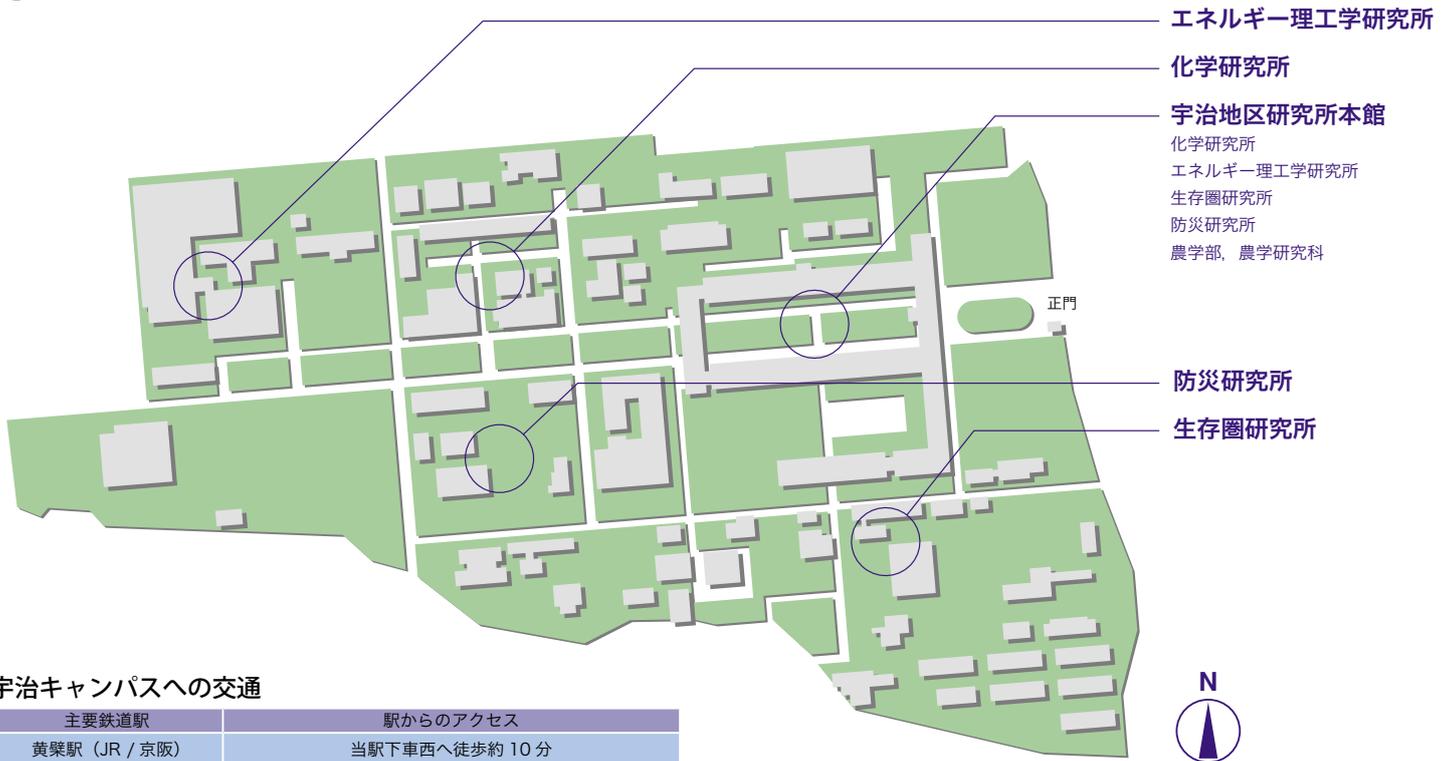
- 薬学部, 薬学研究科 ⑪
- 医学部保健学科 ⑫
- ウイルス研究所
- 再生医学研究所
- 遺伝子実験施設

吉田キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの所要時間※	下車バス停
京都駅(JR/近鉄)	市バス	京都駅前	206系統	「東山通 北大路バスターミナル」行	約35分	「京大正門前」又は「百万遍」、医・薬は「近衛通」
			17系統	「河原町通 錦林車庫」行	約35分	「百万遍」、理・農は「京大農学部前」、薬は「荒神口」
河原町駅(阪急)	市バス	四条河原町	201系統	「祇園・百万遍」行	約25分	「京大正門前」又は「百万遍」、医・薬は「近衛通」
			31系統	「高野・岩倉」行	約25分	
			17系統	「河原町通 錦林車庫」行	約25分	「百万遍」、理・農は「京大農学部前」、薬は「荒神口」
今出川駅(地下鉄烏丸線)	市バス	烏丸今出川	3系統	「百万遍 北白川仕伏町」行	約25分	「百万遍」、薬は「荒神口」
			203系統	「銀閣寺道・錦林車庫」行	約15分	「百万遍」、理・農は「京大農学部前」
			201系統	「百万遍・祇園」行	約15分	「京大正門前」又は「百万遍」、医・薬は「近衛通」
東山駅(地下鉄東西線)	市バス	東山三条	206系統	「高野 千本北大路」行	約20分	「京大正門前」又は「百万遍」、医・薬は「近衛通」
			201系統	「百万遍・千本今出川」行	約20分	
			31系統	「修学院・岩倉」行	約20分	
出町柳駅(京阪)	徒歩	(東へ)			約20分	文・教育・法・経済・工は、当駅から徒歩約15分、総人・理・農は徒歩約20分
	市バス	出町柳駅	201系統	「祇園・みふ」行	約10分	「百万遍」又は「京大正門前」、医・薬は「近衛通」
丸太町駅(京阪)	徒歩	(東へ)			約10分	「百万遍」、理・農は「京大農学部前」
					17系統	「錦林車庫」行

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

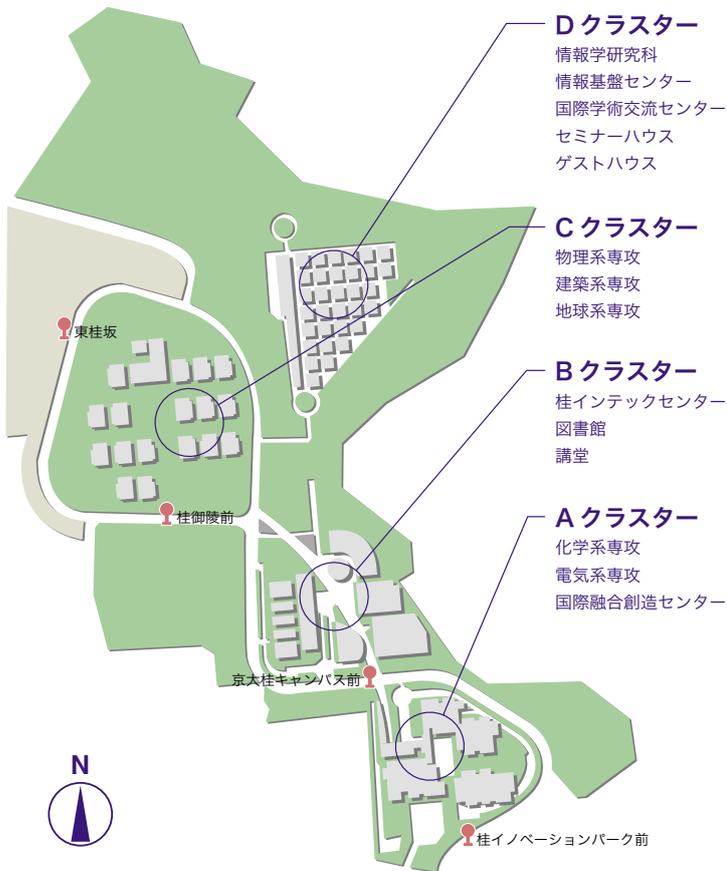
宇治キャンパス



宇治キャンパスへの交通

主要鉄道駅	駅からのアクセス
黄檗駅 (JR / 京阪)	当駅下車西へ徒歩約 10 分

桂キャンパス (一部計画中の施設を含む)

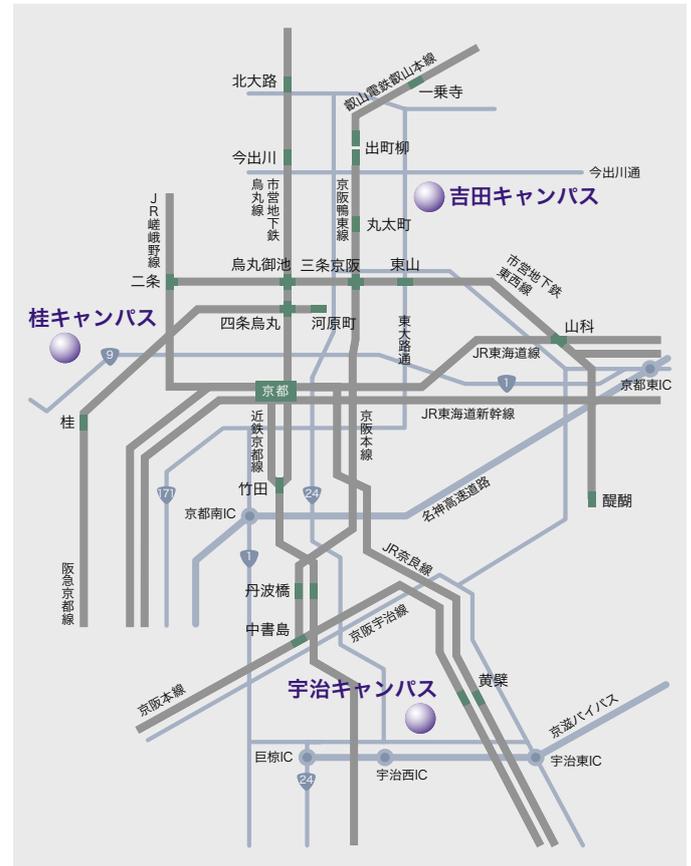


桂キャンパスへの交通

主要鉄道駅	乗車バス停	乗車バス系統	経路	下車バス停
桂駅 (阪急)	桂駅西口	市バス 西 6 系統 京都交通	「桂坂中央」行 「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 17 分)

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

京都大学キャンパス配置図





発行：平成 16 年 7 月

京都大学学生部入試課

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL. 075-753-2523 (企画調査掛)

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>